平成２５年度
伊達市　子育て支援に関する
調査結果報告書

平成２６年４月

伊達市

目　次

第１章　調査の概要 1
１　調査の目的 1
２　調査の設計 1
３　回収結果 2
４　報告書を読むにあたって 2

第２章　就学前児童調査結果 3
１　回答者および対象児童の属性 5
２　子どもの育ちをめぐる環境について 9
３　保護者の就労状況について 13
４　平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について 21
５　地域の子育て支援事業の利用状況等について 29
６　土曜・休日等の定期的な教育・保育事業の利用希望について 35
７　病気の際の対応について 40
８　一時預かり等の利用について 45
９　小学校就学後の放課後の過ごし方について 51
１０　職場との両立支援制度について 58
１１　伊達市における子ども・子育て支援を取り巻く状況について 68

第３章　小学生児童調査結果 81
１　回答者および対象児童の属性 83
２　子どもの育ちをめぐる環境について 87
３　保護者の就労状況について 91
４　放課後の過ごし方について 98
５　伊達市における子ども・子育て支援を取り巻く状況について 107

第１章　調査の概要

1　調査の目的

昨今の急速な少子化の進行など子育てをめぐる現状や課題の解決を目指し、平成24 年８月に子ども・子育て関連３法が成立しました。その中で、市町村は平成 27 年度～31 年度を計画期間とする市町村子ども・子育て支援事業計画を策定し、子ども・子育て支援事業を計画的に整備していくこととされました。

本調査は、伊達市子ども・子育て支援事業計画（仮称）の策定に向けて「量の見込み」を算出するために、就学前児童および小学生児童の教育・保育事業の利用状況や今後の利用意向など、子育て支援に関する市民ニーズ等を把握し、基礎資料を得ることを目的としています。

2　調査の設計

（１）調査対象

伊達市在住の就学前児童および小学生児童を持つ保護者

（２）抽出方法

住民基本台帳からの系統抽出

（３）調査時期

平成２６年３月

（４）調査方法

保育所（園）、小学校を通じた配布・回収および郵送による配布・回収

3 回収結果

調査種別	配布数	有効回収数	有効回収率
就学前児童	1,000 票	382 票	38.2%
小学生児童	1,000 票	387 票	38.7%

4 報告書を読むにあたって

（1）調査結果の%表記については、小数第２位を四捨五入した値であるため、単数回答でも合計が必ずしも 100%になるとは限りません。

（2）複数回答の質問は、回答数を 100%として各選択肢の%を算出しているため、合計は 100%を超えています。

（3）図表中のｎは回答数を示しています。

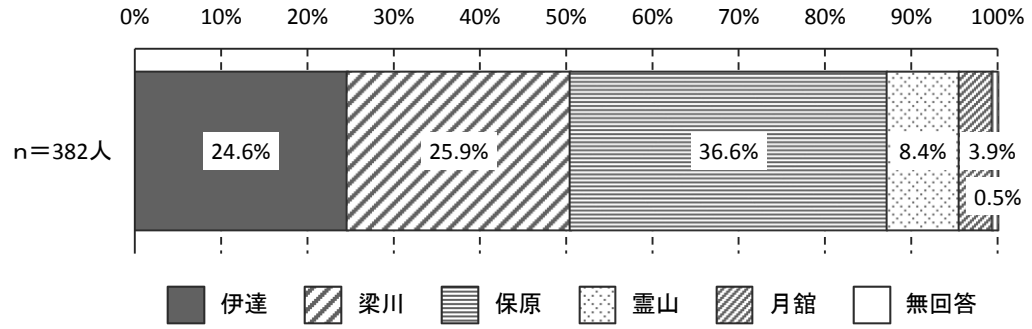
（4）図表中では、スペースの都合で選択肢名などを一部省略している場合があります。

（5）児童の年齢は平成２６年３月を基準として算出しています。

第2章　就学前児童調査結果

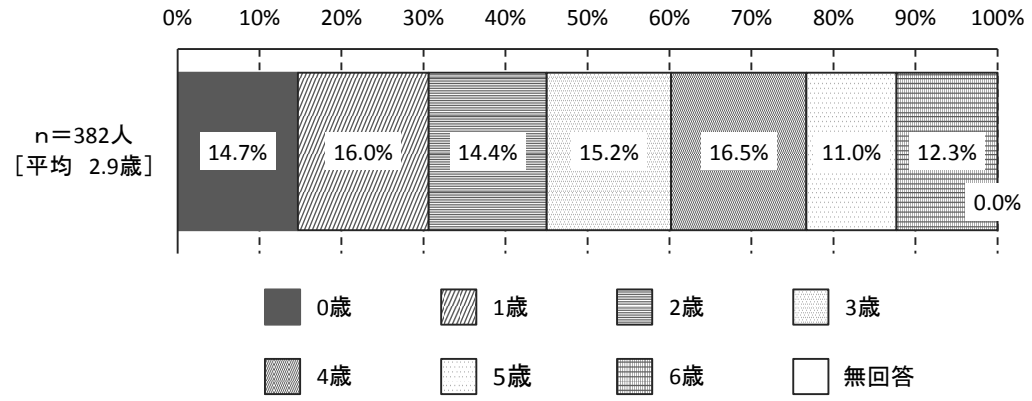
1　回答者および対象児童の属性

（1）居住地区



回答者の居住地区の構成をみると、「霊山」が 36.6%と最も多く、ついで「梁川」（25.9%）と「伊達」（24.6%）が２割台で続いています。

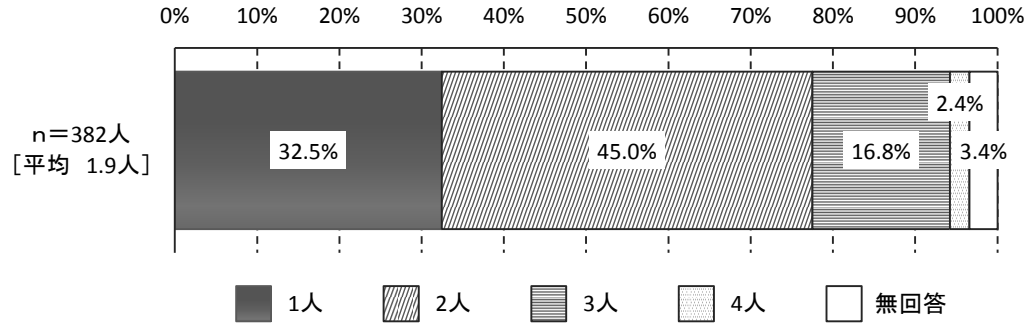
（2）対象児童の年齢



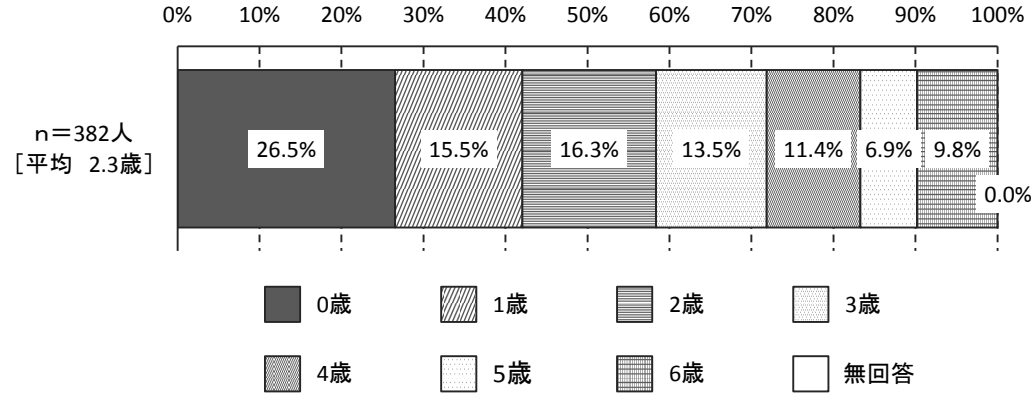
回答者の対象児の年齢構成をみると、「１歳」（16.0%）と「４歳」（16.5%）がやや多くなっています。

（3）対象児童のきょうだいの状況

■きょうだいの人数



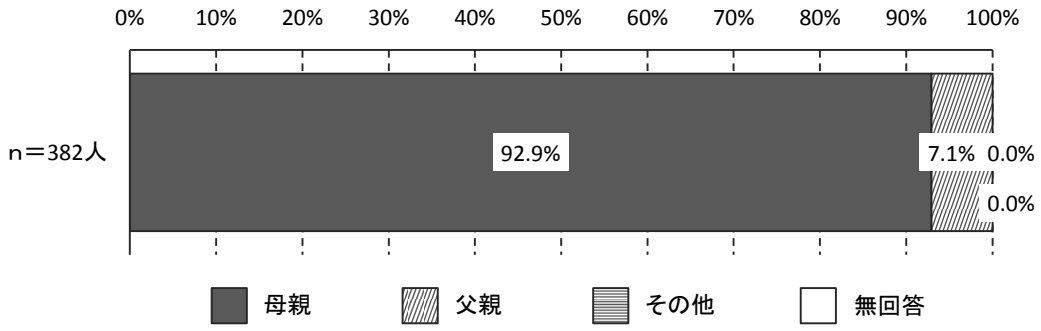
■末子の年齢



回答者の対象児のきょうだいの人数をみると、「２人」（45.0%）が半数近くを占めて最も多く、ついで「１人」（32.5%）が３割強で続き、平均すると 1.9 人となっています。

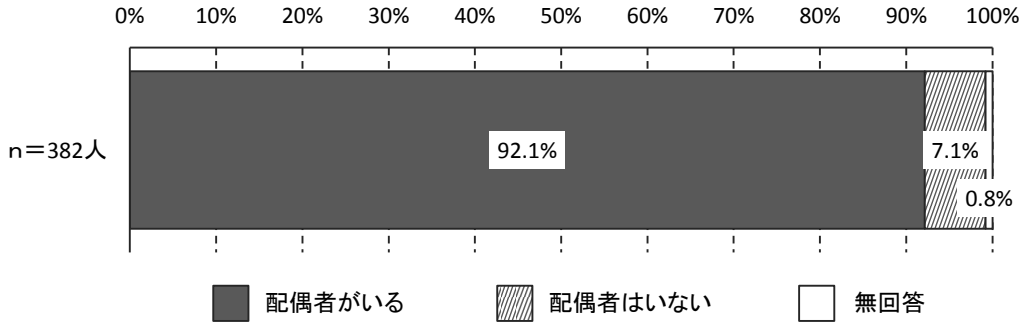
調査対象児を含めた末子の年齢をみると、「０歳」が 26.5%と最も多く、ついで「２歳」が 16.3%、「１歳」が 15.5%と“２歳以下”が多くなっています。

（4）調査票の回答者



調査票への回答者をみると、「母親」が 92.9%と回答者の９割を超えています。

（5）回答者の配偶関係



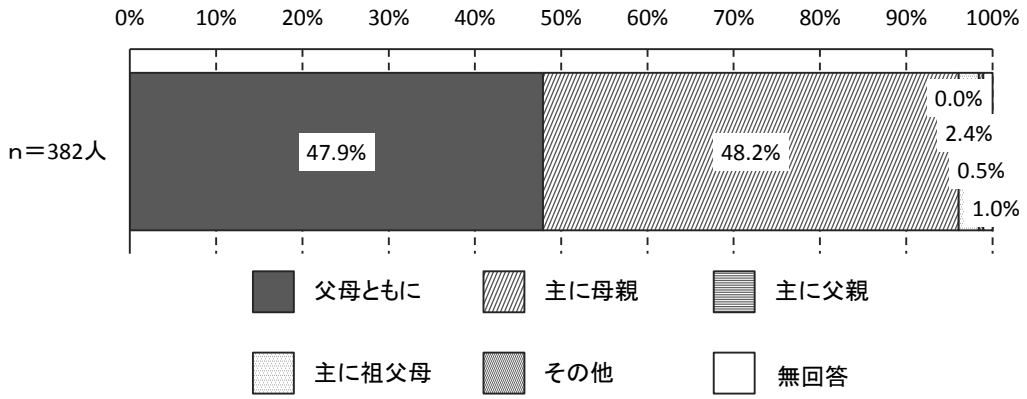
【調査票の回答者別の配偶関係】

	配偶者がいる	配偶者はいない	無回答
全体(n＝382 人)	92.1%	7.1%	0.8%
母親（n＝355 人）	91.8%	7.6%	0.6%
父親（n＝27 人）	96.3%	0.0%	3.7%

回答者の配偶関係をみると、回答者の 92.1%が「配偶者がいる」としており、調査票回答者別にみると、母親が回答している場合は 91.8%、父親が回答している場合は 96.3%が「配偶者がいる」としています。

母子家庭・父子家庭からの回答はともに１割以下となっています。

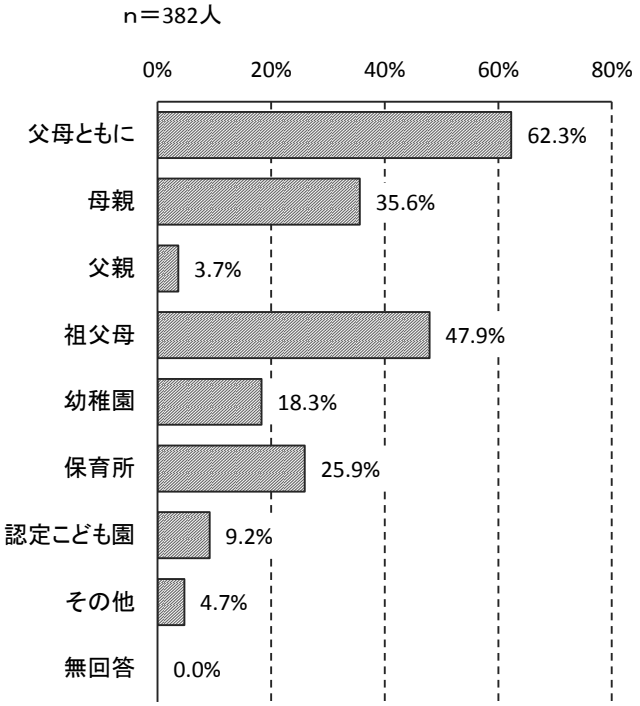
（6）主な子育て者



子育てを主に行っている方としては、「主に母親」（48.2%）と「父母ともに」（47.9%）がともに半数近くを占めています。

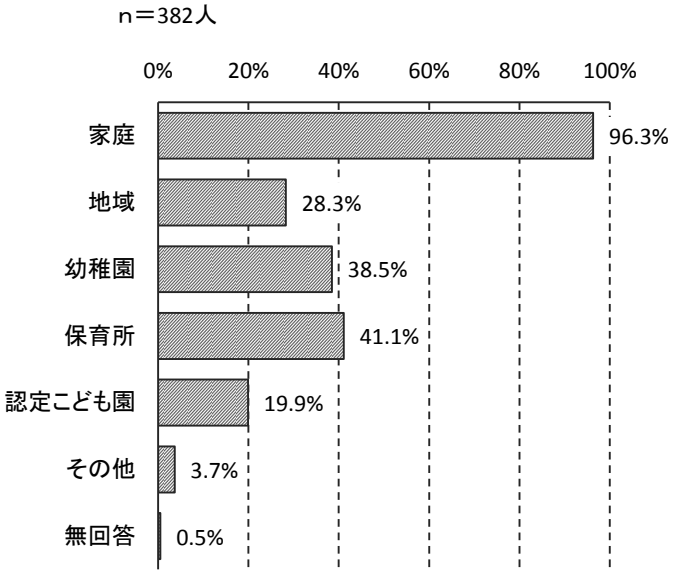
2　子どもの育ちをめぐる環境について

（1）子育てに日常的に関わっている人・施設



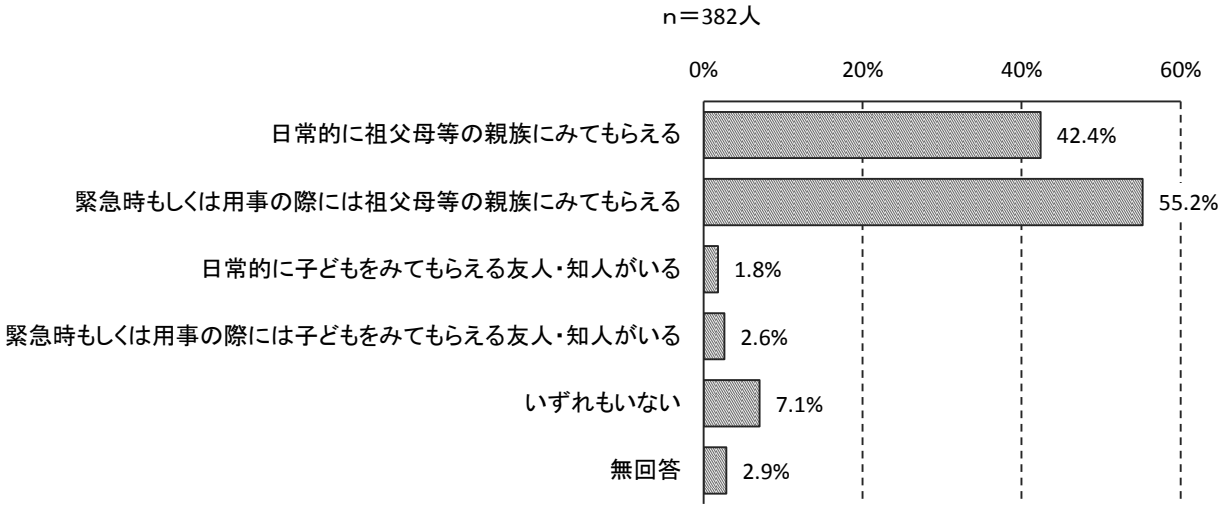
子育てに日常的に関わっている人や場所としては、「父母ともに」が 62.3%で最も多く、ついで「祖父母」が 47.9%となっており、半数近くの回答者の家庭では祖父母が子育てに関わっているとしています。

（2）子育てに最も影響すると思う環境



子育てに最も影響する環境については、「家庭」が 96.3%と圧倒的に多くなっています。ついで「保育所」（41.1%）と「幼稚園」（38.5%）などの教育・保育施設が４割前後で続き、「地域」への回答も 28.3%と、地域の子育てへの影響を重視する回答も３割近くを占めています。

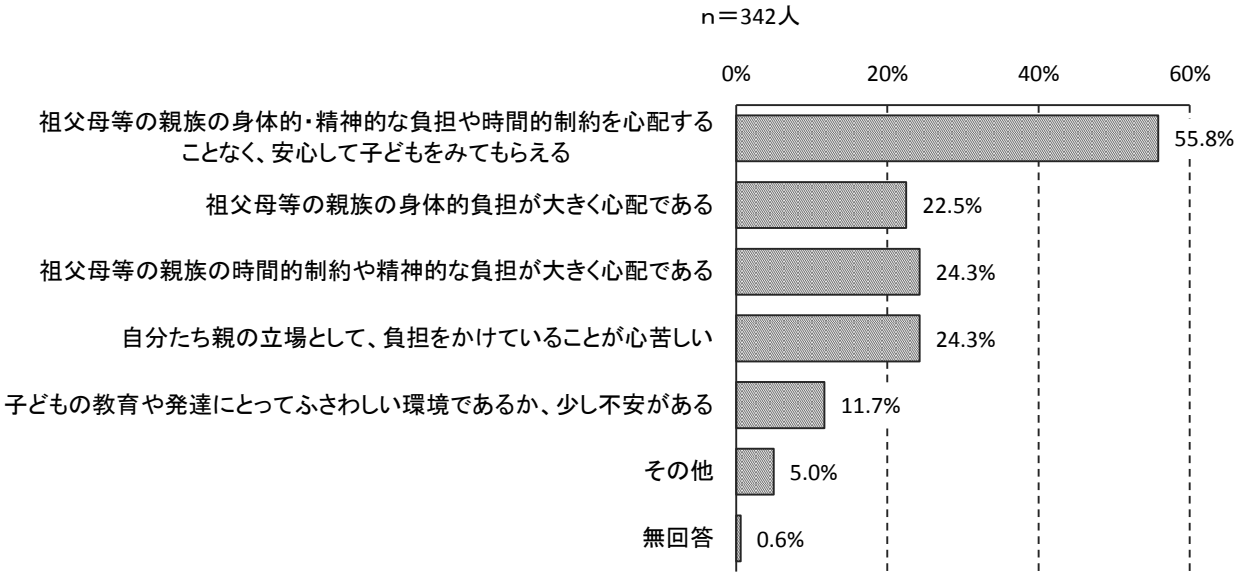
（3）日頃、子どもをみてもらえる親族・知人



日頃子どもをみてもらえる親族・知人の状況をみると、55.2%と半数以上は「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」としています。

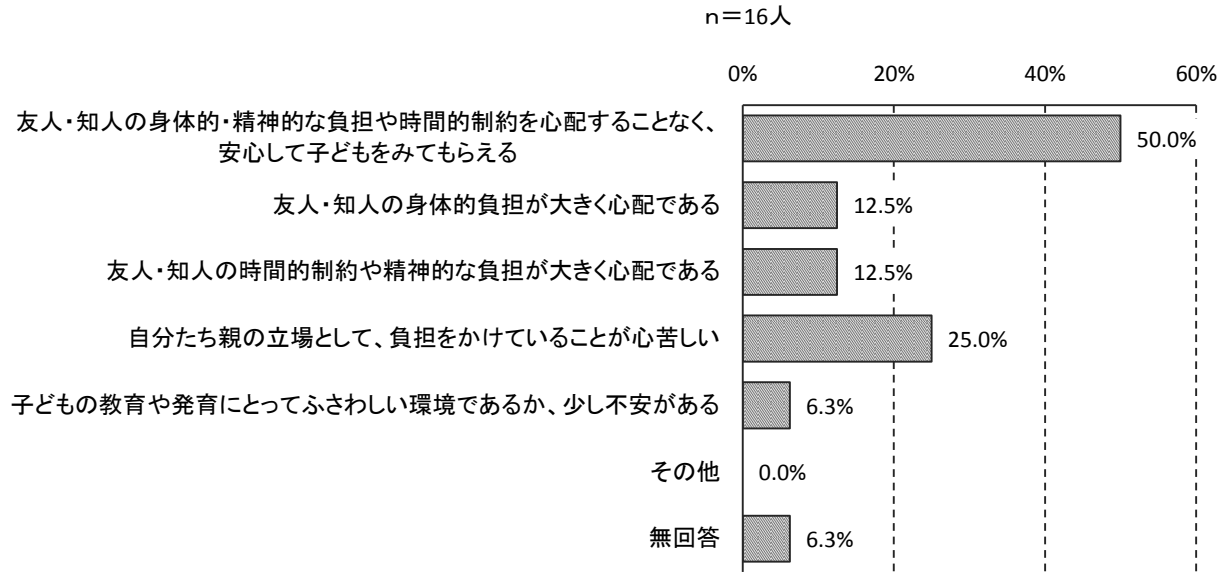
また、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」（42.4%）との回答も４割を超えています。

■祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況について



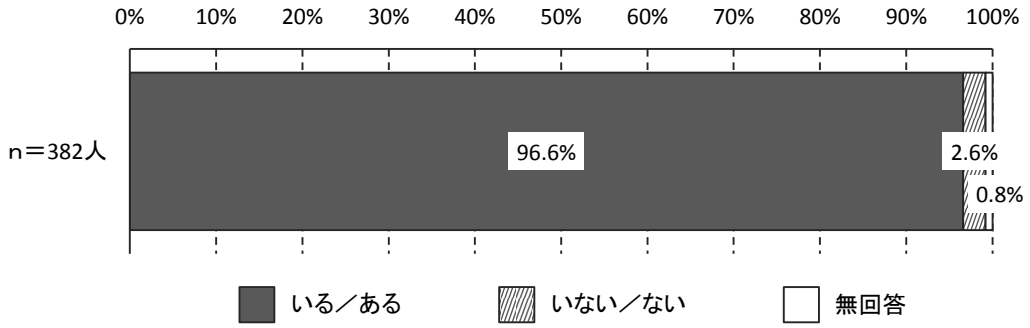
祖父母等の親族に子どもをみてもらえると回答した方に、子どもをみてもらうことの負担感や困難度を聞くと、55.8%と６割近くは「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」としています。

■友人･知人にお子さんをみてもらっている状況について



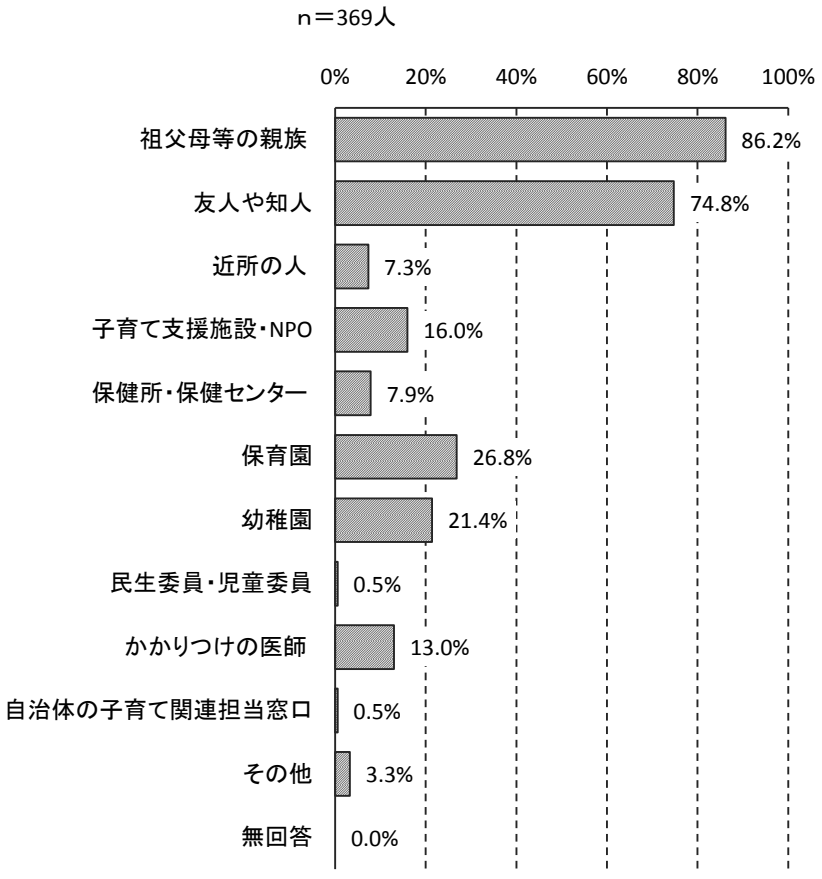
友人・知人等に子どもをみてもらえるという方は 16 人でしたが、友人や知人に子どもをみてもらうことの負担感や困難度について聞くと、半数の方は「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と気軽に友人や知人に子どもをみてもらえるとしています。

（4）子育てを気軽に相談できる人・場所



子育てに関して気軽に相談できる場所や人の有無について聞くと、96.6%とほぼすべての回答者が「いる／ある」としています。

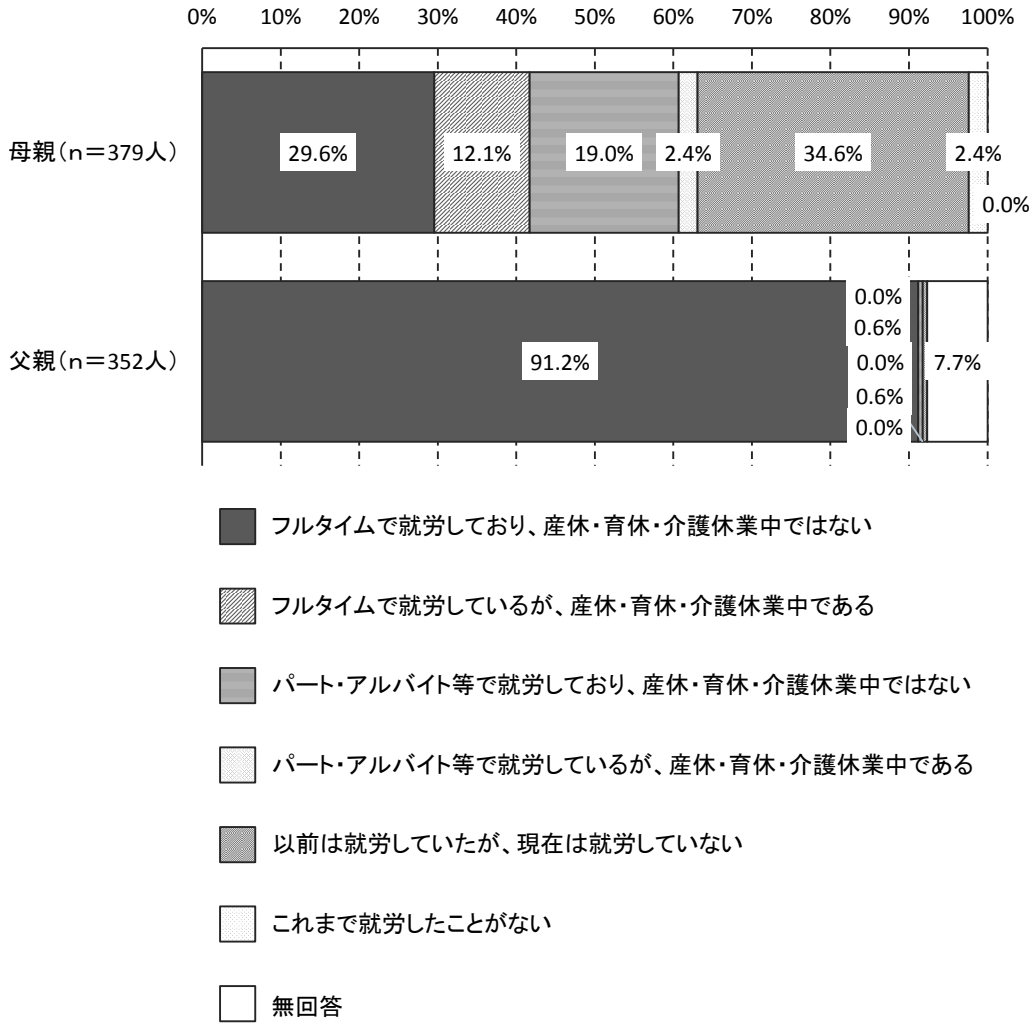
■具体的な相談先



相談できる場所や人が「いる/ある」という回答者に具体的な相談先について聞くと、「祖父母等の親族」（86.2%）と「友人や知人」（74.8%）が突出して多くなっています。

3　保護者の就労状況について

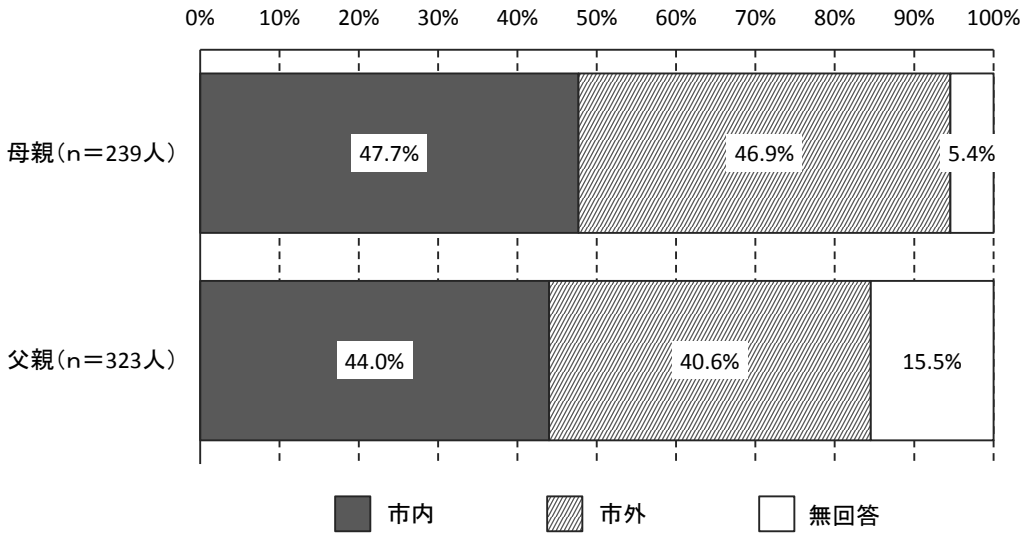
（1）保護者の現在の就労状況



保護者の就労状況についてみると、母親では「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（29.6%）と「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（19.0%）をあわせると、半数近くが何らかの形で就労しているとしています。

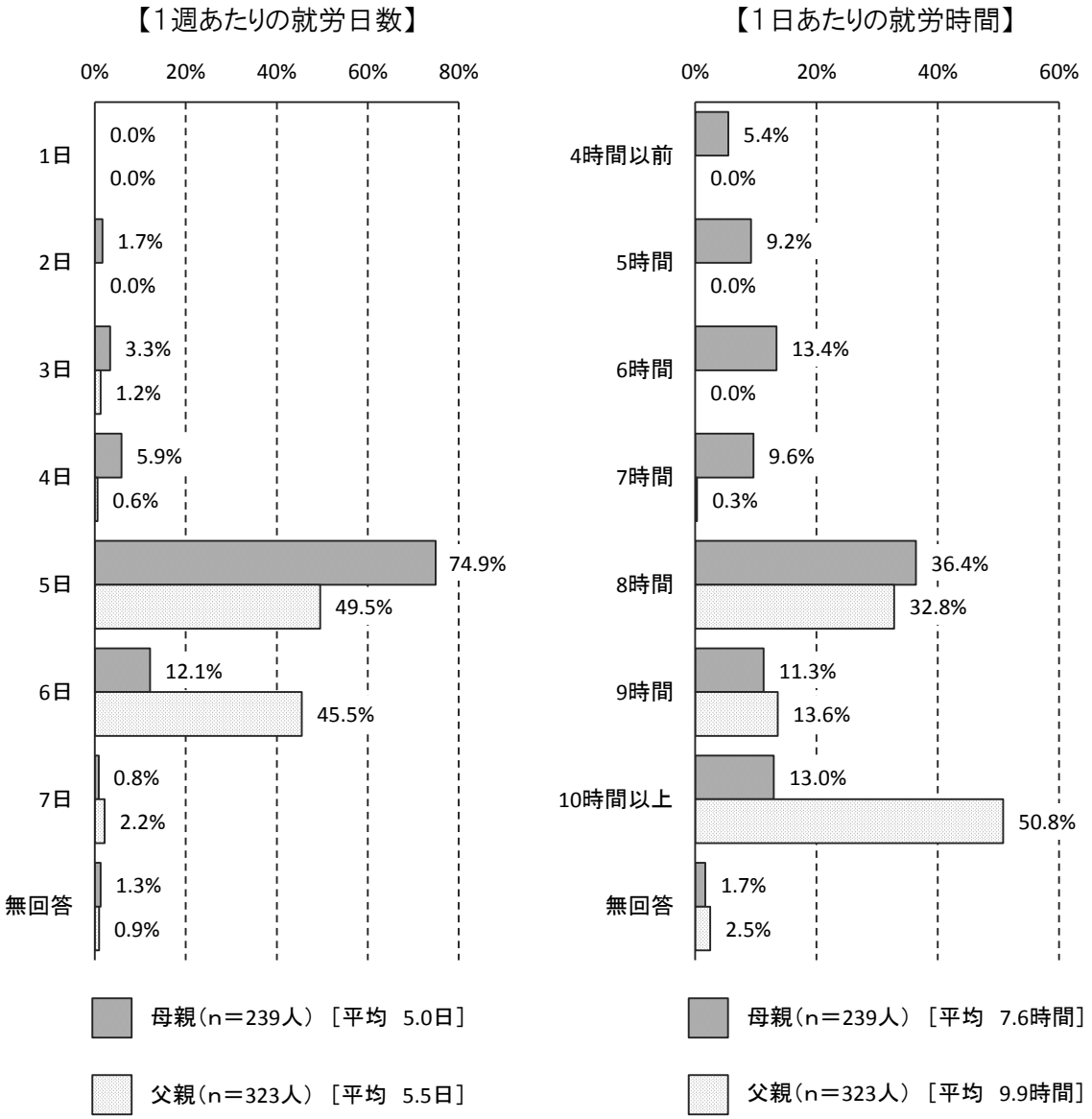
父親では、フルタイムとパート・アルバイトをあわせて、９割以上が現在何らかの形で就労しています。

■現在就労している保護者の勤務地



現在就労している保護者（産休・育休・介護休業中の方も含む）の勤務地をみると、父母ともに「市内」と「市外」がほぼ同じ割合となっていますが、わずかに「市内」が多くなっています。

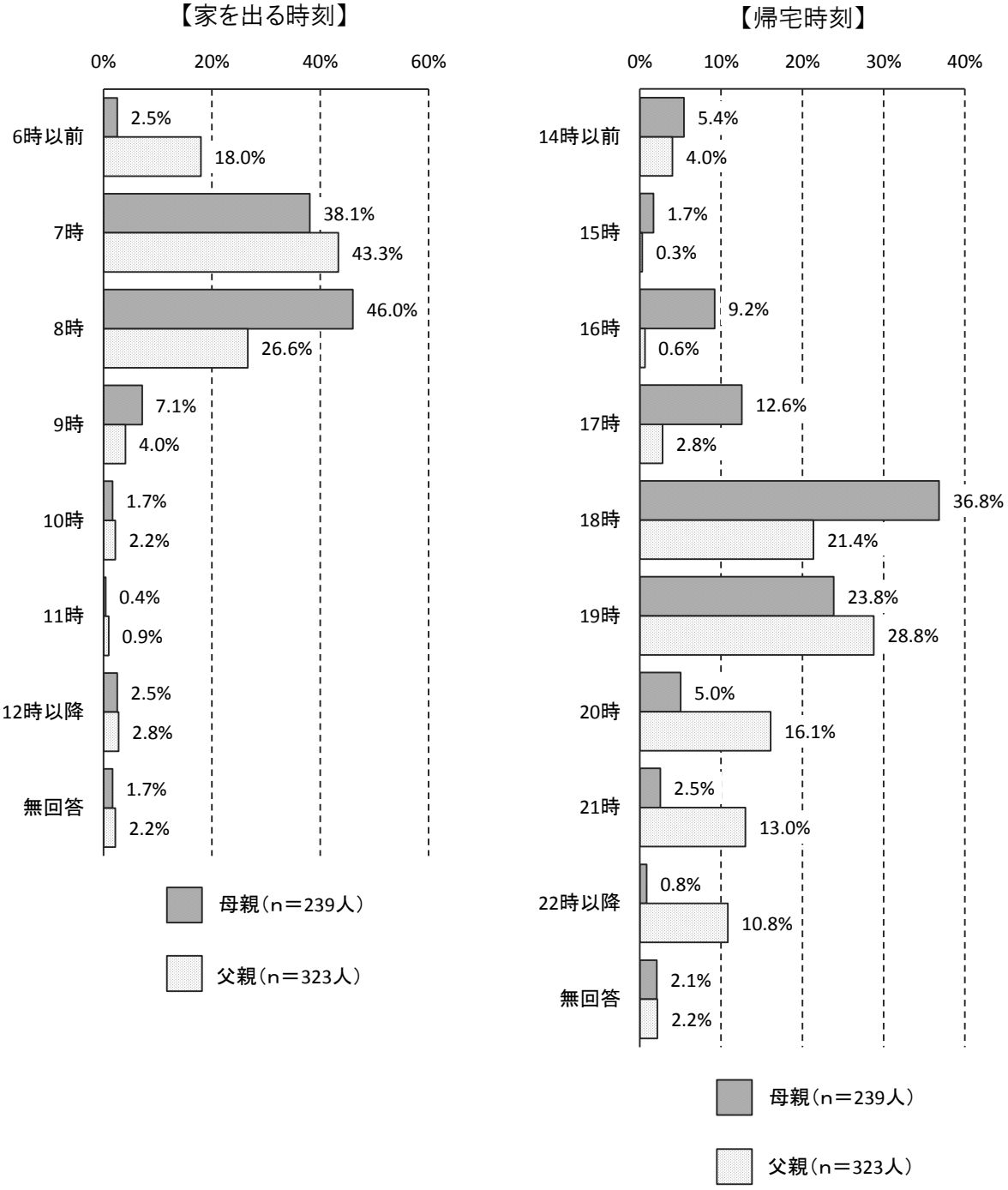
■現在就労している保護者の就労日数と就労時間



現在就労している保護者の就労日数と就労時間についてみると、就労日数は父母ともに「5日」が最も多くなっていますが、父親では「6日」という回答も45.5%と半数近くを占めています。

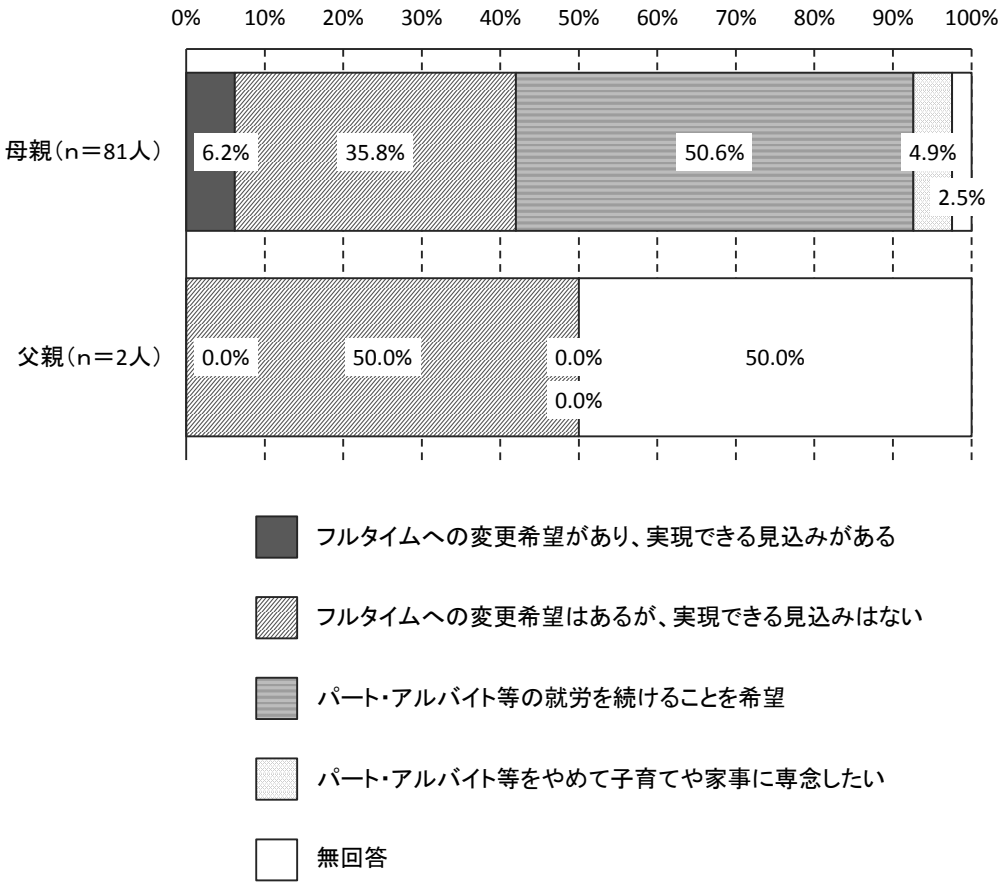
就労時間は、母親では「8時間」が最も多く、父親では「10時間以上」（50.8%）が半数を占めています。

■家を出る時刻と帰宅時刻



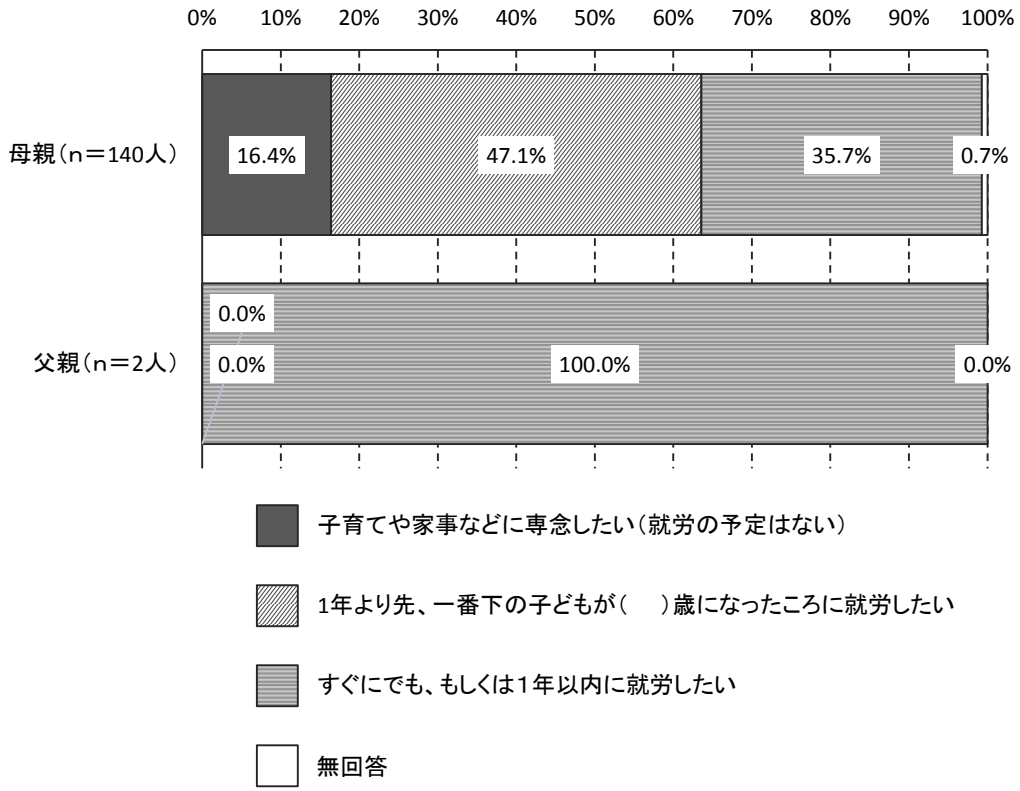
現在就労している保護者の家を出る時刻と帰宅時刻についてみると、家を出る時刻は母親では「８時」が 46.0%と最も多く、「７時」（38.1%）も４割近くを占めています。父親では「７時」が 43.3%と最も多く、「６時以前」（18.0%）という回答も２割近くみられます。

（2）ﾊﾟｰﾄ・ｱﾙﾊﾞｲﾄ等で就労している保護者のフルタイムへの変更希望



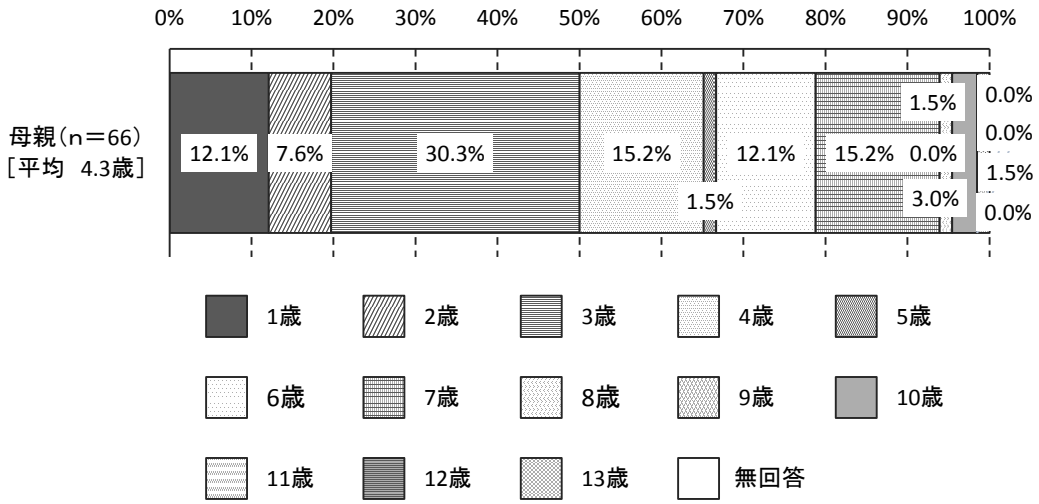
パート等で就労している保護者に対して、フルタイムへの変更希望があるかどうについて聞いたところ、母親では「フルタイムへの変更希望があり、実現できる見込みがある」は 6.2%、「フルタイムへの変更希望はあるが、実現できる見込みはない」が 35.8%で、あわせると４割以上がフルタイムへの変更希望があるとしています。

（３）未就労の保護者の就労希望



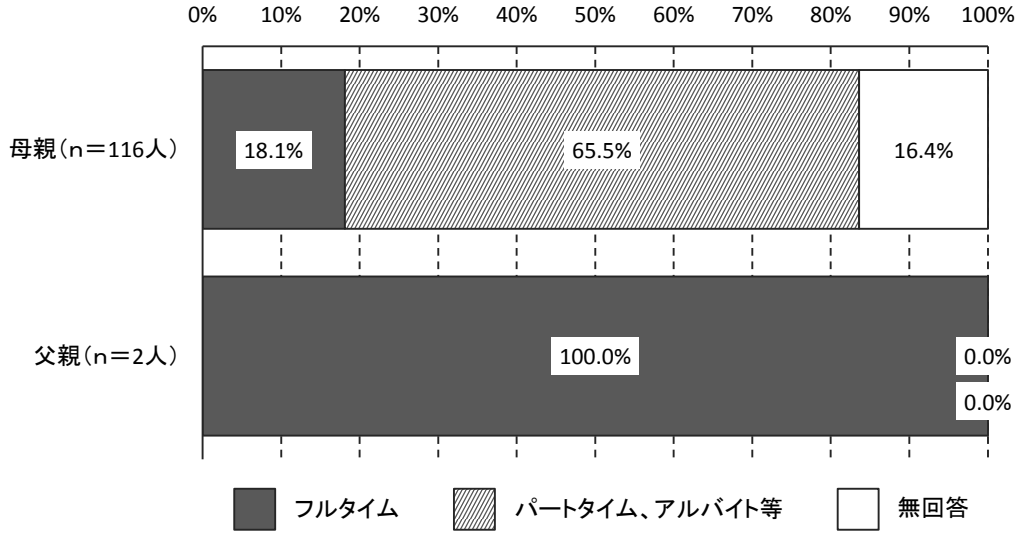
現在就労していない保護者の就労希望についてみると、母親の半数近くが「1 年より先、一番下の子どもが（　）歳になったころに就労したい」としていますが、３人に１人以上は「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」と強い就労意向を示しています。

■就労を希望する子どもの年齢



子どもが一定の年齢に達したら就労したいという回答者の、就労の目安となる子どもの年齢についてみると、「３歳」（30.3%）が３割を占めて最も多く、ついで「４歳」と「７歳」がともに 15.2%で続き、平均すると 4.3 歳が就労の目安となる子どもの年齢となっています。

■希望する就労形態

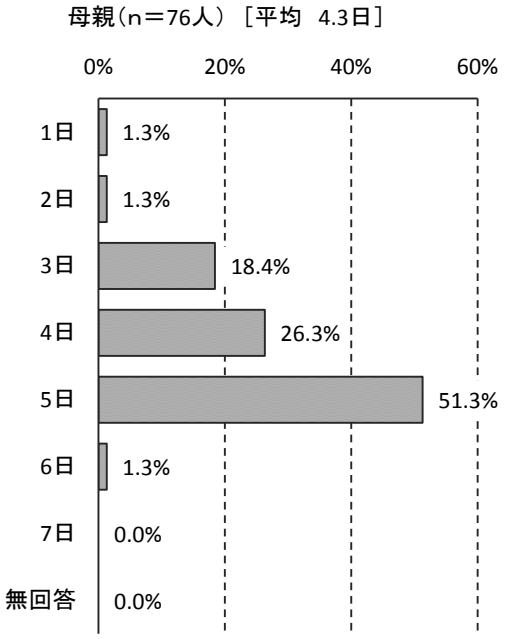


現在就労していない保護者の希望する就労形態についてみると、母親の約３人に２人は「パートタイム、アルバイト等」としています。

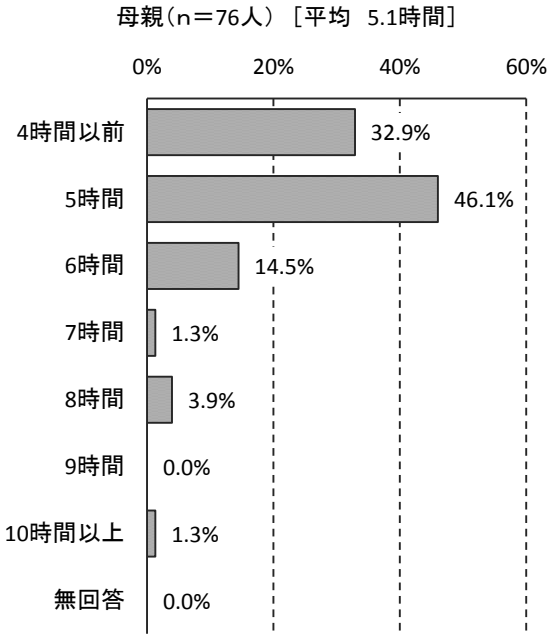
父親では２人とも「フルタイム」としています。

■希望する就労形態の就労日数と就労時間

【1週あたりの希望就労日数】



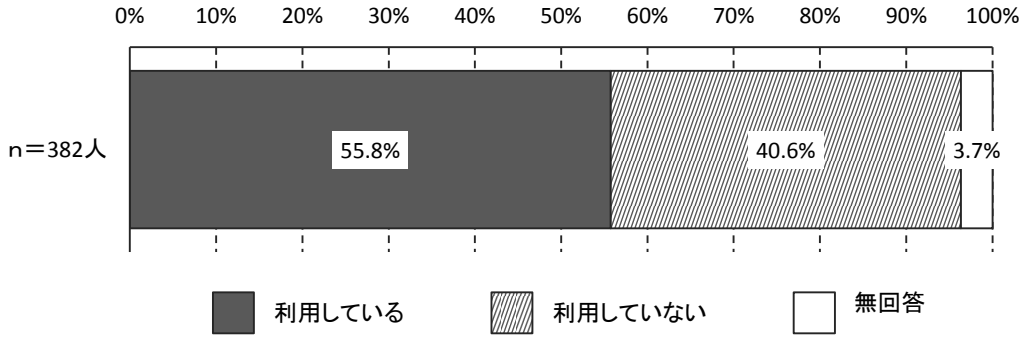
【1日あたりの希望就労時間】



母親の希望する就労日数としては「５日」（51.3%）、就労時間は「５時間」（46.1%）が最も多くなっています。

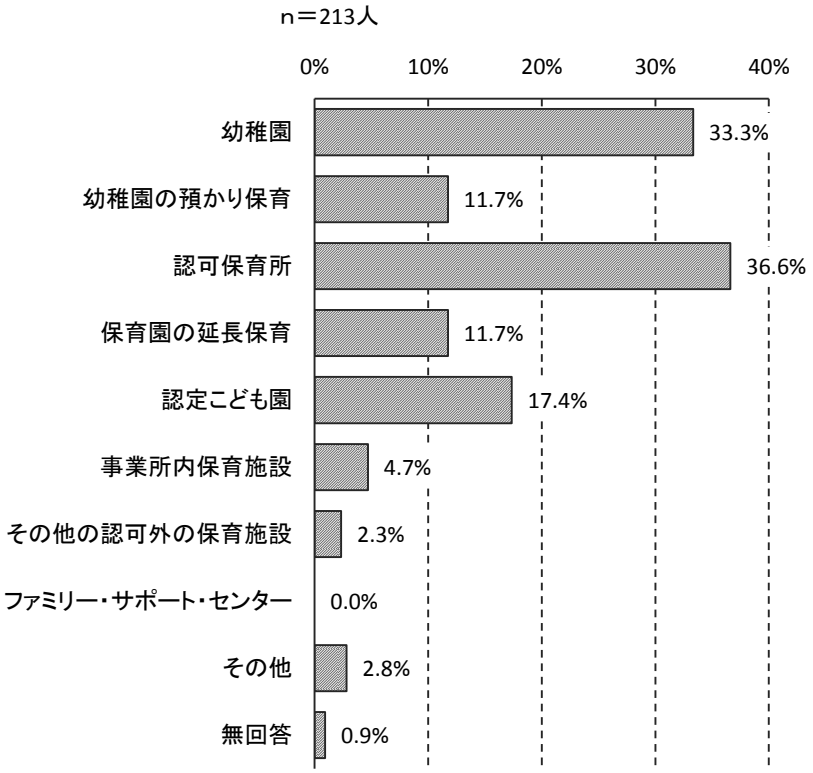
4　平日の定期的な教育･保育事業の利用状況について

（1）平日の定期的な教育・保育事業の利用状況



平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無についてみると、「利用している」が55.8%、「利用していない」は40.6%となっています。

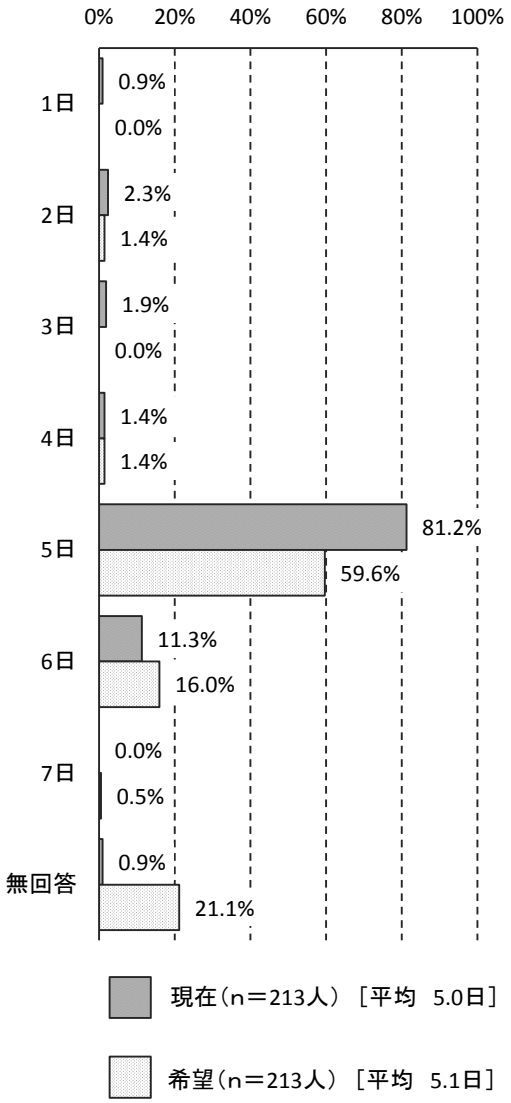
■利用している平日の定期的な教育・保育事業



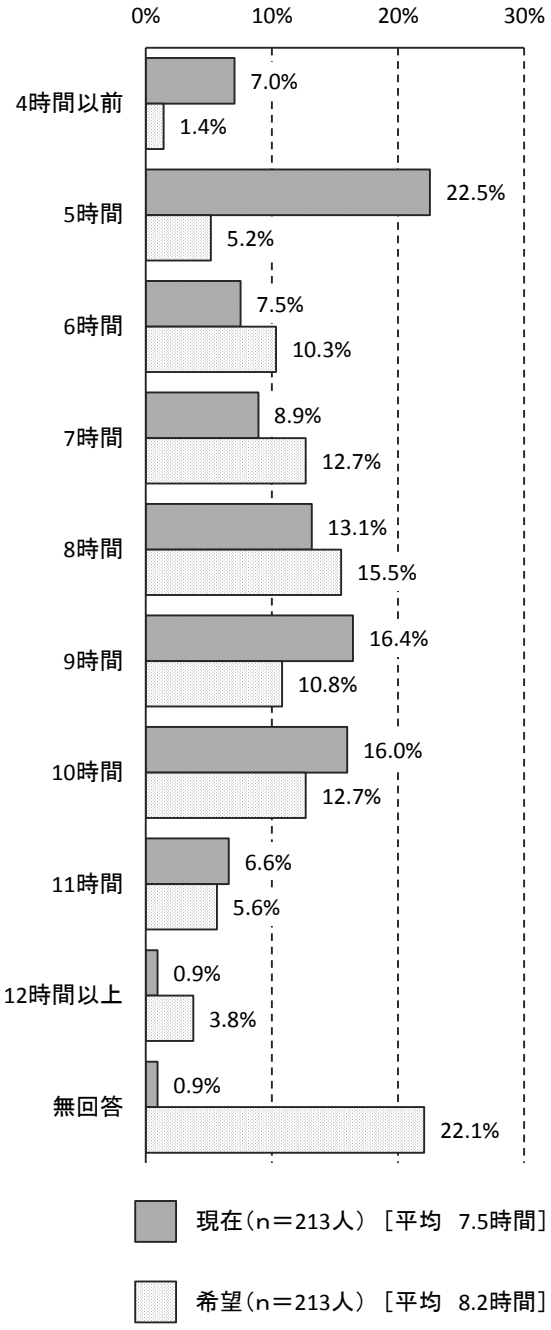
平日の定期的な教育･保育事業を利用している回答者に利用している事業について聞くと、「認可保育所」（36.6%）と「幼稚園」（33.3%）の利用が多くなっています。

■利用日数等

【1週あたりの利用日数】



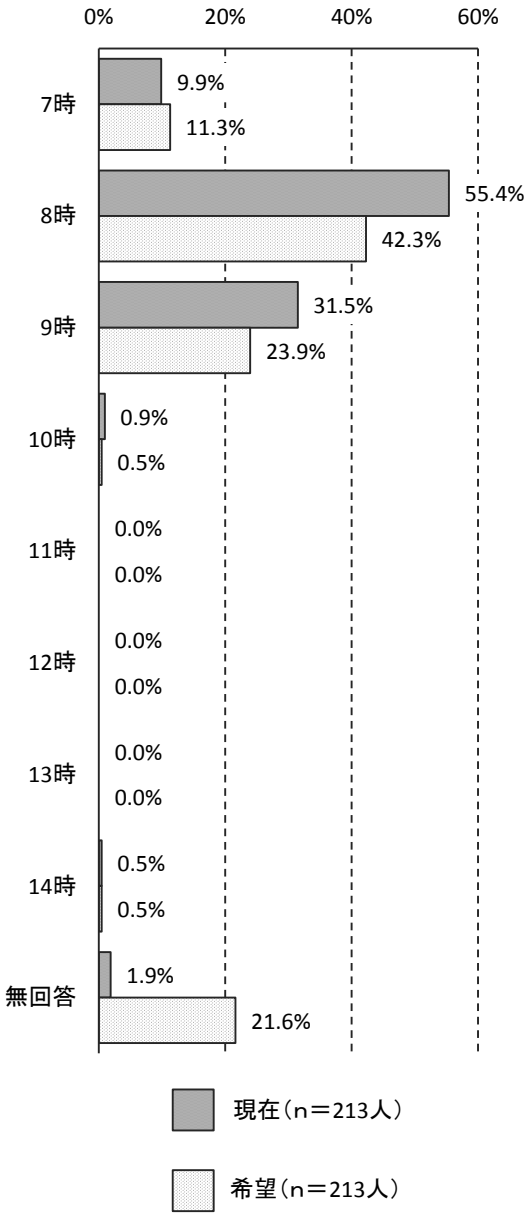
【1日あたりの利用時間】



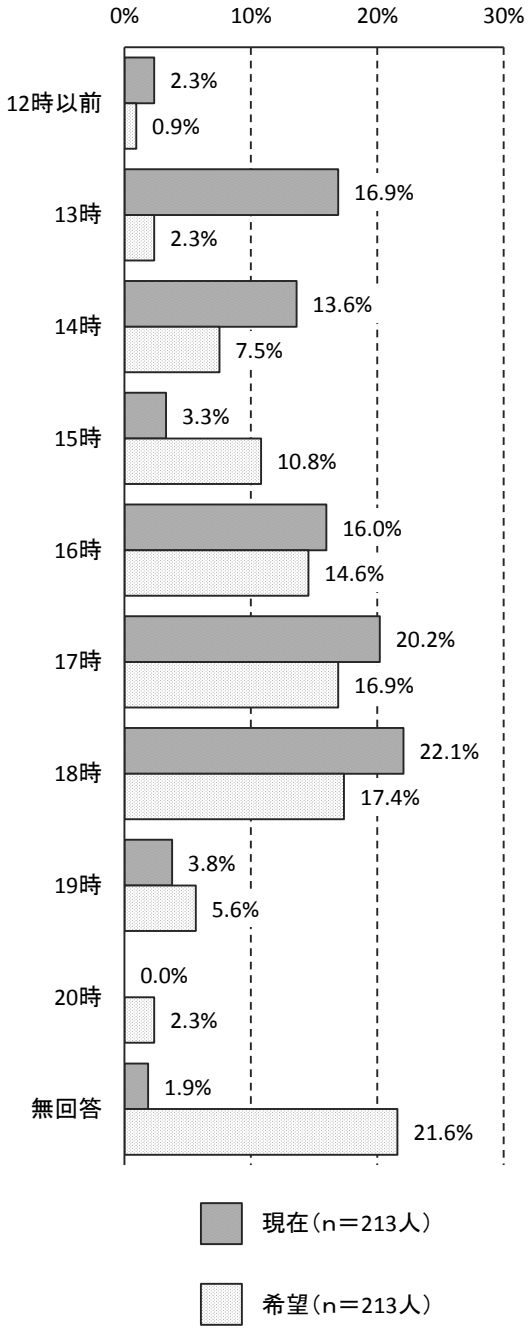
利用している事業の週あたりの利用日数は「５日」が 81.2%で最も多くなっていますが、希望としては 59.6%と現在の利用状況よりも回答割合が低く、「６日」と「７日」の利用希望が現在の利用状況を上回っています。

１日あたりの利用時間については、現在は「５時間」が最も多いものの、希望としては 5.2%にとどまり、「６時間」「７時間」「８時間」「12 時間以上」などの利用希望が現在の利用状況を上回っています。

【利用開始時間】



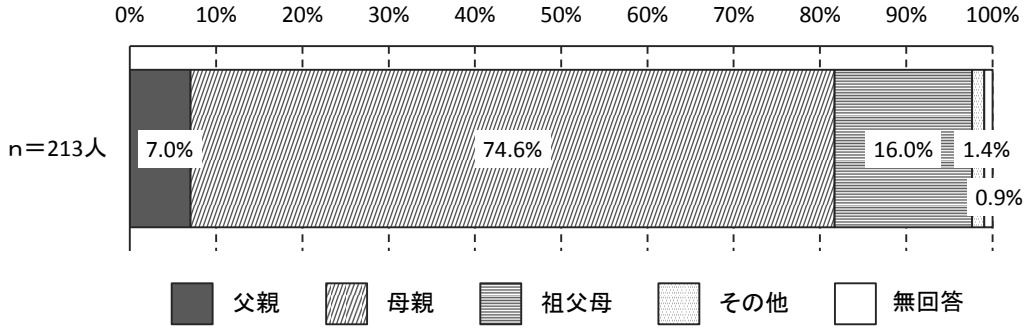
【利用終了時間】



事業の利用開始時間については、現在・希望ともに「8時」と「9時」への回答が多くなっています。

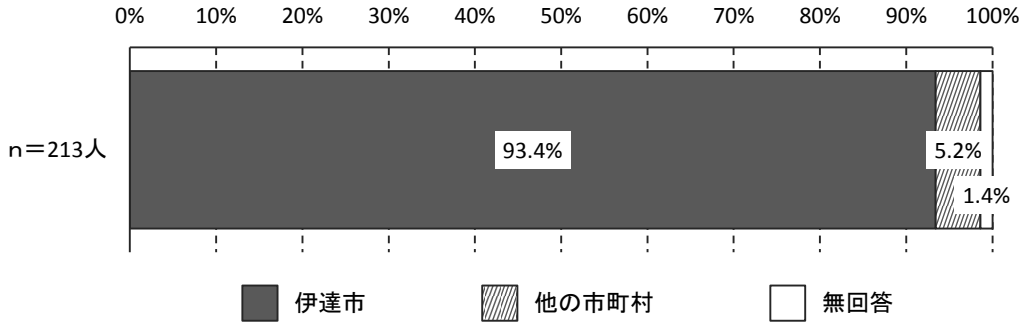
利用終了時間としては、現在・希望ともに「16 時」「17 時」「18 時」への回答が多くなっています。

■教育・保育事業を利用する際の主な送迎者



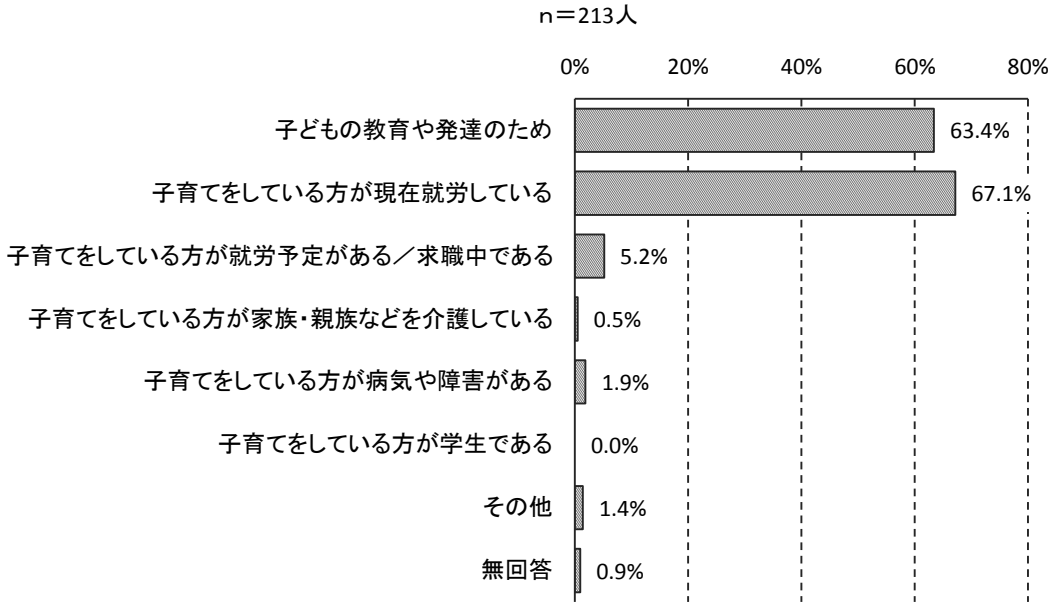
平日の教育・保育事業を利用する際、お子さんの送迎を主に行っている方としては、「母親」（74.6%）が7割を超えて最も多く、「祖父母」が 16.0%、「父親」が 7.0%となっています。

■教育・保育事業の実施場所



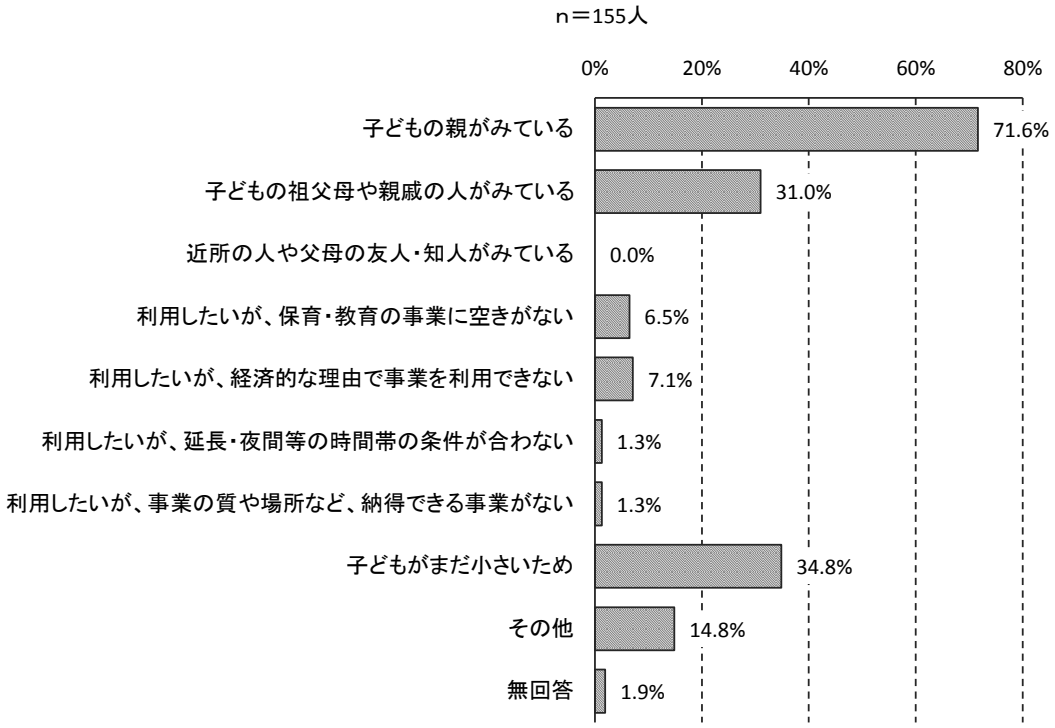
平日の定期的な教育・保育事業の実施場所としては、93.4%とほぼすべての回答者が「伊達市」内での利用となっています。

■平日に定期的な教育・保育事業を利用している理由



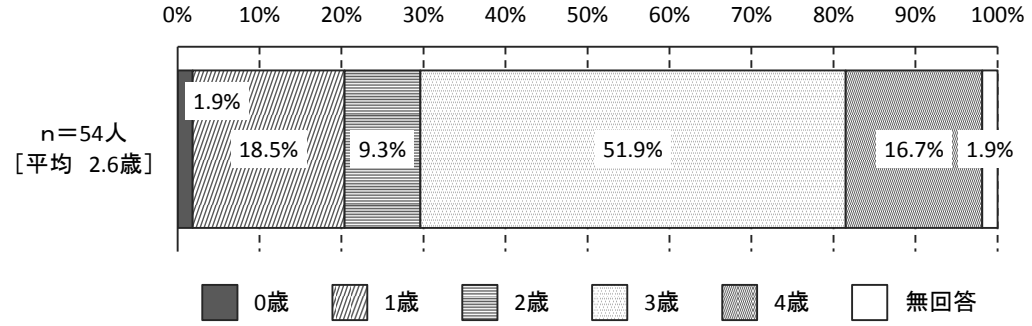
平日に定期的な教育・保育事業を利用している理由としては、「子育てをしている方が現在就労している」（67.1%）、「子どもの教育や発達のため」（63.4%）への回答が多くなっています。

■平日に定期的な教育・保育事業を利用していない理由



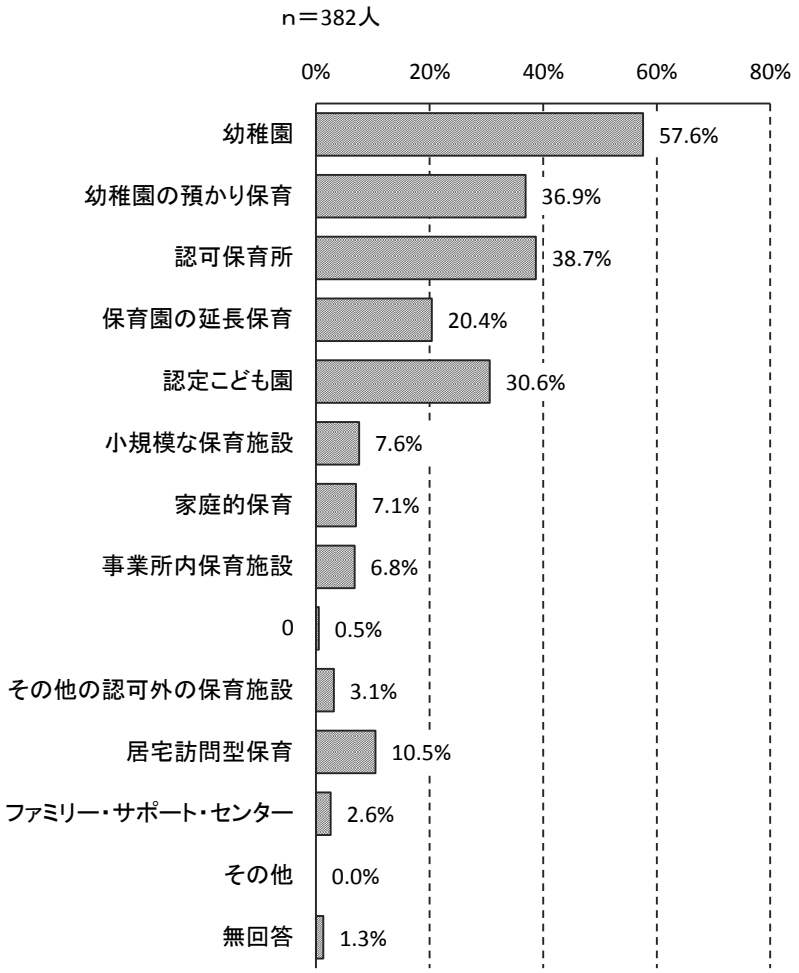
平日に定期的な教育・保育事業を利用していない理由としては、「子どもの親がみている」への回答が71.6%で最も多く、ついで「子どもがまだ小さいため」(34.8%)、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」（31.0%）が３割台で続いています。

■利用を希望する子どもの年齢



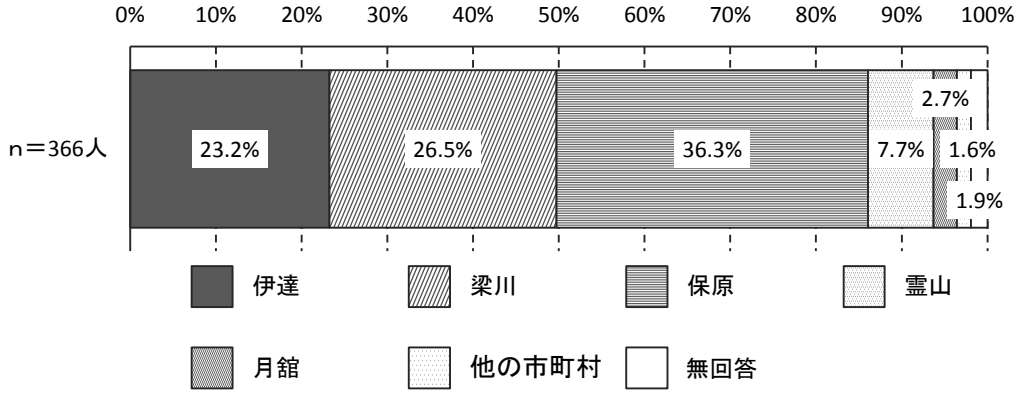
平日の定期的な教育・保育事業を利用する場合の子どもの年齢については、「３歳」（51.9%）が半数を超えて最も多くなっています。

（2）平日の定期的な教育・保育事業の利用希望



現在の平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無にかかわらず、すべての回答者の教育・保育事業の利用希望についてみると、利用希望が高かった事業は「幼稚園」が 57.6%で最も多く、ついで「認可保育所」（38.7%）、「幼稚園の預かり保育」（36.9%）などが４割近くで続いています。

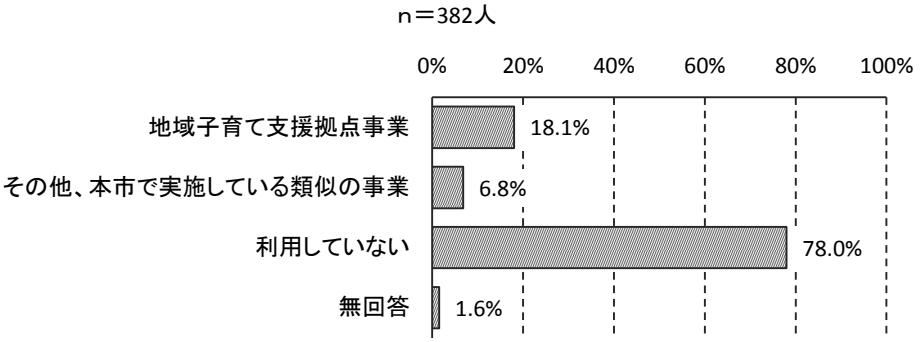
■教育・保育事業の利用を希望する場所



平日の定期的な教育・保育事業を利用する場合の利用希望場所としては、「保原」が36.3%で最も多く、ついで「梁川」（26.5%）、「伊達」（23.2%）などが２割台で続いています。

5　地域の子育て支援事業の利用状況等について

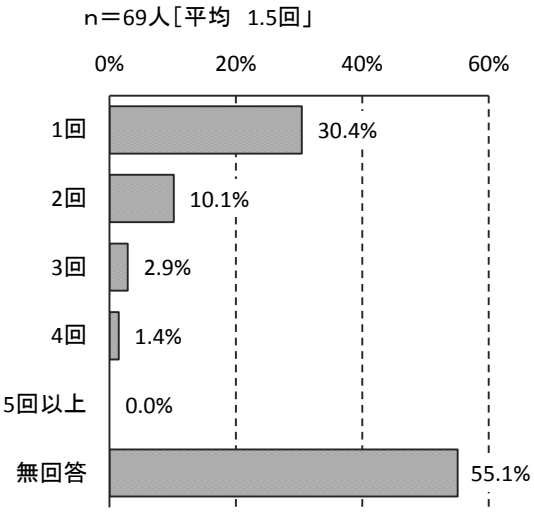
（1）地域子育て支援拠点事業の利用状況



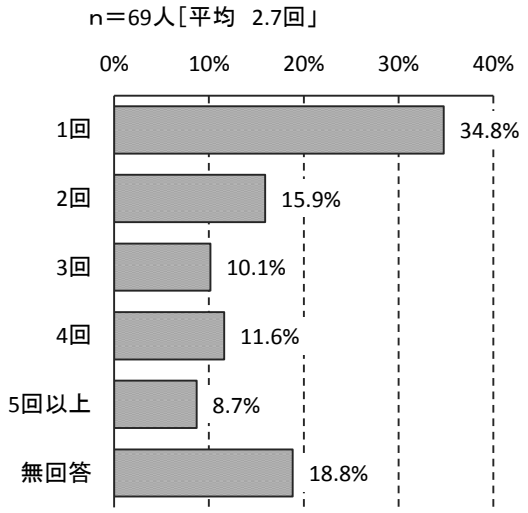
地域子育て支援拠点事業の寺領状況についてみると、「利用していない」という回答が 78.0%と８割近くを占め、「地域子育て支援拠点事業」を利用している方は 18.1%となっています。

■地域子育て支援拠点事業の利用頻度

【1週あたりの利用回数】

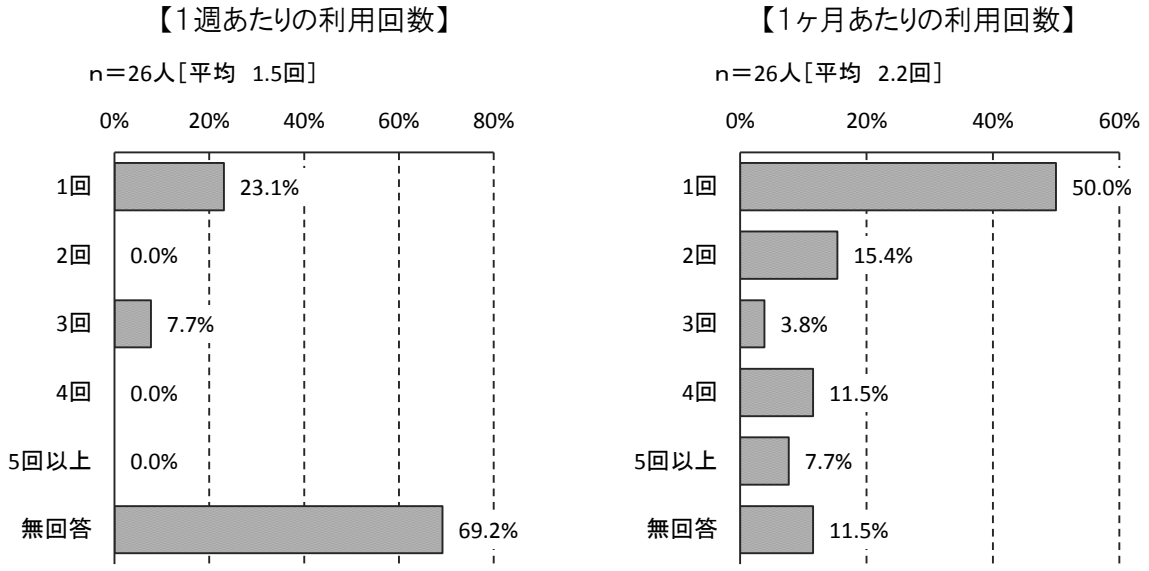


【1ヶ月あたりの利用回数】



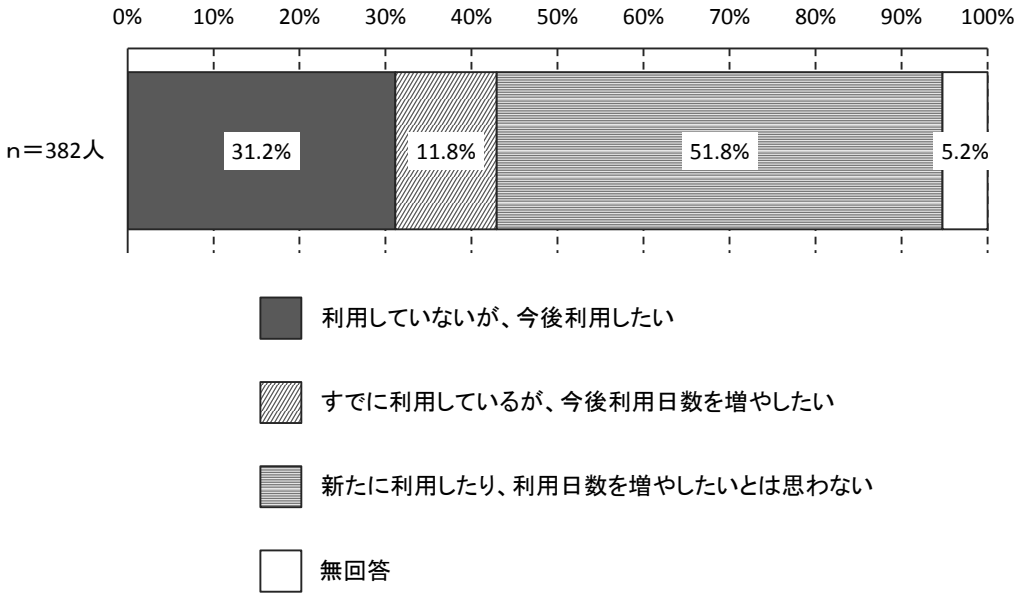
地域子育て支援拠点事業利用者の１週あたりの利用回数は「１回」が 30.4%、１ヶ月あたりの利用回数も「１回」が 34.8%でもっとお多くなっています。

■本市で実施している類似の事業の利用頻度



伊達市で実施している類似事業利用者の１週あたりの利用回数は「１回」が23.1%、１ヶ月あたりの利用回数は「１回」が50.0%と多くなっています。

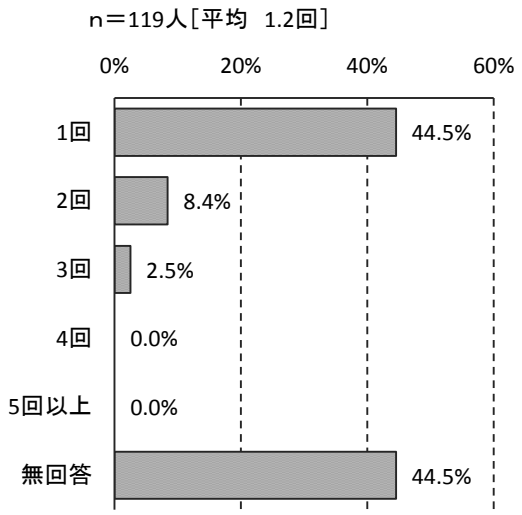
（2）地域子育て支援拠点事業の利用意向



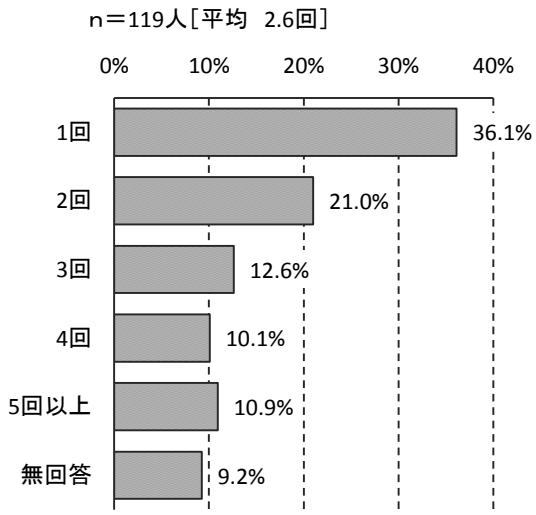
地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向についてみると、51.8%と半数以上の回答者は「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」としていますが、３割以上が「利用していないが、今後利用したい」としています。

■新たに希望する利用頻度

【1週あたりの利用回数】



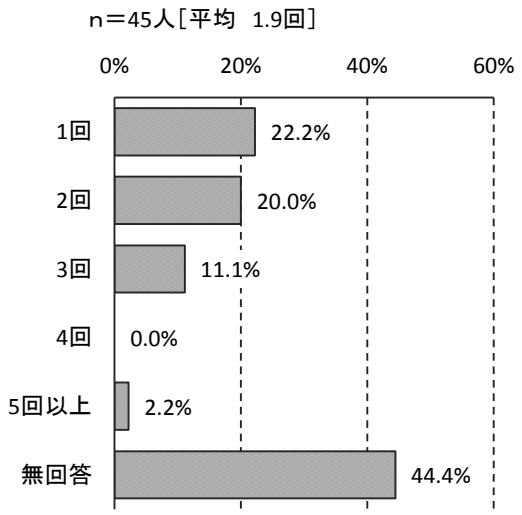
【1ヶ月あたりの利用回数】



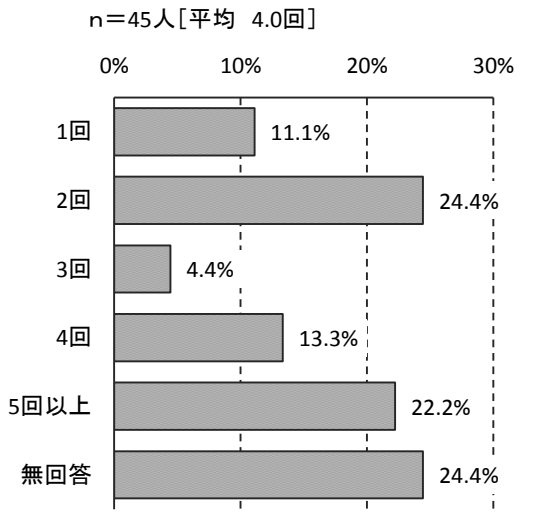
地域子育て支援拠点事業を利用していないが、今後利用したいという回答者の利用希望状況についてみると、１週あたりの利用回数は「１回」が 44.5%と最も多く、１ヶ月あたりの利用回数は「１回」が 36.1%、「２回」が 21.0%となっています。

■更に増やしたい利用回数

【1週あたりの利用増加回数】



【1ヶ月あたりの利用増加回数】

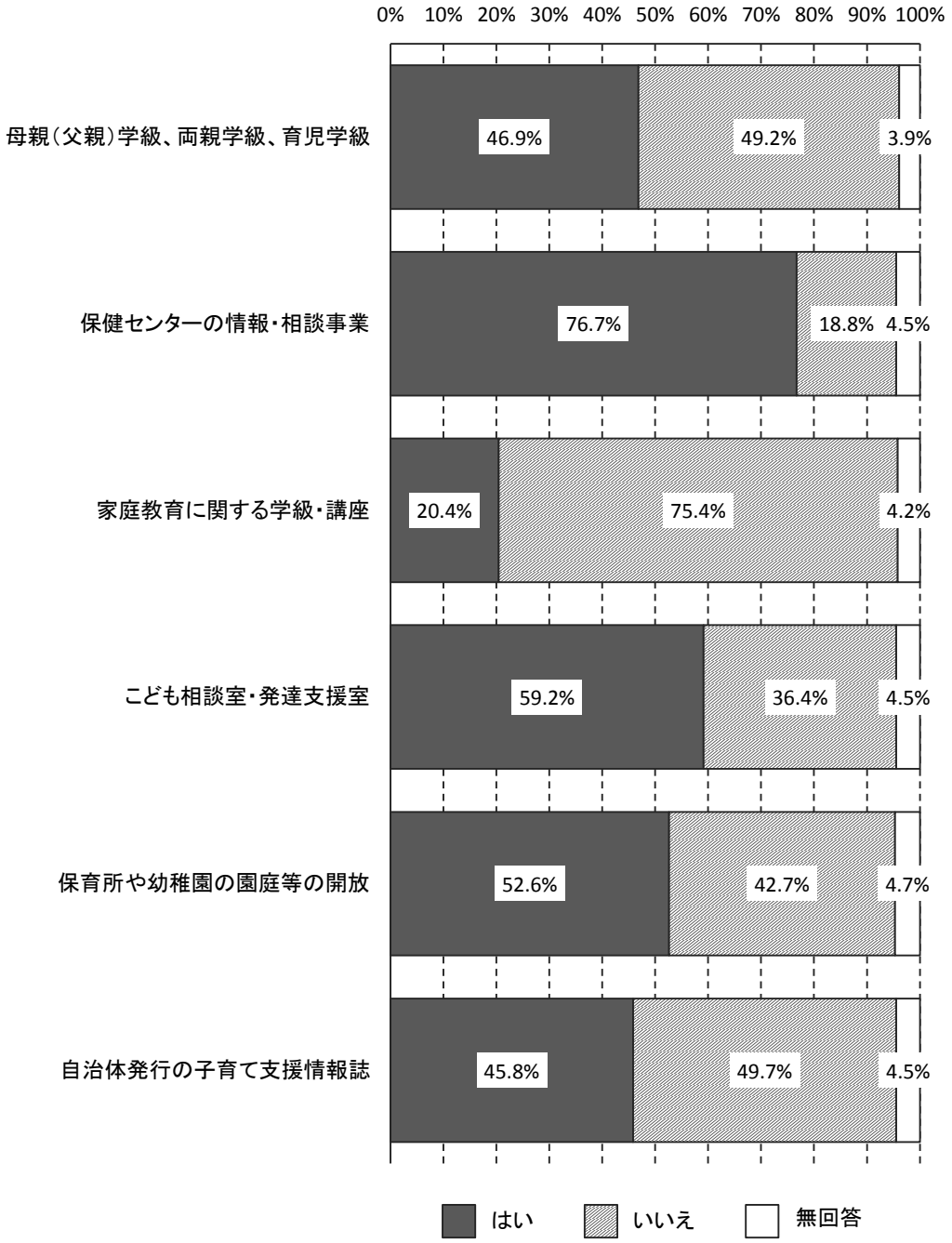


地域子育て支援拠点事業をすでに利用しているが、今後利用日数を増やしたいという回答者、増やしたい利用回数について聞くと、１週あたりでは「１回」（22.2%）、「２回」（20.0%）が多くなっています。

１ヶ月あたり更に増やしたい回数は「２回」（24.4%）と「５回以上」（22.2%）が多くなっています。

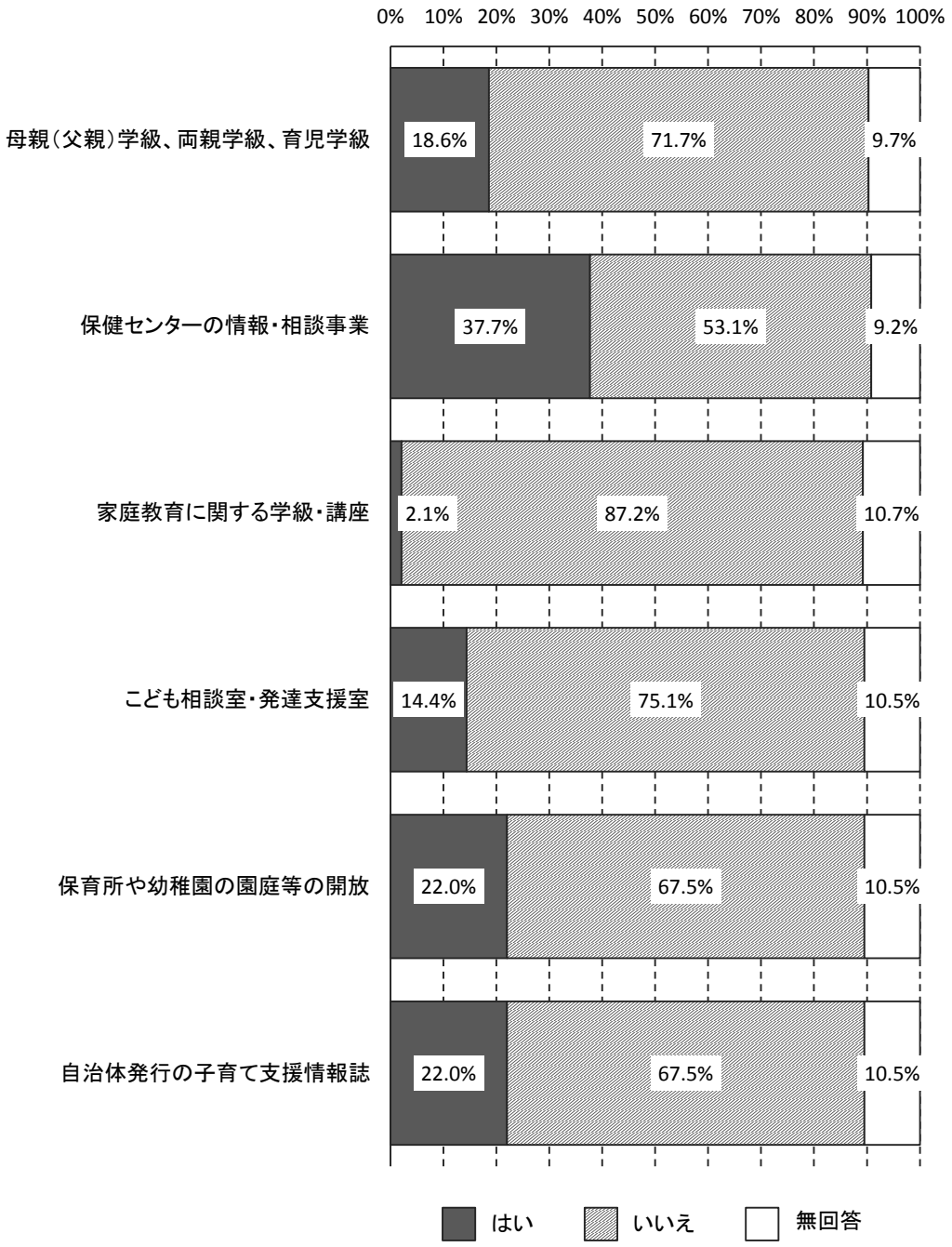
（3）子育て支援事業の認知度・利用経験・今後の利用意向

■認知度



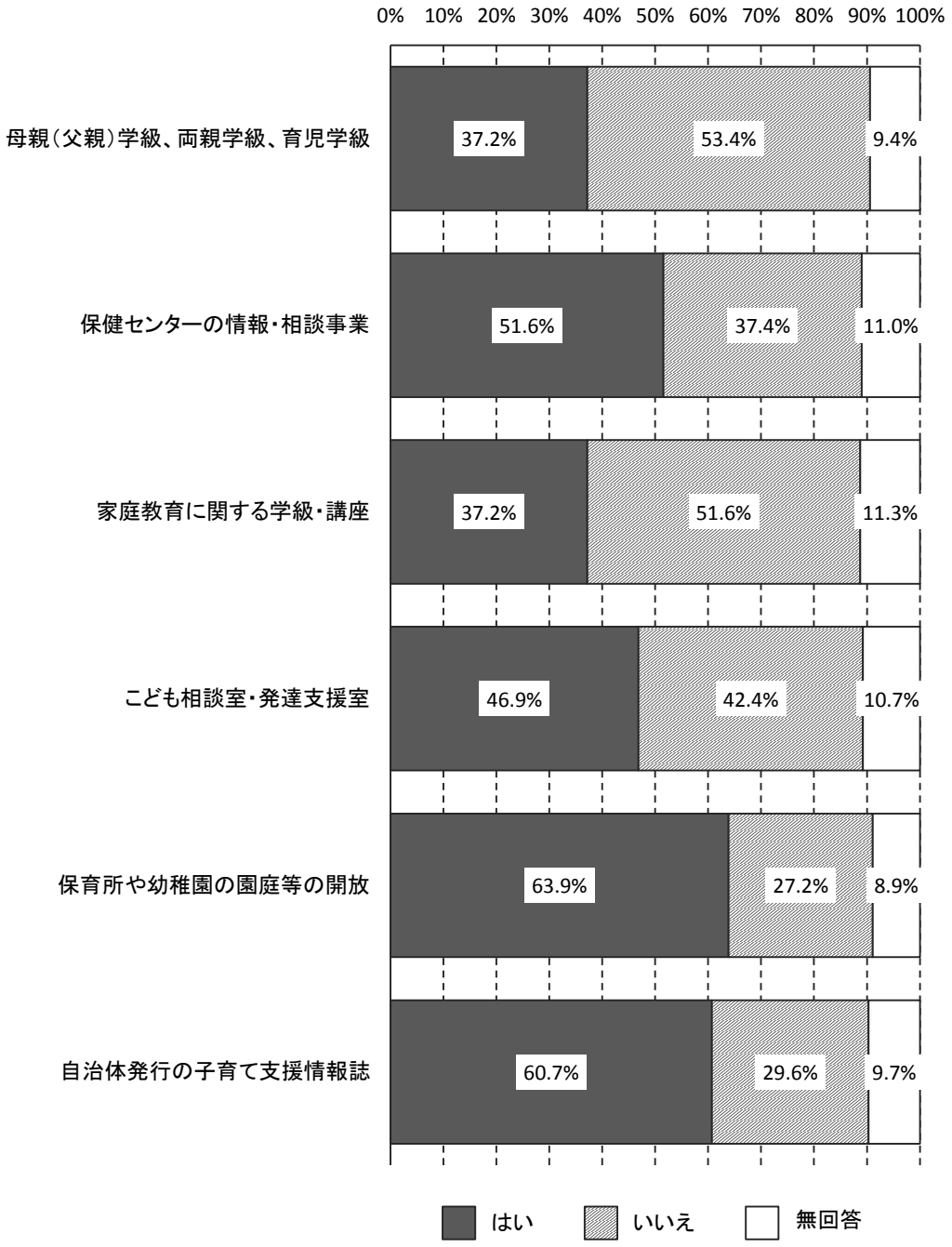
子育て支援事業の認知度をみると、多くの事業で認知度（「はい」＝知っている）という回答が４割を超え、「保健センターの情報・相談事業」は８割近くを占めていますが、「家庭教育に関する学級・講座」（20.4%）は他の事業に比べると認知度が低くなっています。

■利用経験



子育て支援事業の利用経験についてみると、利用経験あり（「はい」）という回答割合が高かった事業は、「保健センターの情報・相談事業」（37.7%）となっています。

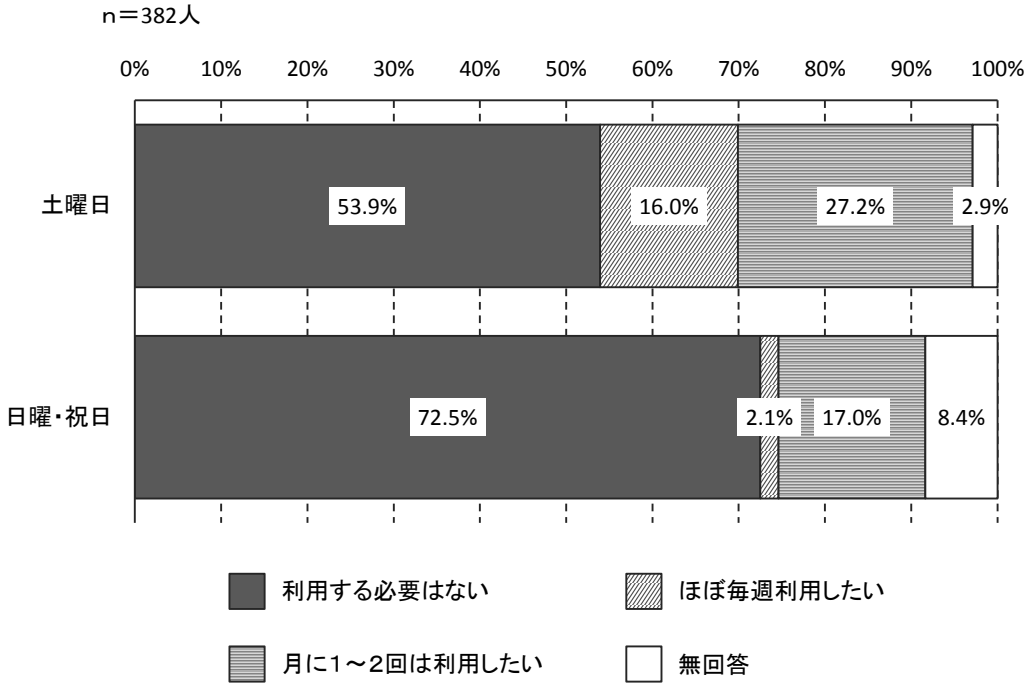
■今後の利用意向



子育て支援事業の今後の利用意向についてみると、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」（63.9%）と「自治体発行の子育て支援情報誌」（60.7%）については６割以上の方が今後利用したいとしています。

6　土曜･休日等の定期的な教育･保育事業の利用希望について

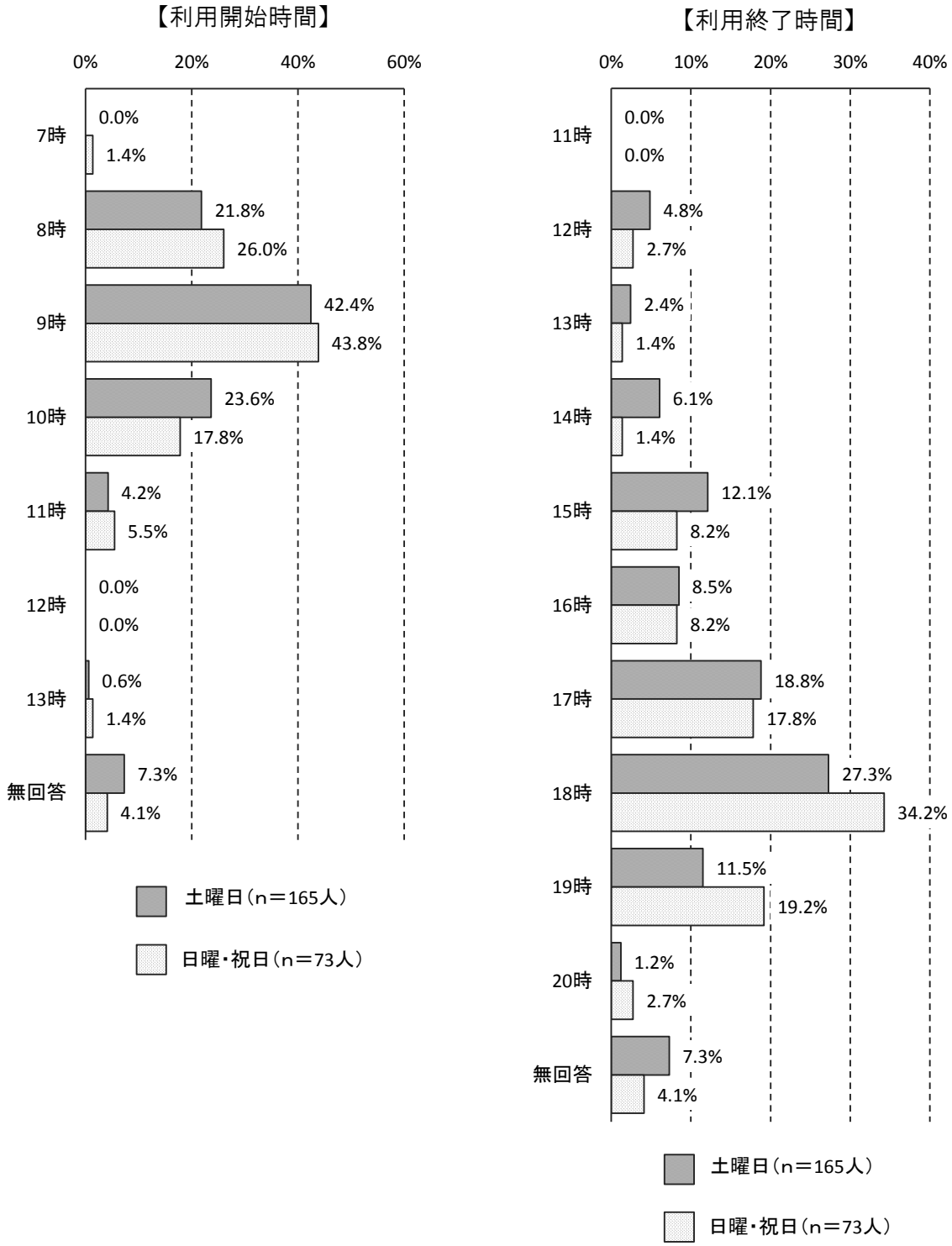
（1）土曜・休日等の定期的な教育・保育事業の利用希望



土曜日、日曜・祝日における定期的な教育・保育事業の利用意向についてみると、土曜日、日曜・祝日ともに、「利用する必要はない」という回答が半数以上を占めて最も多くなっています。

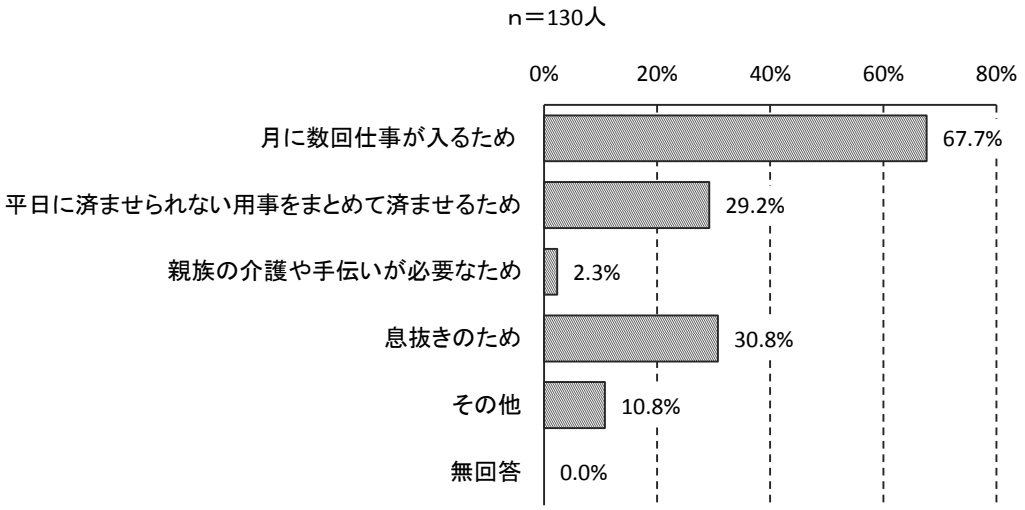
「ほぼ毎週利用したい」、「月に１～２回は利用したい」をあわせると、土曜日は４割を超える利用意向があるのに対して、日曜・祝日は２割程度となっています。

■利用したい時間帯



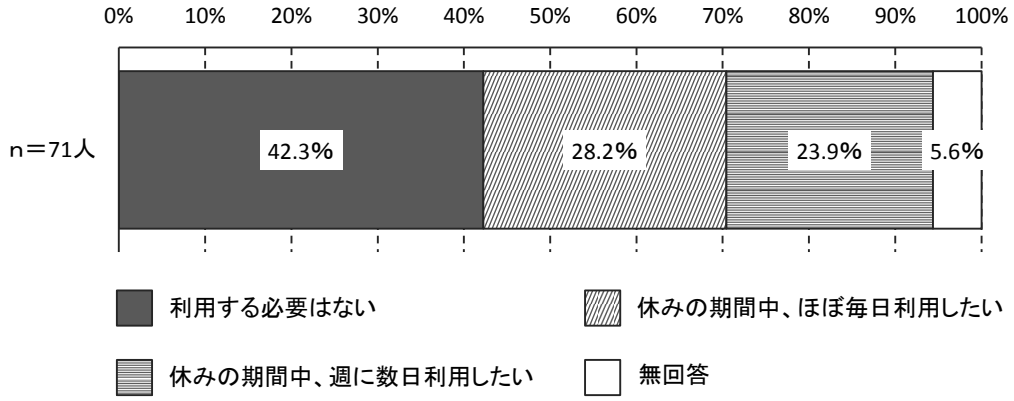
土曜日、日曜・祝日に定期的な教育・保育事業を利用したいという回答者に事業の利用開始時間と終了時間について聞くと、土曜日、日曜・祝日ともに、開始時間は「９時」が、終了時間については「18 時」への回答が最も多くなっています。

■たまに利用したい理由



土曜日、日曜・祝日に定期的な教育・保育事業を「月に１～２回は利用したい」という回答者に理由を聞いたところ、「月に数回仕事が入るため」という回答が 67.7%で最も多くなっています。

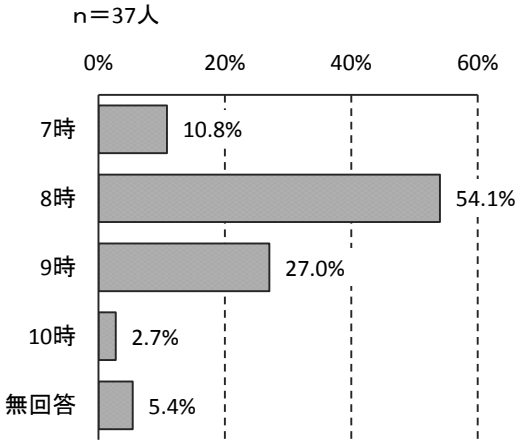
（２）幼稚園利用者の長期休暇中の事業の利用希望



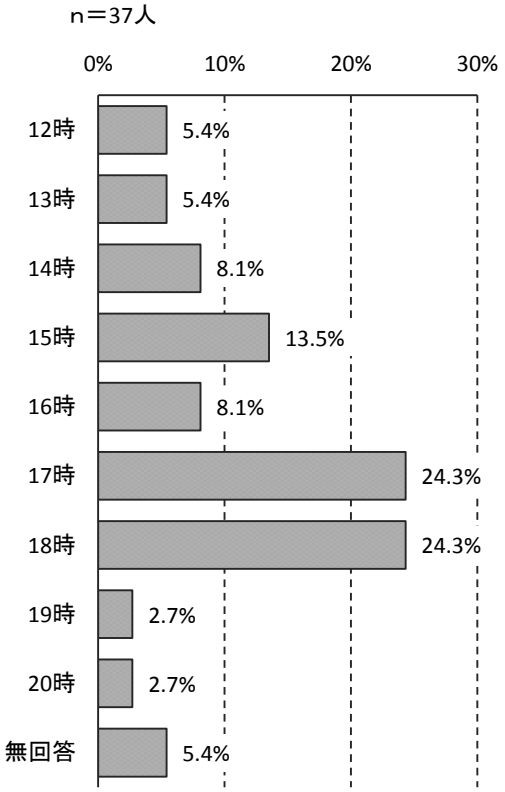
現在幼稚園を利用している回答者に、夏休みなどの長期休暇中の事業の利用希望について聞いたところ、「利用する必要はない」という回答が 42.3%と最も多くなっていますが、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」（28.2%）と「休みの期間中、数に数日利用したい」をあわせると、利用意向は 52.1%と半数を超えています。

■利用したい時間帯

【利用開始時間】

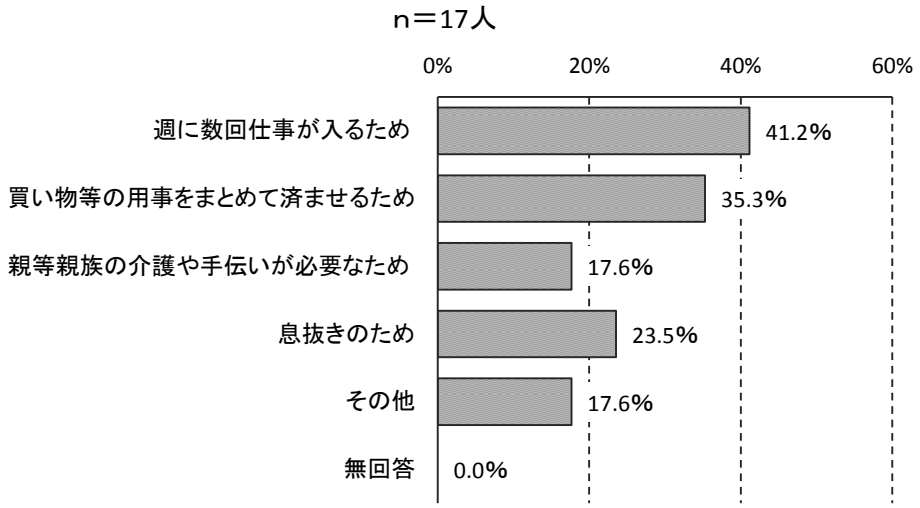


【利用終了時間】



長期休暇中に教育・保育事業を利用したいという回答者（「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」、「休みの期間中、週に数日利用したい」）に、事業を利用する場合の利用開始時間と終了時間について聞くと、開始時間は「８時」、終了時間は「17 時」から「18 時」を希望する回答が多くなっています。

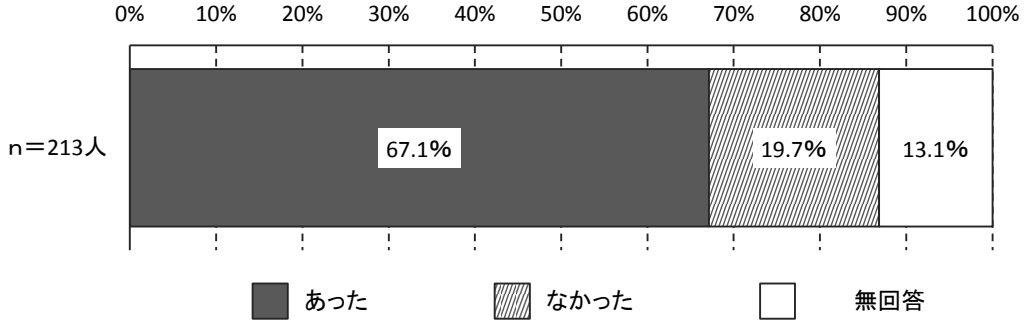
■たまに利用したい理由



「休みの期間中、週に数日利用したい」という回答者に理由を聞いたところ、「週に数回仕事が入るため」（41.2%）と「買い物等の用事をまとめて済ませるため」（35.3%）という回答が多くなっています。

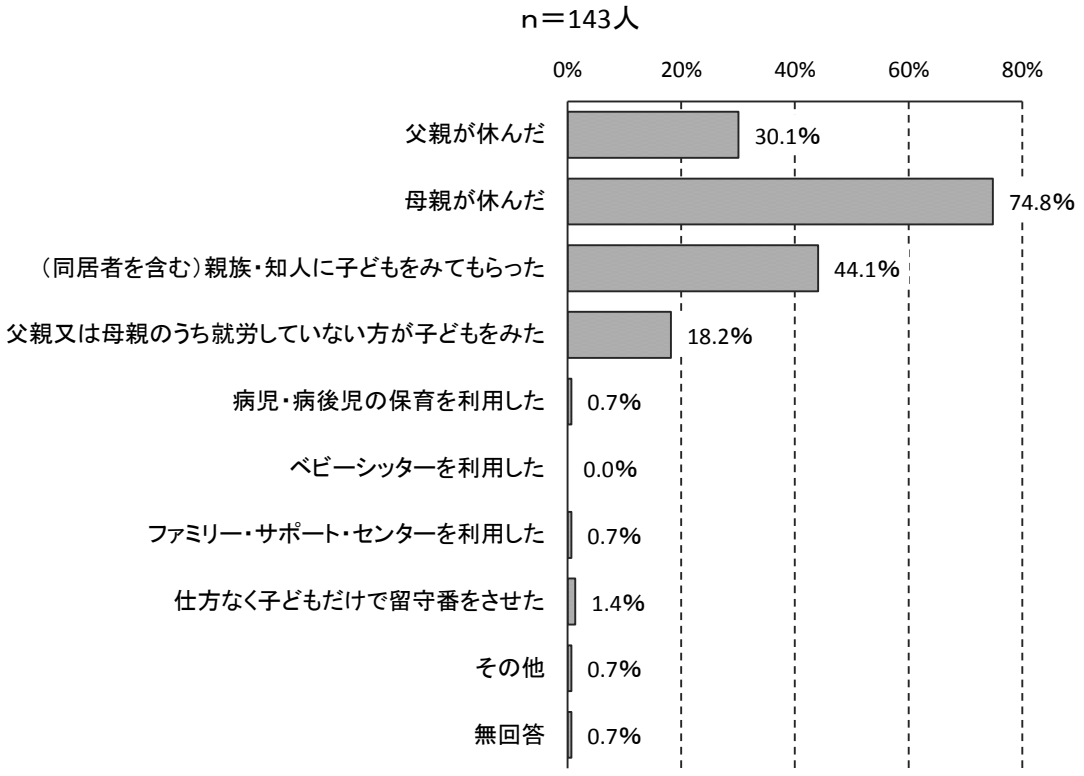
7　病気の際の対応について

■病気やケガで普段の教育・保育事業が利用できなかった日の有無



この１年間に子どもの病気やケガなどのための教育・保育事業が利用できなかった経験の有無について聞くと、67.1％と３人に２人以上が「あった」としています。

■普段の教育・保育事業が利用できなかった場合の対処方法



子どもの病気やケガなどのための教育・保育事業が利用できなかった経験があった回答者に対処方法について聞くと、「母親が休んだ」（74.8％）という回答が最も多く、ついで「親族・知人にみてもらった」（44.1％）、「父親が休んだ」（30.1％）となっています。

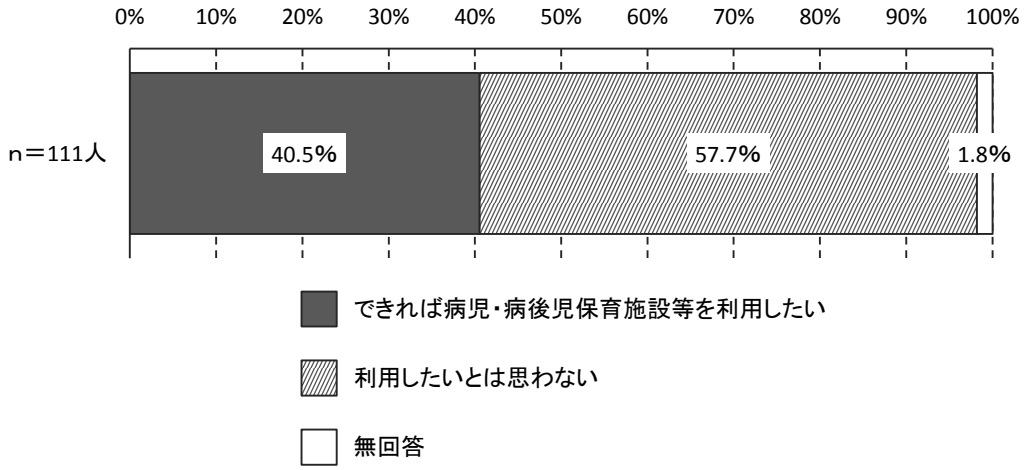
■対処方法ごとの日数

	1日	2日	3日	4日	5日	6～10日
父親が休んだ(n＝43人)	25.6%	16.3%	25.6%	4.7%	11.6%	11.6%
母親が休んだ(n＝107人)	10.3%	7.5%	15.9%	4.7%	11.2%	29.0%
(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった(n＝63人)	7.9%	14.3%	14.3%	4.8%	15.9%	19.0%
父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた(n＝26人)	7.7%	0.0%	7.7%	11.5%	11.5%	19.2%
病児・病後児の保育を利用した(n＝1人)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
ファミリー・サポート・センターを利用した(n＝1人)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
仕方なく子どもだけで留守番をさせた(n＝2人)	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他の(n＝1人)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

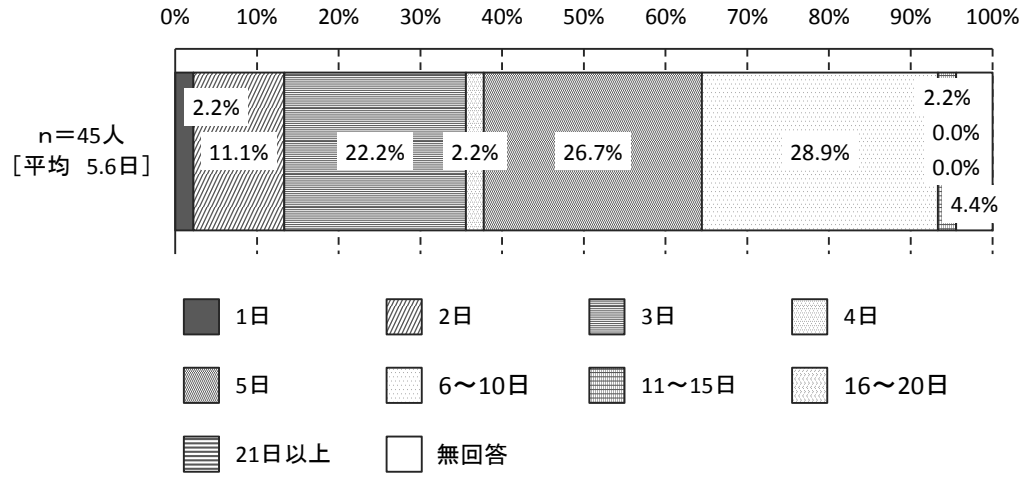
	11～15日	16～20日	21日以上	無回答	平均
父親が休んだ(n＝43人)	0.0%	2.3%	0.0%	2.3%	3.5日
母親が休んだ(n＝107人)	6.5%	7.5%	4.7%	2.8%	8.6日
(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった(n＝63人)	7.9%	7.9%	6.3%	1.6%	8.9日
父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた(n＝26人)	7.7%	7.7%	11.5%	15.4%	10.0日
病児・病後児の保育を利用した(n＝1人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0日
ファミリー・サポート・センターを利用した(n＝1人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0日
仕方なく子どもだけで留守番をさせた(n＝2人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5日
その他の(n＝1人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0日

対処方法ごとに休んだ日数について聞いたところ、いずれも「母親が休んだ」、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった」、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」などの場合は「6～10日」、「父親が休んだ」場合は「3日」への回答が多くなっています。

■病児・病後児のための保育施設等の利用意向



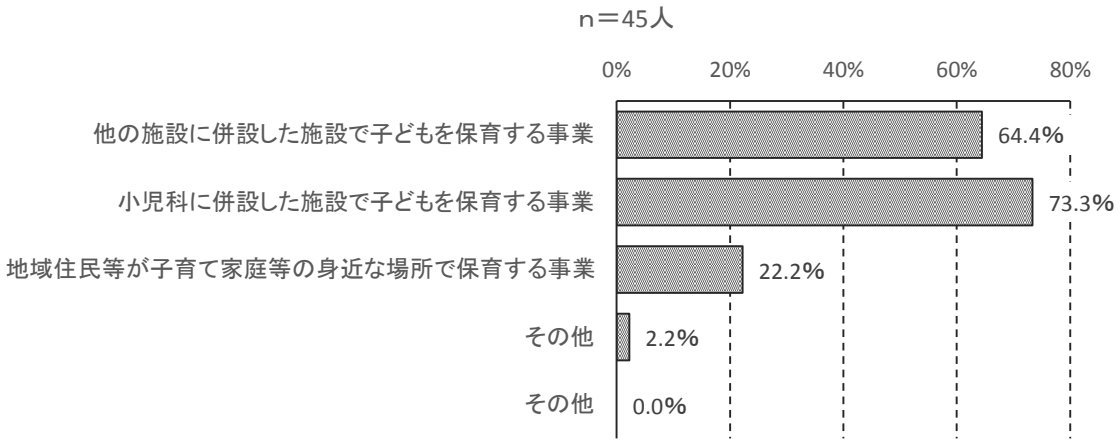
【利用希望日数】



病児・病後児のための保育施設等の利用意向についてみると、利用意向は「利用したいとは思わない」が 57.7%で最も多く、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」という回答は 40.5%となっています。

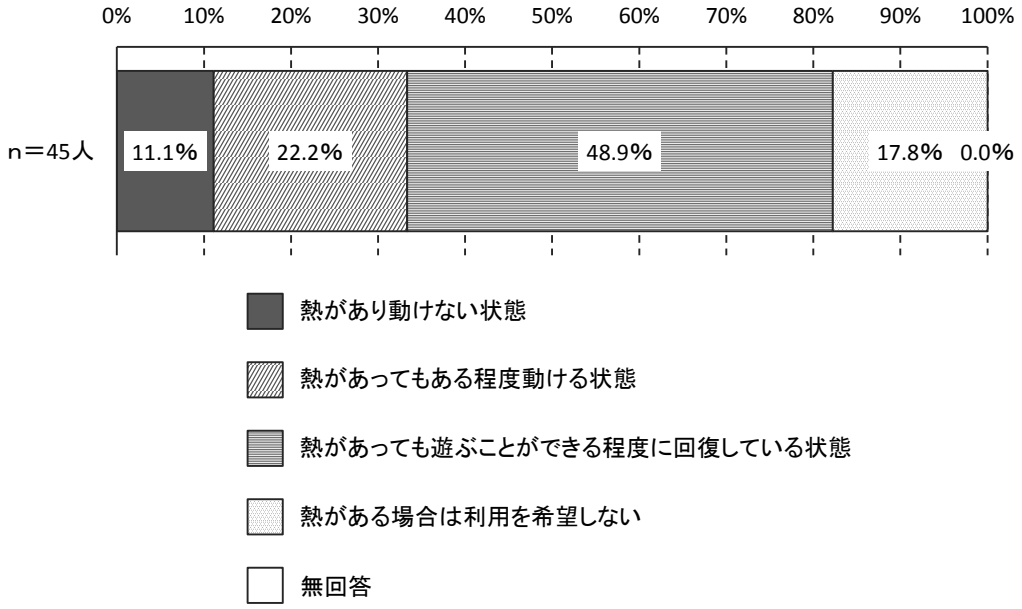
用事・病後児保育施設等を利用したいという回答者の利用希望日数としては、「6～10 日」への回答が 28.9%と最も多く、「5日」（26.7%）、「3日」（22.2%）が２割台で続き、平均で 5.6 日となっています。

■病児・病後児保育施設等の望ましい事業形態



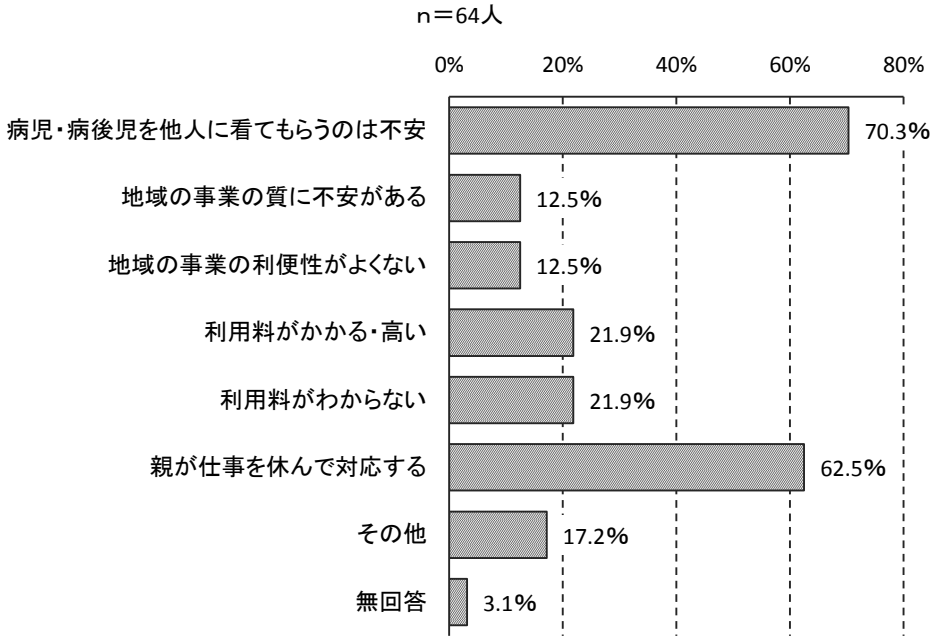
病児・病後児保育施設等の望ましい事業形態についてみると、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」（73.3%）、「他の施設（例：幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業」（64.4%）への回答が6割を超えて多くなっています。

■事業の利用を希望する際の子ども体調の程度



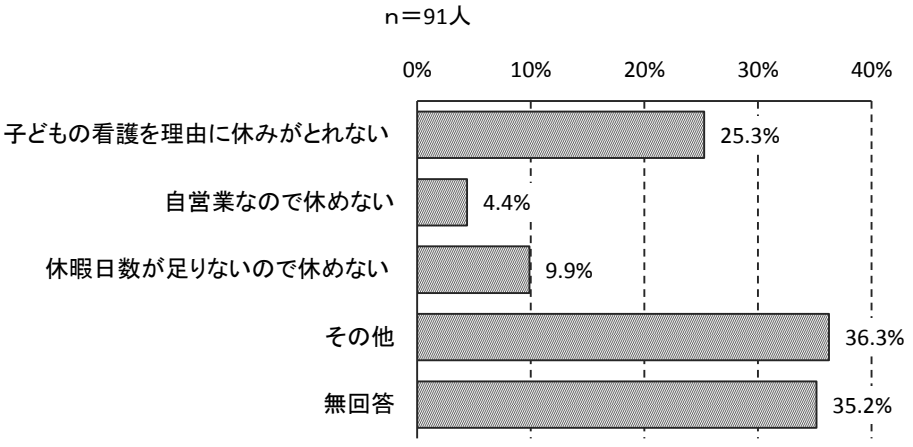
子どもを預ける場合、子どもの体調がどの程度であれば事業の利用を希望するかを聞くと、「熱があっても遊ぶことができる程度に回復している状態」への回答が半数近くを占めて最も多くなっています。

■病児・病後児のための保育施設等を利用したくない理由



病児・病後児のための保育施設等を利用したくない理由についてみると、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」（70.3%）、「親が仕事を休んで対応する」（62.5%）への回答が6割を超えて多くなっています。

■父母が仕事を休むことができなかった理由

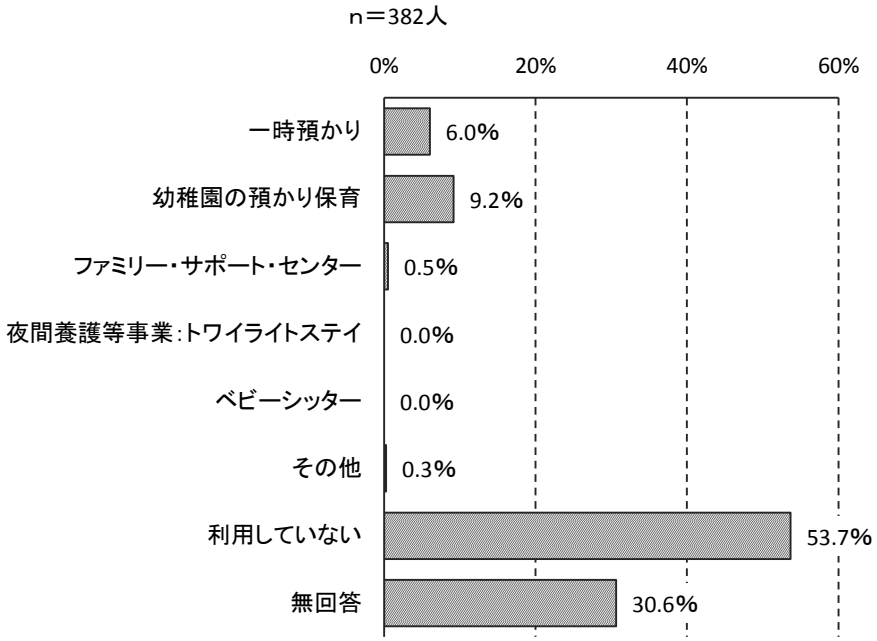


父母が仕事を休むことができなかった理由についてみると、「子どもの看護を理由に休みがとれない」への回答が 25.3%と多くなっています。

その他の理由としては、（人が少ない、忙しい、迷惑がかかる、他）休めない・休みが取りにくい、就労していない母親がみるので問題ない、祖父母がみてくれる、などの意見がありました。

8　一時預かり等の利用について

（1）保護者の私用等で不定期に利用している事業



■利用日数

	1日	2日	3日	4日	5日	6～10日
一時預かり(n＝23人)	4.3%	8.7%	8.7%	0.0%	4.3%	13.0%
幼稚園の預かり保育(n＝35人)	8.6%	11.4%	8.6%	2.9%	17.1%	11.4%
ファミリー・サポート・センター(n＝2人)	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他(n＝1人)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

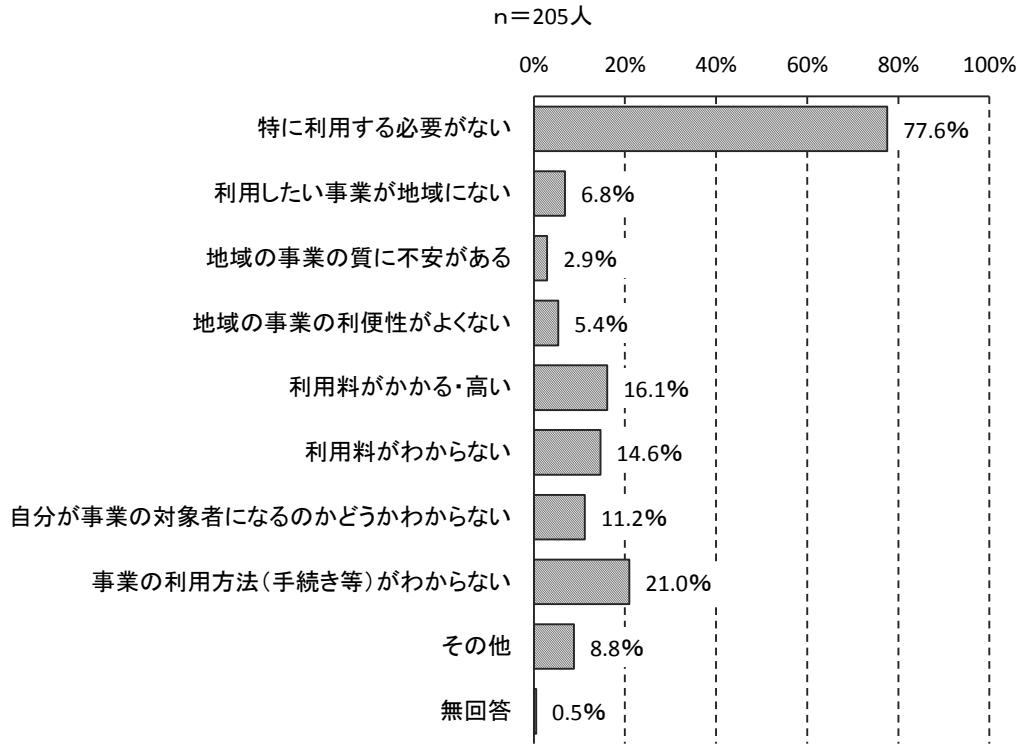
	11～15日	16～20日	21日以上	無回答	平均
一時預かり(n＝23人)	4.3%	0.0%	43.5%	13.0%	25.6日
幼稚園の預かり保育(n＝35人)	11.4%	2.9%	17.1%	8.6%	16.3日
ファミリー・サポート・センター(n＝2人)	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	2.0日
その他(n＝1人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0日

保護者の私用等で不定期に利用している教育・保育事業について聞いたところ、53.7%と半数以上の回答者は「利用していない」としています。

利用している事業としては、「幼稚園の預かり保育」(9.2%)と「一時預かり」(6.0%)が多くなっています。

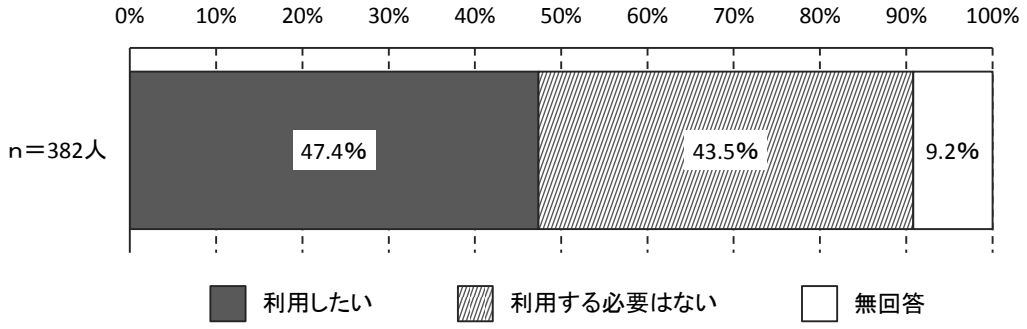
利用日数は、「一時預かり」は平均で 25.6 日、「幼稚園の預かり保育」は平均で16.3日となっています。

■事業を不定期に利用しない理由



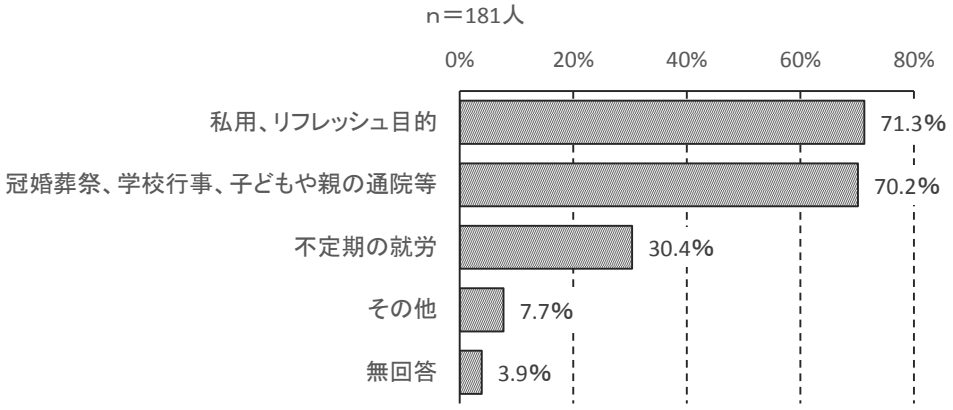
保護者の利用等で不定期に教育・保育事業を利用する必要がない理由について聞くと、「特に利用する必要がない」が 77.6%で最も多くなっています。

（2）不定期の教育・保育事業の利用意向



教育・保育事業の不定期利用に関する利用希望について聞くと、「利用したい」への回答が 47.4%と半数近くを占め、「利用する必要はない」は 43.5%となっています。

■利用目的



教育・保育事業を不定期利用したいという回答者に利用理由について聞いたところ、「私用、リフレッシュ目的」（71.3%）と「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」（70.2%）といった理由が多くあげられています。

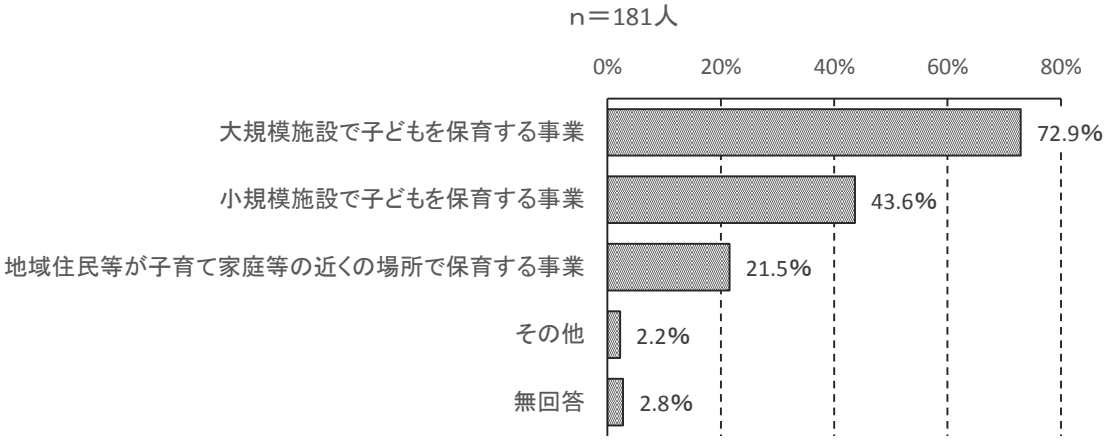
■利用日数

	1日	2日	3日	4日	5日	6～10日
合計(n＝181人)	0.6%	5.5%	2.8%	2.8%	8.3%	19.9%
私用･リフレッシュ目的(n＝129人)	4.7%	10.9%	11.6%	2.3%	10.1%	20.2%
冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等(n＝127人)	5.5%	8.7%	14.2%	3.1%	20.5%	24.4%
不定期の就労(n＝55人)	3.6%	3.6%	3.6%	7.3%	10.9%	12.7%
その他(n＝14人)	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%	21.4%	7.1%

	11～15日	16～20日	21日以上	無回答	平均
合計(n＝181人)	17.7%	9.4%	27.6%	5.5%	23.3日
私用･リフレッシュ目的(n＝129人)	17.1%	3.9%	15.5%	3.9%	12.4日
冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等(n＝127人)	10.2%	4.7%	5.5%	3.1%	7.9日
不定期の就労(n＝55人)	18.2%	7.3%	27.3%	5.5%	23.6日
その他(n＝14人)	21.4%	14.3%	14.3%	7.1%	12.8日

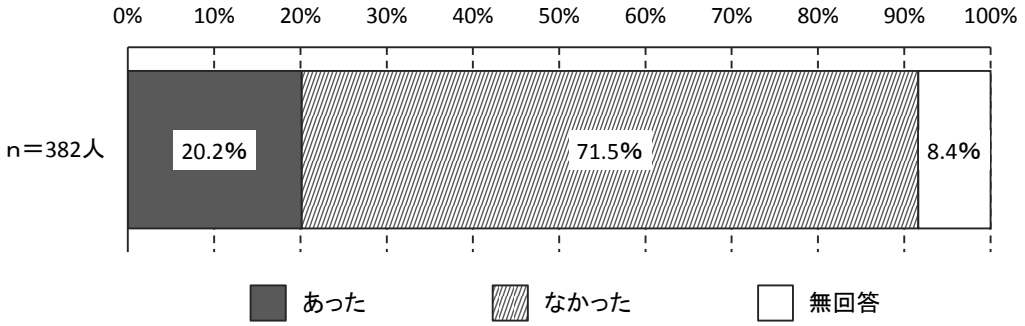
教育・保育事業を不定期利用したい理由別に利用希望日数について聞くと、「私用・リフレッシュ目的」や「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」などの場合は「6～10日」への回答が最も多く、「不定期の就労」の場合は「21日以上」が3割近くを占め、平均で23.6日となっています。

（3）子どもを預ける場合の望ましい事業形態



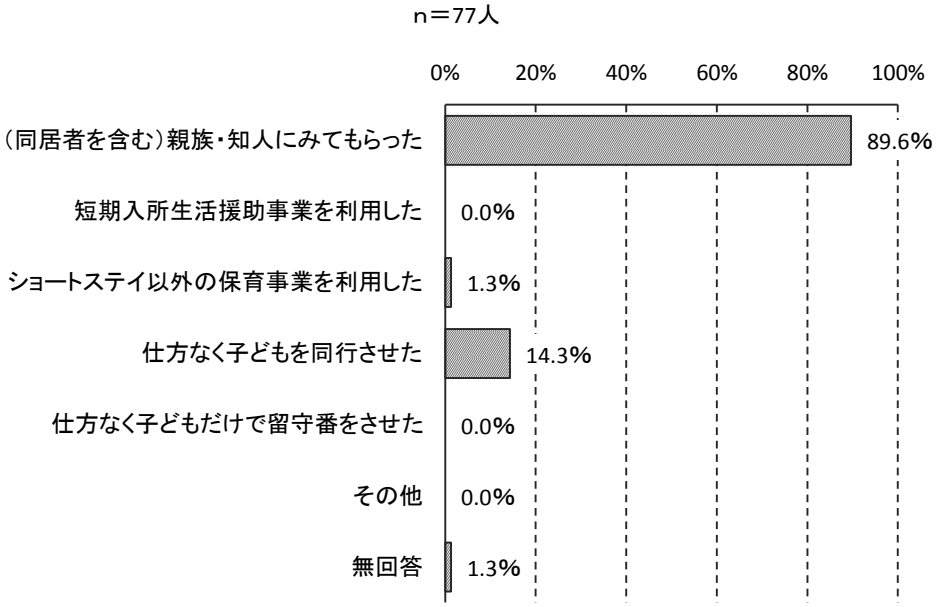
教育・保育事業を不定期利用したい場合に望ましい事業形態としては、「大規模施設で子どもを保育する事業（例：幼稚園・保育所等）」が 72.9%で最も多くなっています。

（4）子どもを泊りがけで家族以外にみてもらったことについて



子どもを泊りがけで家族以外に預けたことがあるかどうかについてみると、71.5%は「なかった」としていますが、20.2%は「あった」としています。

■対処方法



子どもを泊りがけで家族以外に預けたことがある回答者に誰（どこ）に預けたのか対処方法について聞くと、９割の回答者が「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」（89.6%）としています。

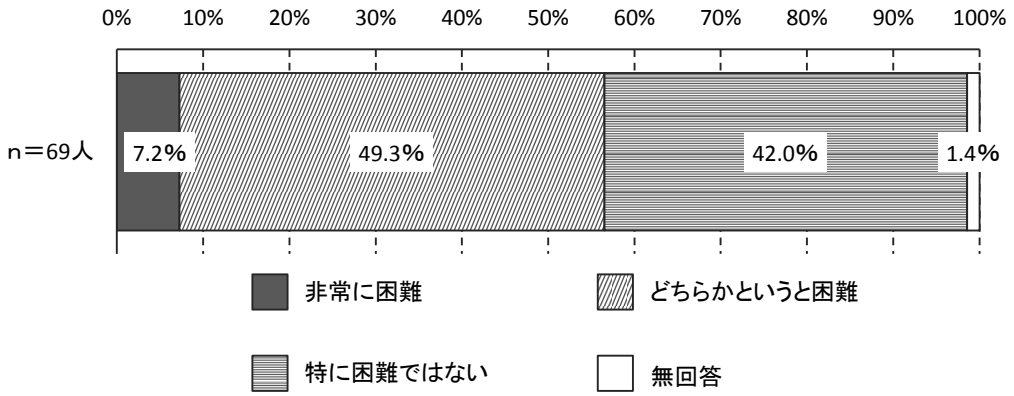
■対処日数

	1 泊	2 泊	3 泊	4 泊	5 泊	6～10 泊
親族・知人にみてもらった（n＝69 人）	14.5%	14.5%	14.5%	10.1%	7.2%	24.6%
ショートステイ以外の保育事業を利用した（n＝1 人）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
仕方なく子どもを同行させた（n＝11 人）	27.3%	18.2%	18.2%	0.0%	9.1%	18.2%

	11～15 泊	16～20 泊	21 泊以上	無回答	平均
親族・知人にみてもらった（n＝69 人）	1.4%	2.9%	7.2%	2.9%	7.3 泊
ショートステイ以外の保育事業を利用した（n＝1 人）	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	－
仕方なく子どもを同行させた（n＝11 人）	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	3.5 泊

子どもを泊りがけで家族以外に預けた対処方法別に対処した日数についてみると、「親族・知人にみてもらった」場合は平均で 7.3 泊、「仕方なく子どもを同行させた」場合は平均で 3.5 泊となっています。

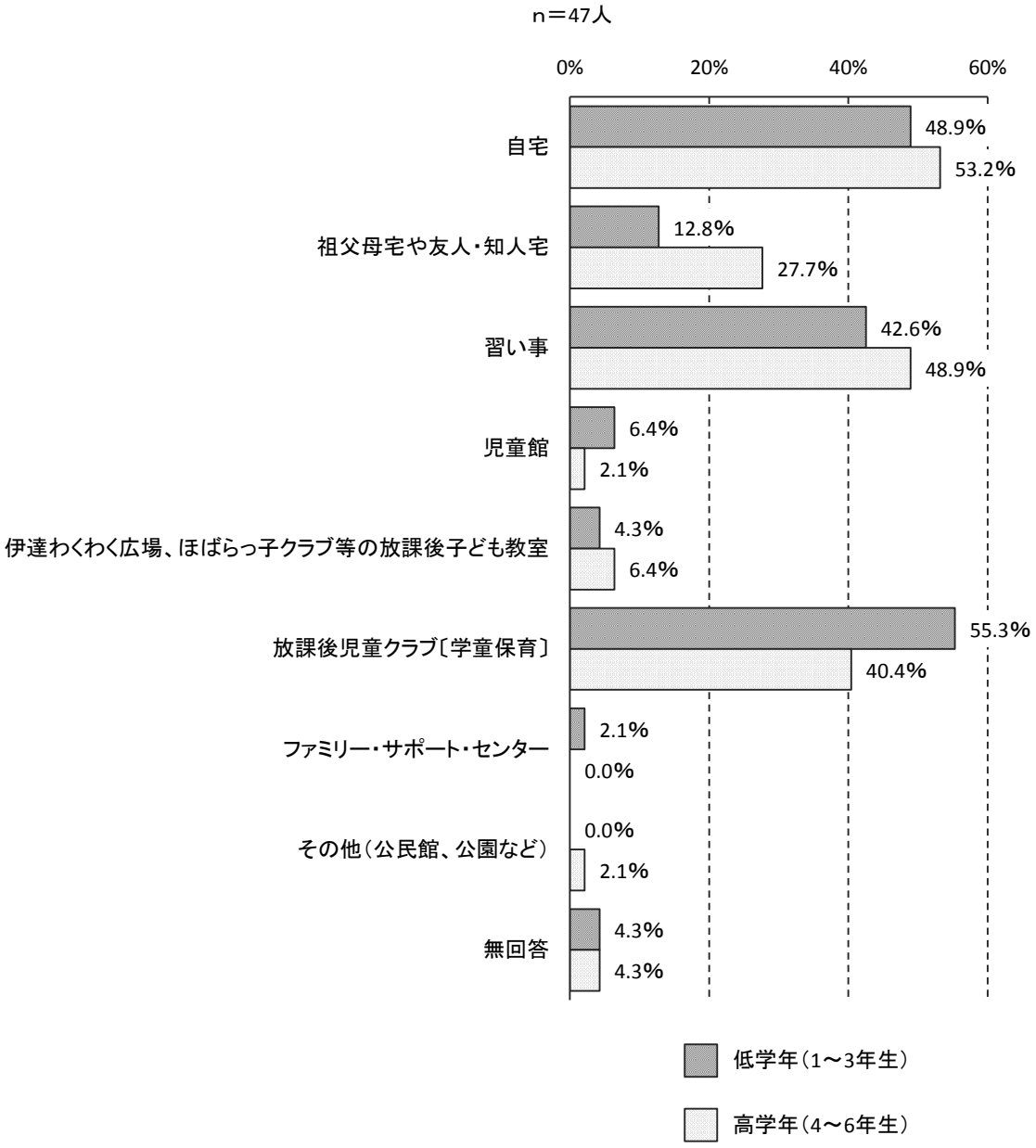
■親族・知人にみてもらった場合の困難度



親族・知人にみてもらうことの困難さについてみると、「特に困難ではない」は４割にとどまり、「非常に困難」（7.2%）と「どちらかというと困難」（49.3%）をあわせると、“困難”という回答が 56.5%と半数を超えています。

9　小学校就学後の放課後の過ごし方について

（1）放課後の過ごし方の希望

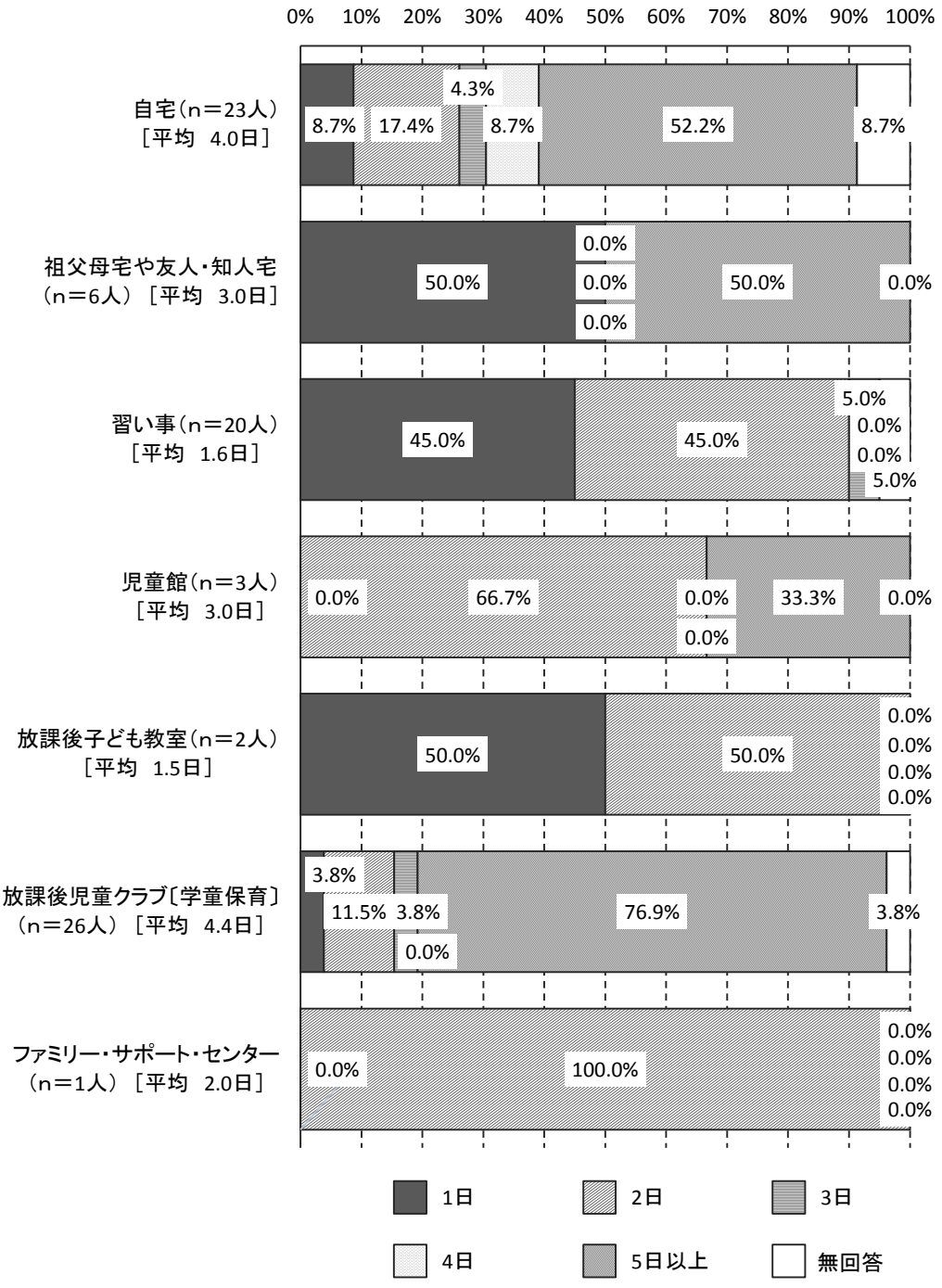


平成 26 年度に小学校入学予定の児童が小学校入学後、放課後をどのように過ごさせたいかについて聞いたところ、低学年のうちは「放課後児童クラブ〔学童保育〕」という回答が半数を超えて最も多くなっています。

高学年になったら、「自宅」（53.2%）や「習い事」（48.9%）などが半数前後で多くなっています。

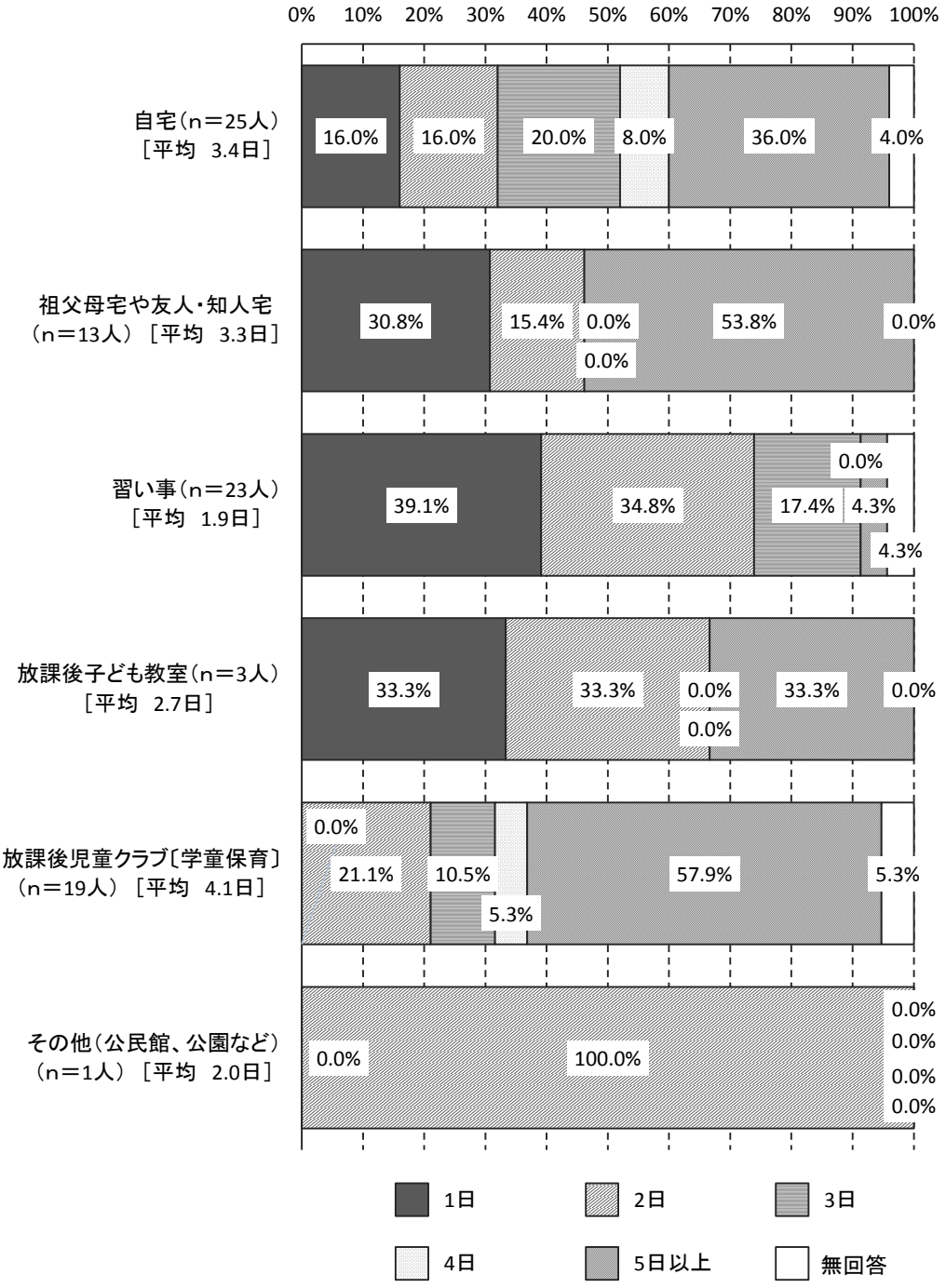
■過ごし方ごとの１週あたりの希望日数

【小学校低学年(1～3年生)】



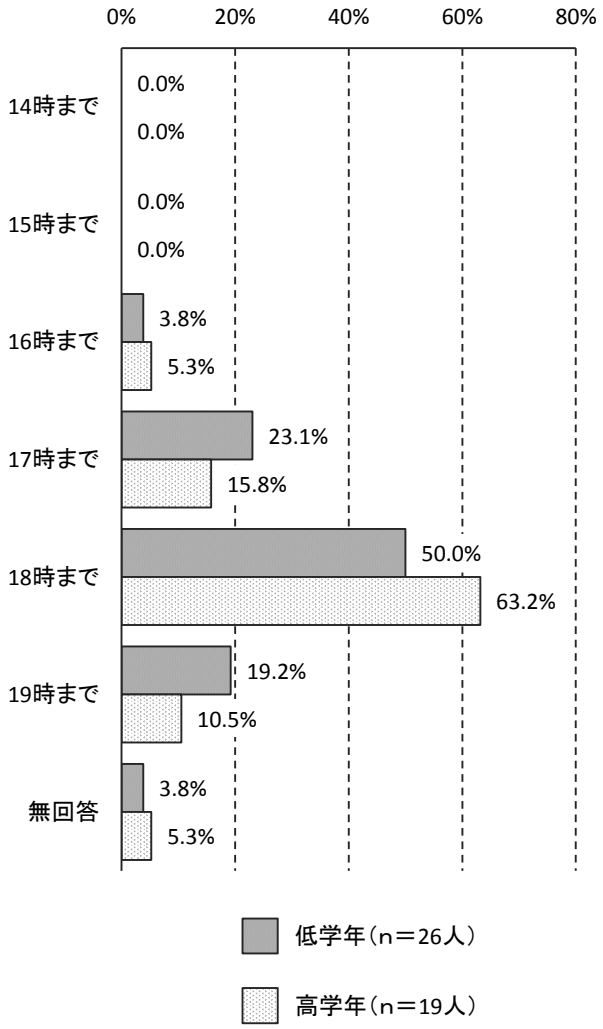
低学年のあいだの各項目の週あたりの希望日数をみると、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」や「自宅」などは週「５日」との回答が半数を超えて最も多くなっています。

【小学校高学年(4～6年生)】



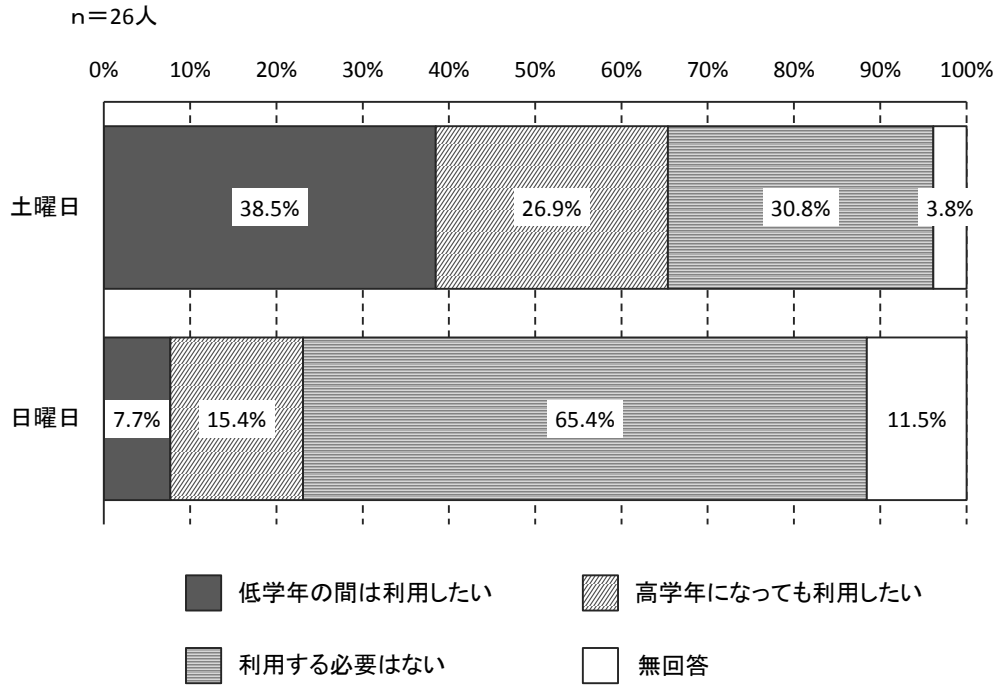
高学年になってからの各項目の週あたりの希望日数をみると、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」や「祖父母宅や友人・知人宅」などは週「５日」との回答が半数を超えて最も多くなっています。

■放課後児童クラブの希望終了時間



放課後児童クラブの終了時間の希望についてみると、低学年・高学年ともに、「18時まで」への回答が多くなっています。

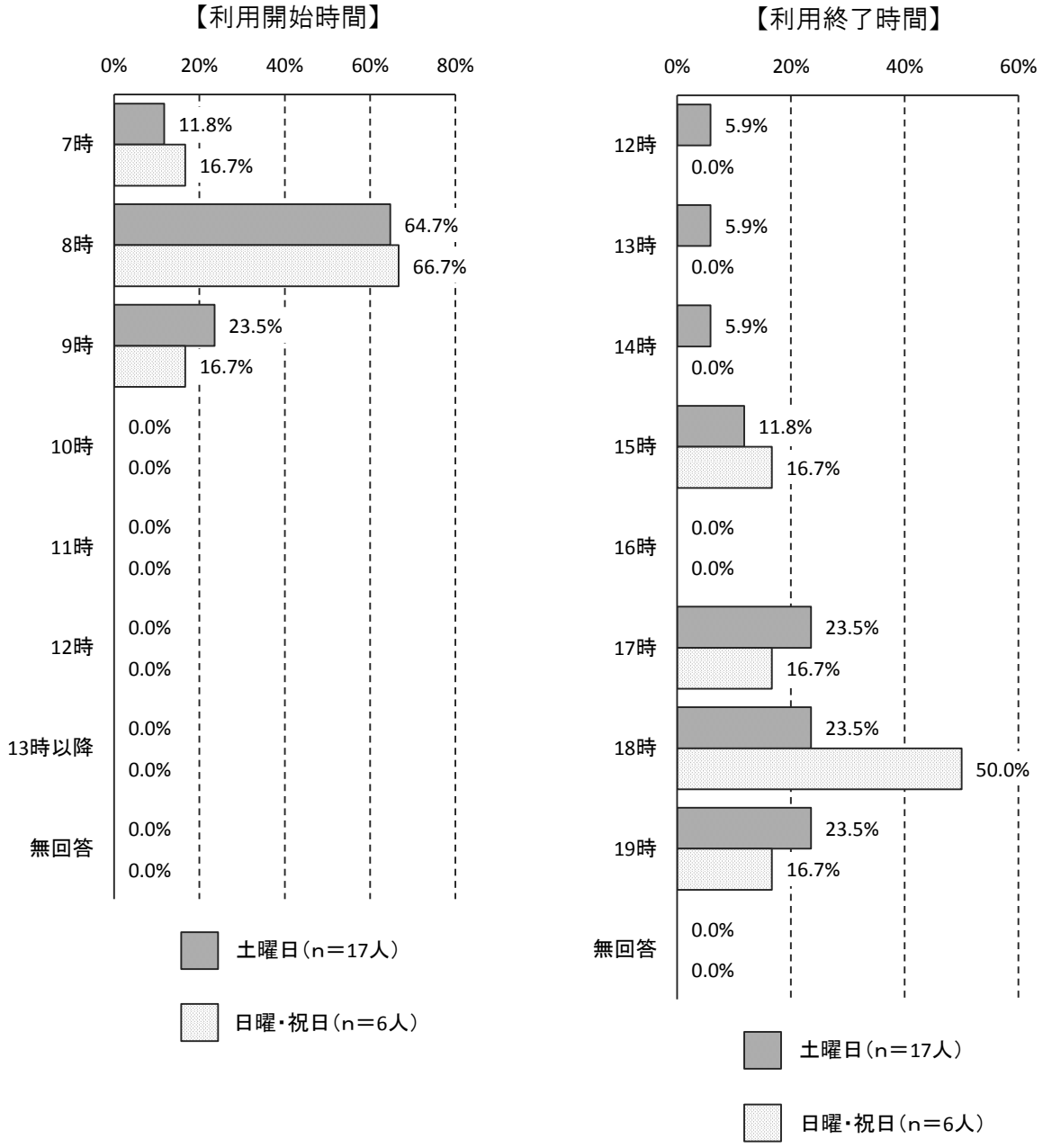
（2）土曜・休日等の放課後児童クラブの利用希望



土曜日、日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望についてみると、土曜日は「低学年の間は利用したい」（38.5%）、「高学年になっても利用したい」（26.9%）と“利用したい”という回答が 65.4%と６割を超えています。

一方、日曜・祝日については「利用する必要はない」が 65.4%で最も多く、“利用したい”という回答はあわせて 23.1%となっています。

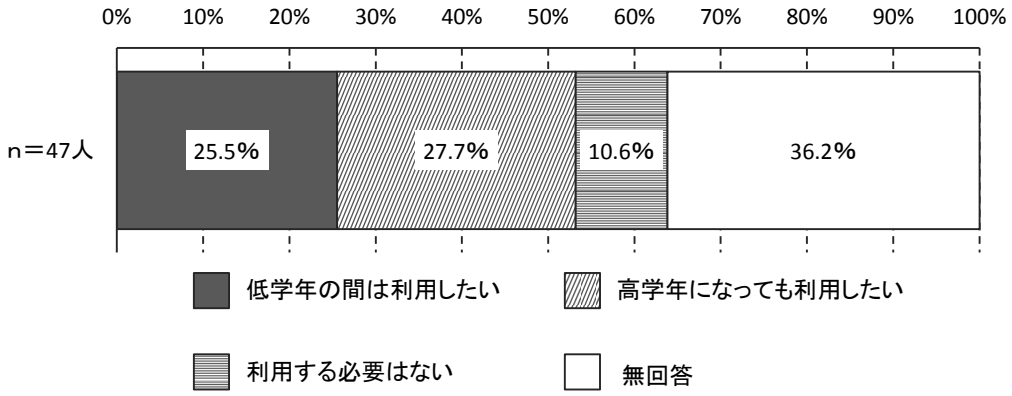
■利用したい時間帯



土曜日、日曜・祝日に放課後児童クラブを利用する場合の希望する開始・終了時間についてみると、土曜日、日曜・祝日ともに、開始時間は「８時」への回答が多くなっています。

終了時間については、日曜・祝日は「18 時」への回答が半数を占めています。土曜日は 17 時から 19 時まで希望は分散していますが、日曜日よりも「19 時」までの希望が高くなっています。

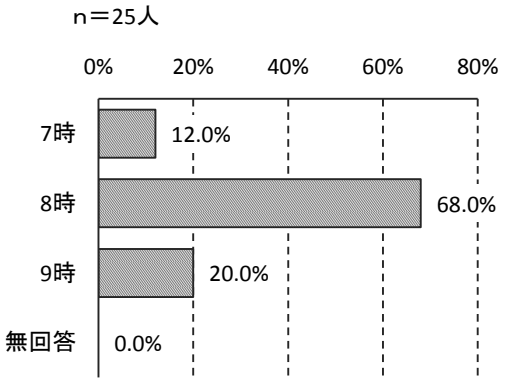
（3）長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望



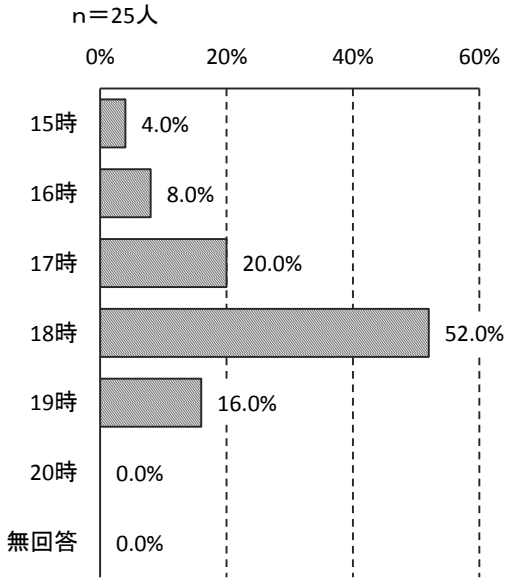
夏休みなどの長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望についてみると、「低学年の間は利用したい」（25.5%）、「高学年になっても利用したい」（27.7%）と“利用したい”という回答が 53.2%と半数を超えています。

■利用したい時間帯

【利用開始時間】



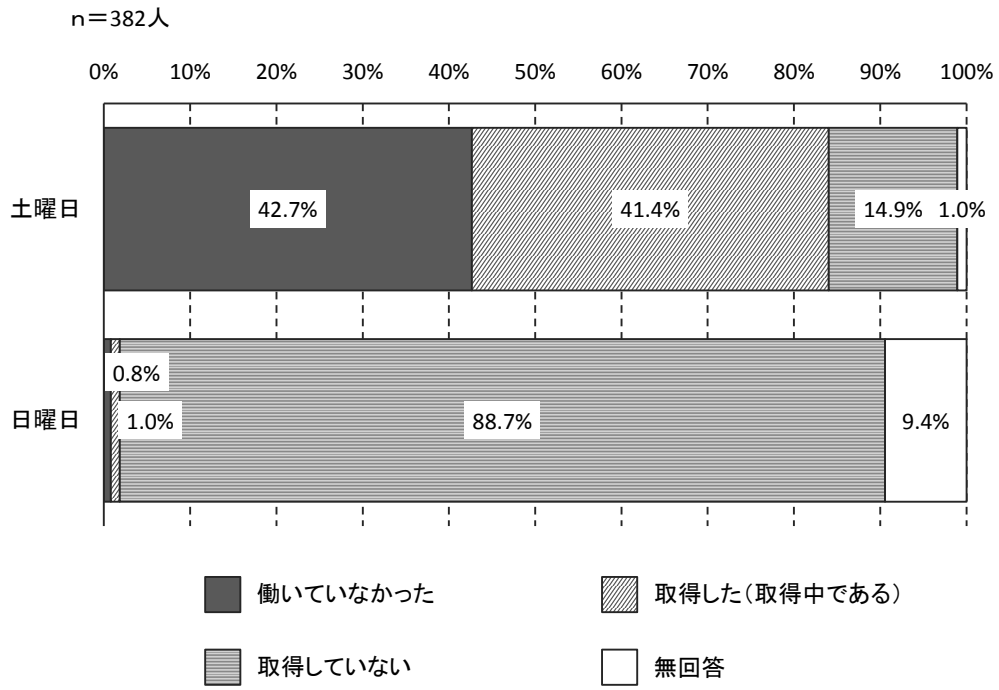
【利用終了時間】



夏休みなどの長期休暇中の放課後児童クラブの利用開始時間は「８時」、終了時間については「18 時」への回答が多くなっています。

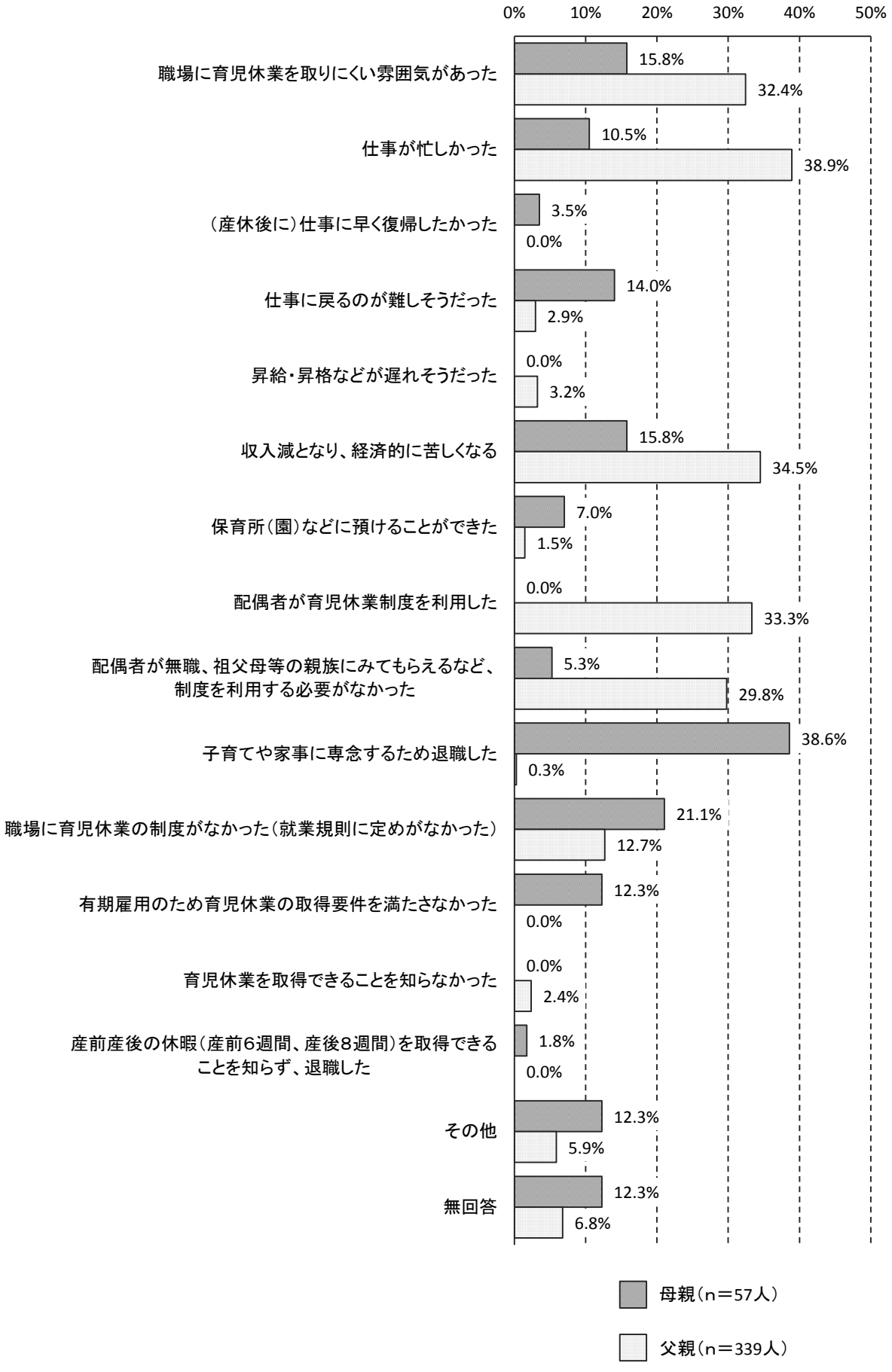
10　職場との両立支援制度について

（1）育児休業の取得状況



育児休業の取得状況についてみると、母親では「取得した（取得中である）という回答が 41.4%、父親では 1.0%にとどまっています。

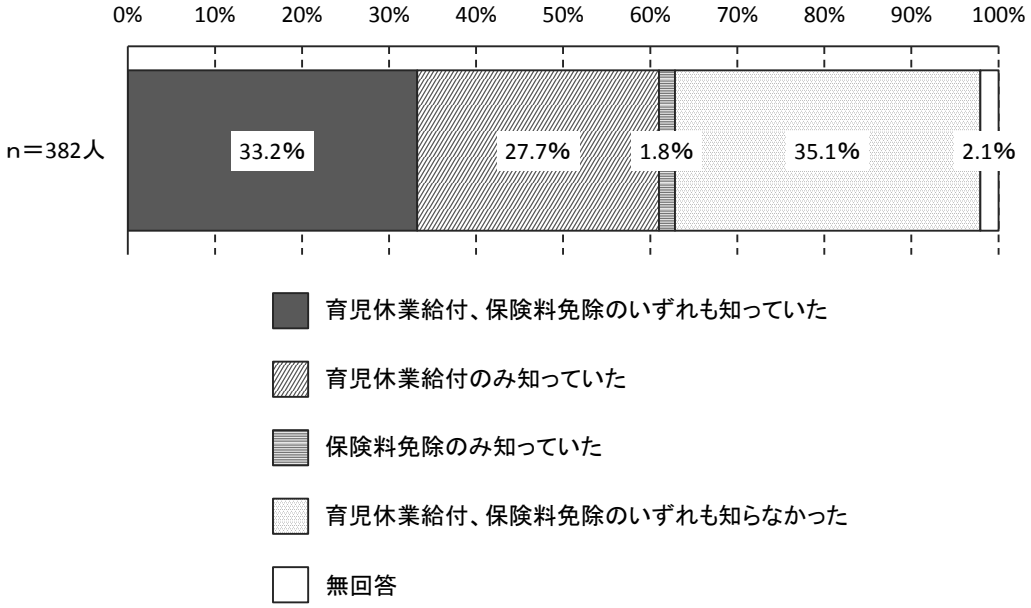
■育児休業を取得していない理由



育児休業を取得しなかった回答者に理由を聞くと、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」との回答が 38.6%で最も多く、ついで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が 21.1%で続いています。

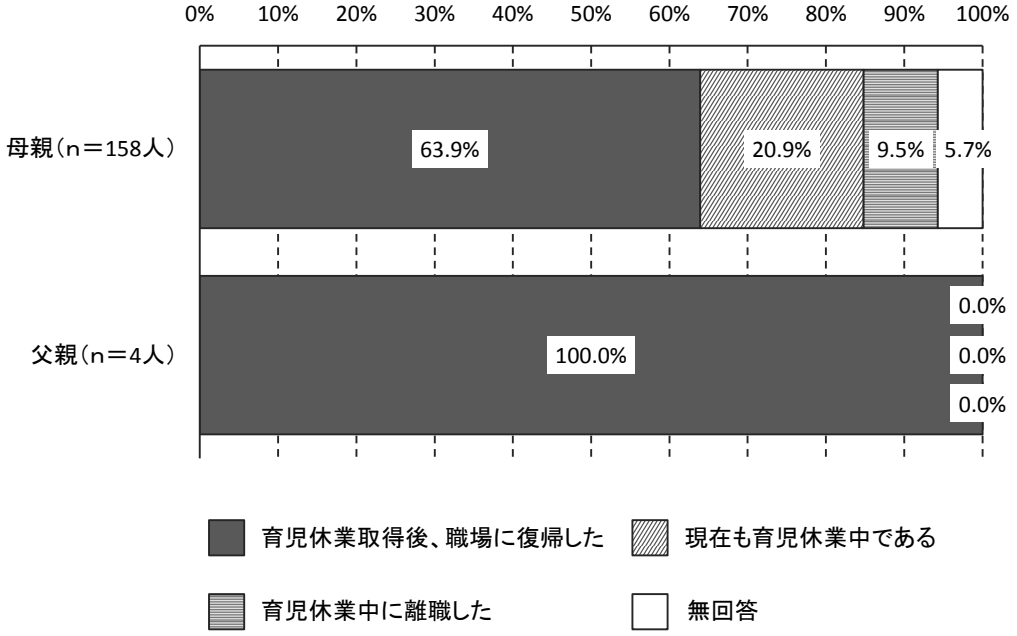
父親では「仕事が忙しかった」（38.9%）、「収入減となり、経済的に苦しくなる」（34.5%）、「配偶者が育児休業制度を利用した」（33.3%）、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（32.4%）などへの回答が３割を超えています。

（２）育児休業給付や保険料免除の認知度



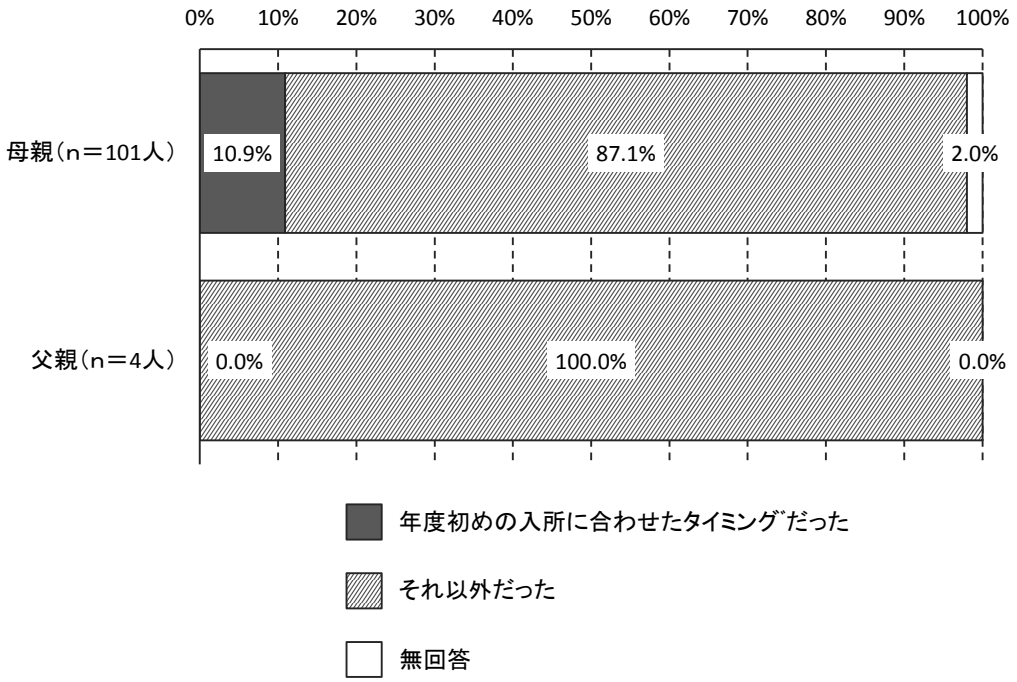
育児休業給付や保険料免除の認知度についてみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」（33.2%）、「育児休業給付のみ知っていた」（27.7%）との回答が３割前後となっていますが、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」（35.1%）との回答も３割を超えています。

（3）育児休業取得後の状況



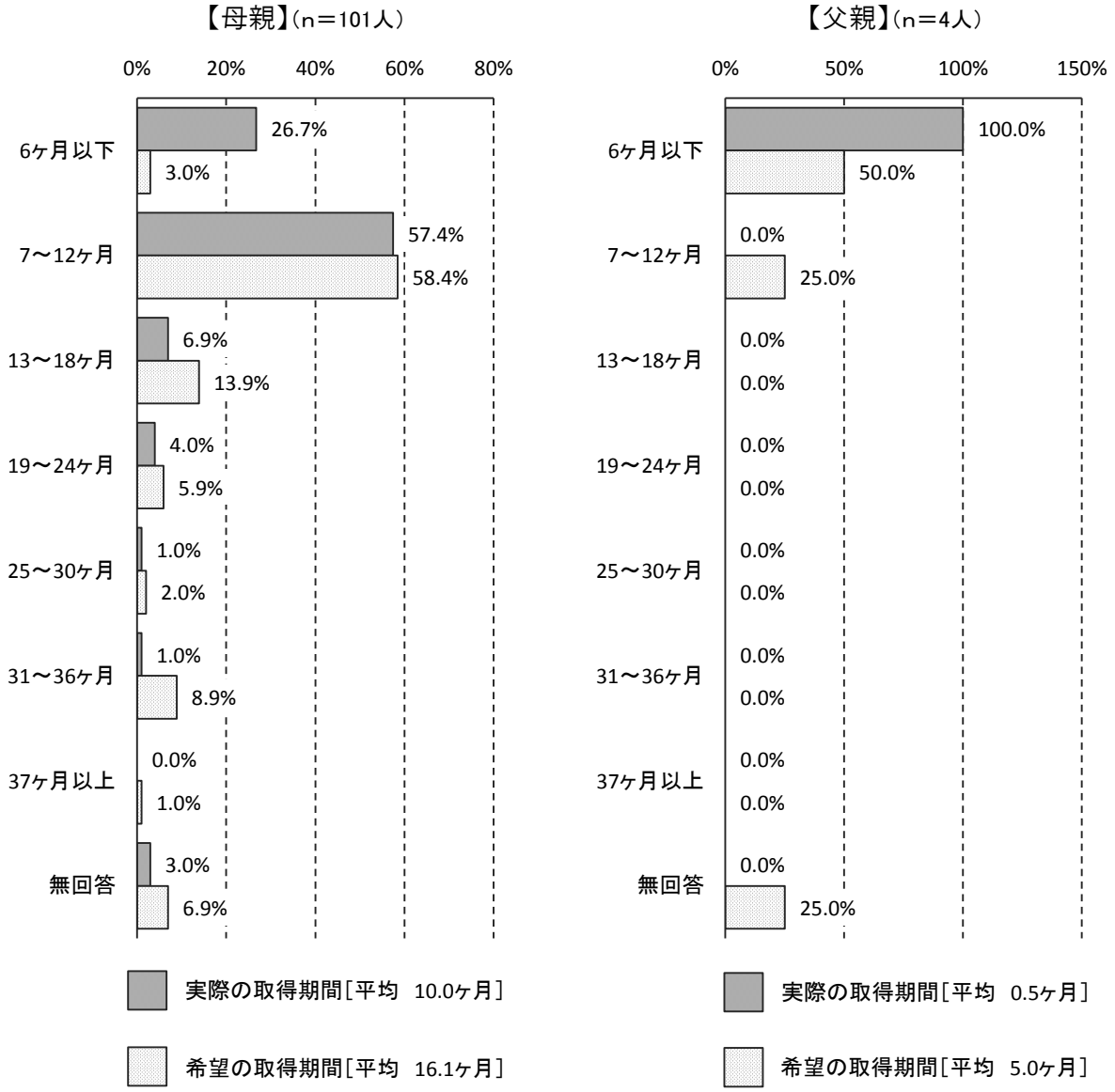
育児休業取得者の取得後の状況についてみると、父親は全員が、母親では 63.9%が「育児休業取得後、職場に復帰した」としています。

■職場復帰のタイミング



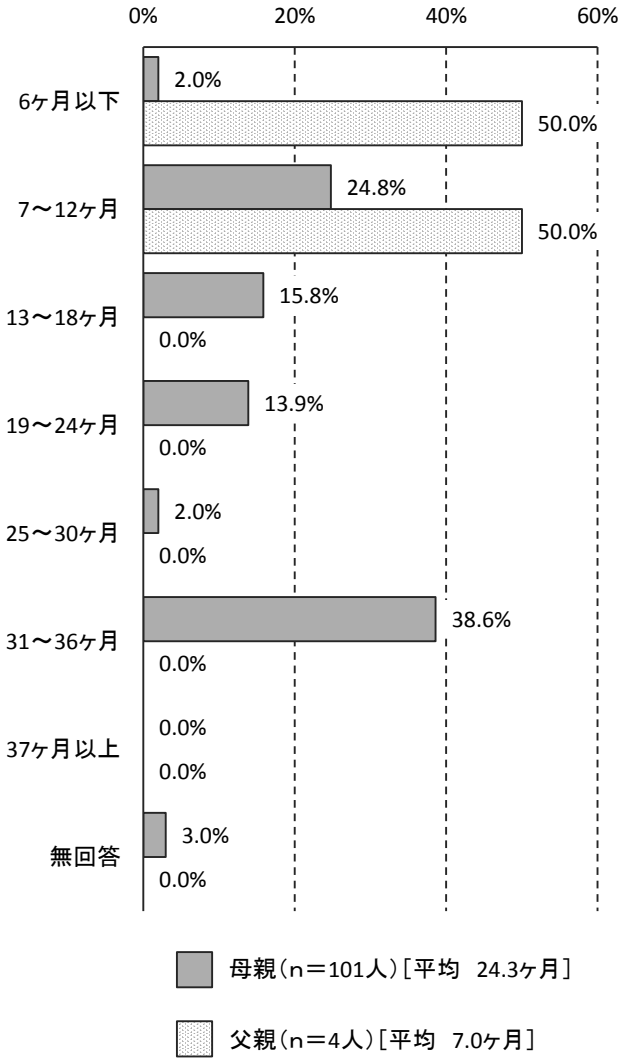
職場復帰は年度初めの入所い合わせたタイミングだったかを聞いたところ、父親は全員が、母親では 87.1%が「それ以外だった」としています。

■職場復帰時の子どもの年齢



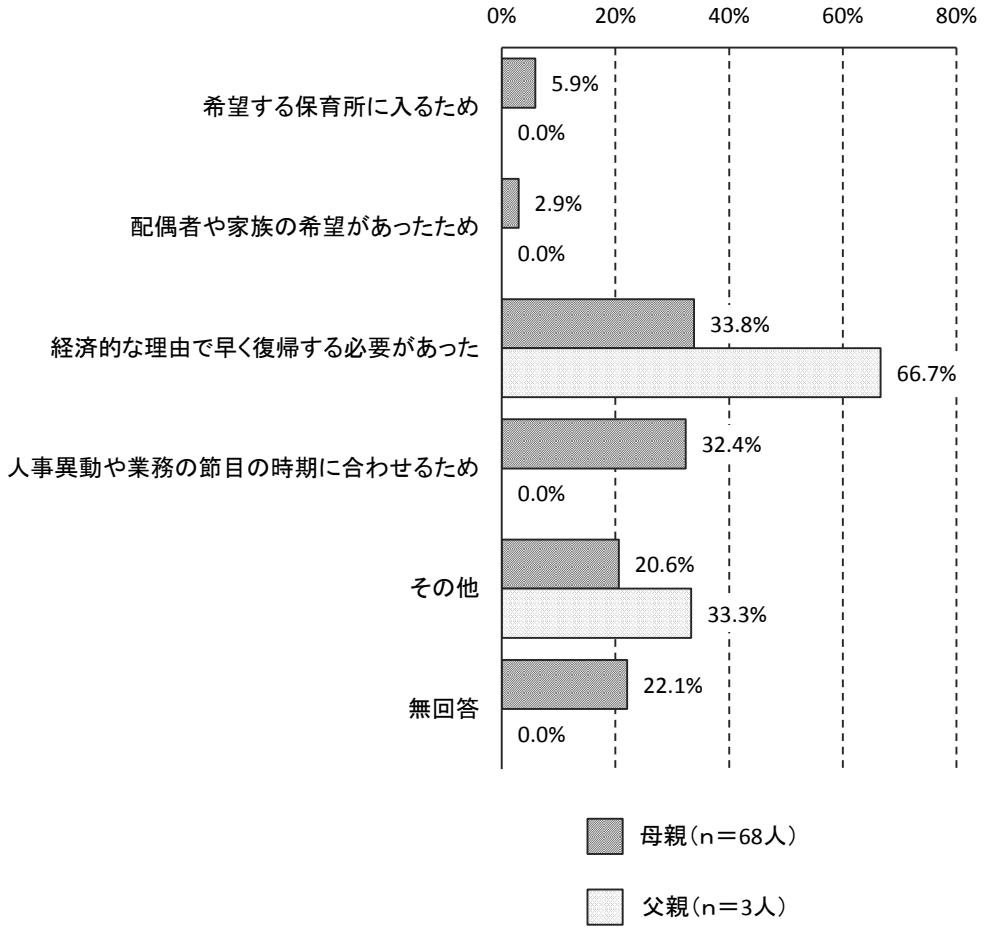
職場復帰した際の子どもの年齢について実際と希望についてみると、母親では実際・希望ともに「7～12 ヶ月」への回答が最も多くなっています。13 ヶ月以上は実際よりも希望の回答の割合が高くなっています。

■３歳まで休暇を取得できる制度があった場合



３歳まで休暇を取得できる制度が勤め先にあった場合の利用希望にるいてみると、母親では「31～36 ヶ月」（38.6%）まで取得したかったという回答が多くなっています。

■希望時期より早く職場復帰した理由



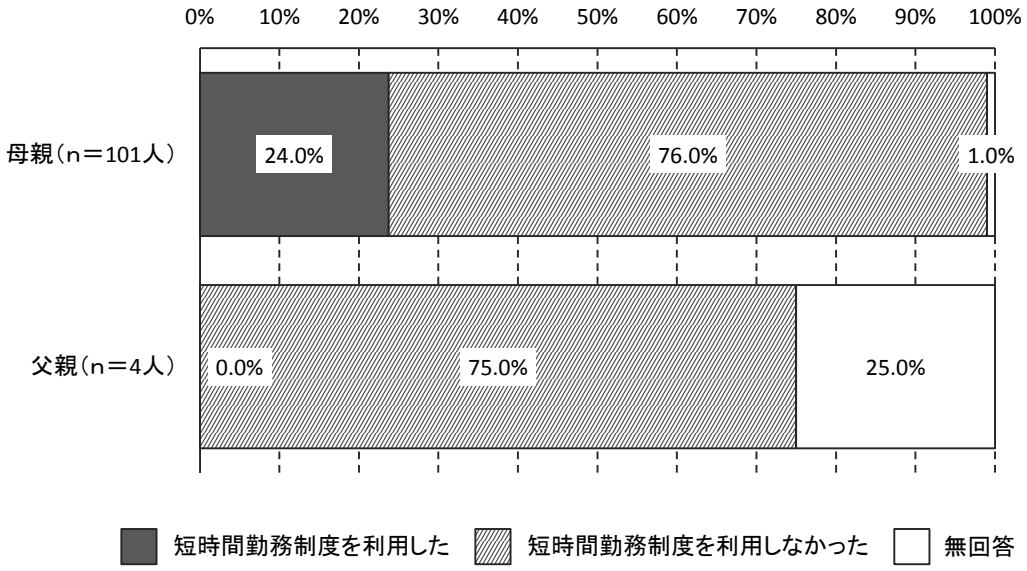
希望より早く職場復帰した理由を聞くと、母親では「経済的な理由で早く復帰する必要があった」（33.8%）、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」（32.4%）などへの回答が３割を超え多くなっています。

■希望時期より遅く復帰した理由

希望より遅く復帰した母親は２人で、その理由は２人とも「職場の受け入れ態勢が整っていなかったため」と回答しています。

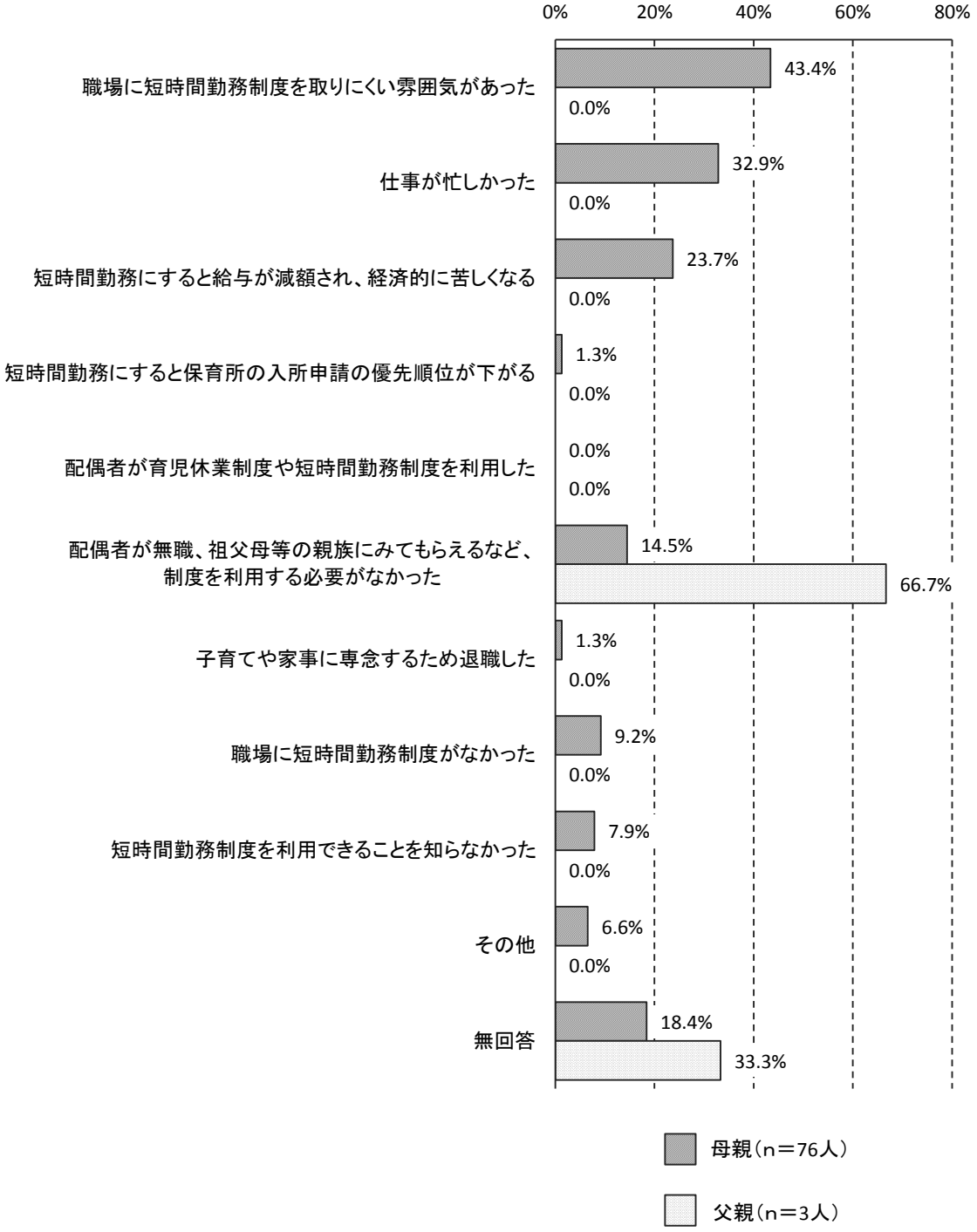
希望より遅く復帰した父親はいませんでした。

■職場復帰時の短時間勤務制度の利用状況



職場復帰時の短時間勤務制度の利用状況についてみると、母親では 76.0%が「短時間勤務制度を利用しなかった」としています。

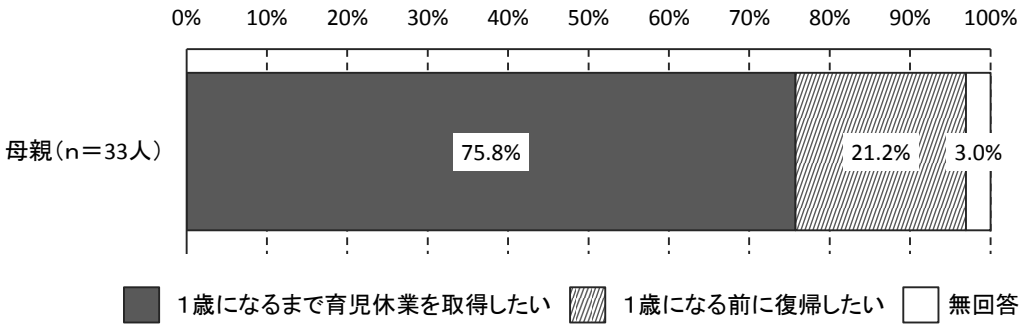
■短時間勤務制度を利用しなかった理由



短時間勤務制度を利用しなかった理由としては、母親では「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」への回答が 43.4%で最も多くなっています。

ついで「仕事が忙しかった」が 32.9%、「短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる」が 23.7%で続いています。

（４）１歳時に必ず利用可能な事業がある場合の育児休業の取得希望

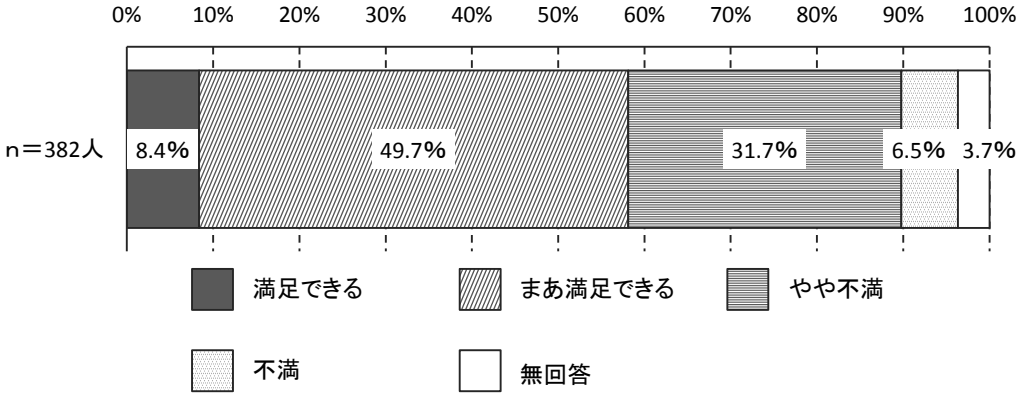


１歳時に必ず利用可能な事業がある場合に育児休業を取得したいかどうかについて聞くと、母親では４人に３人以上が「１歳になるまで育児休業を取得したい」としています。

現在も育児休業中の父親はいませんでした。

11　伊達市における子ども･子育て支援を取り巻く状況について

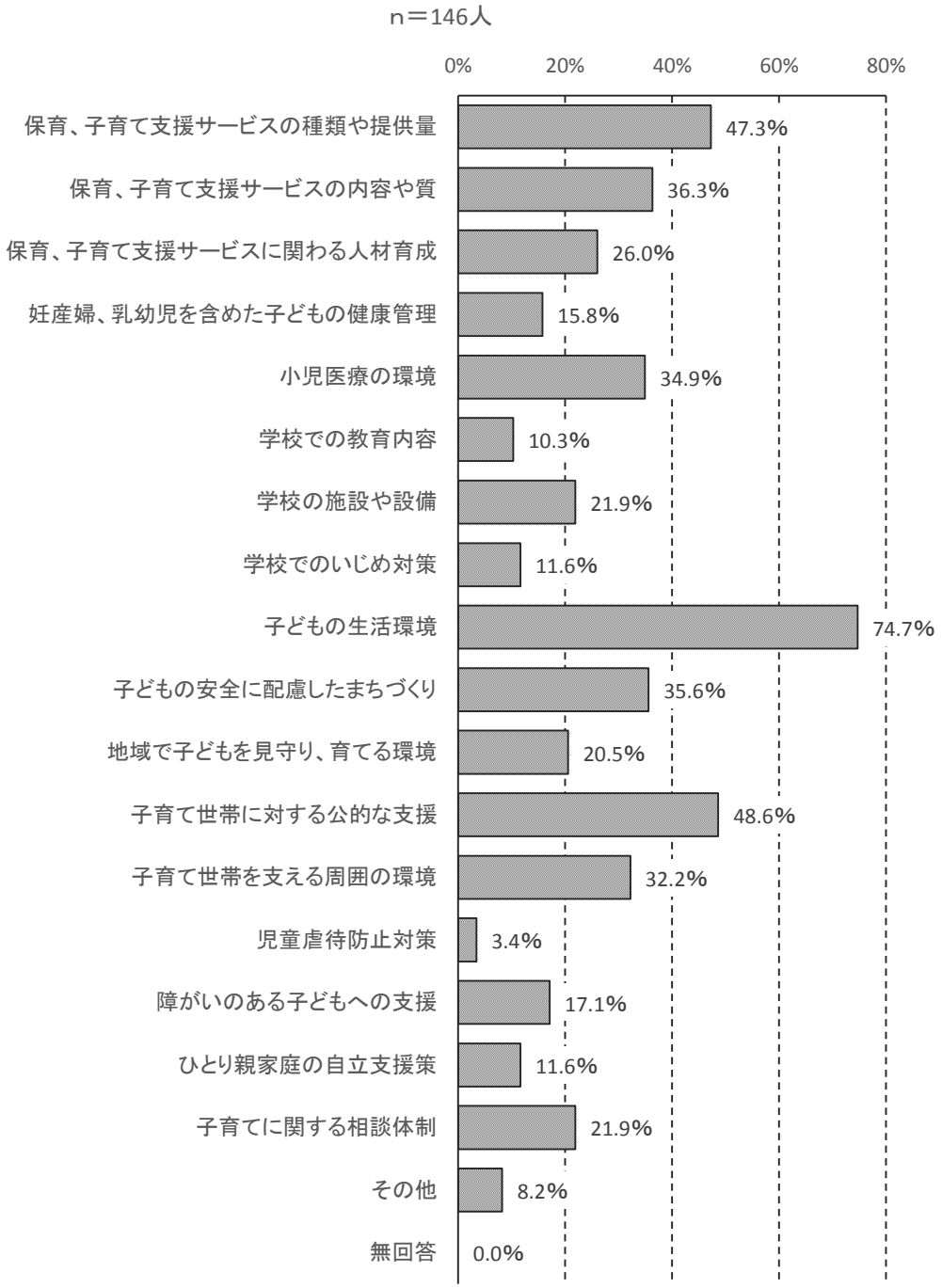
（1）伊達市のこれまでの子ども・子育て支援の取り組みに対する評価



伊達市のこれまでの子ども･子育て支援の取り組みに対する総合的な評価をみると、「満足」（8.4%）、「まあ満足できる」（49.7%）との回答をあわせると、６割近くが肯定的に評価しています。

一方、「やや不満」（31.7%）、「不満」（6.5%）という否定的な評価は４割近くを占めています。

■伊達市の子ども・子育て支援に関して不満に思うこと

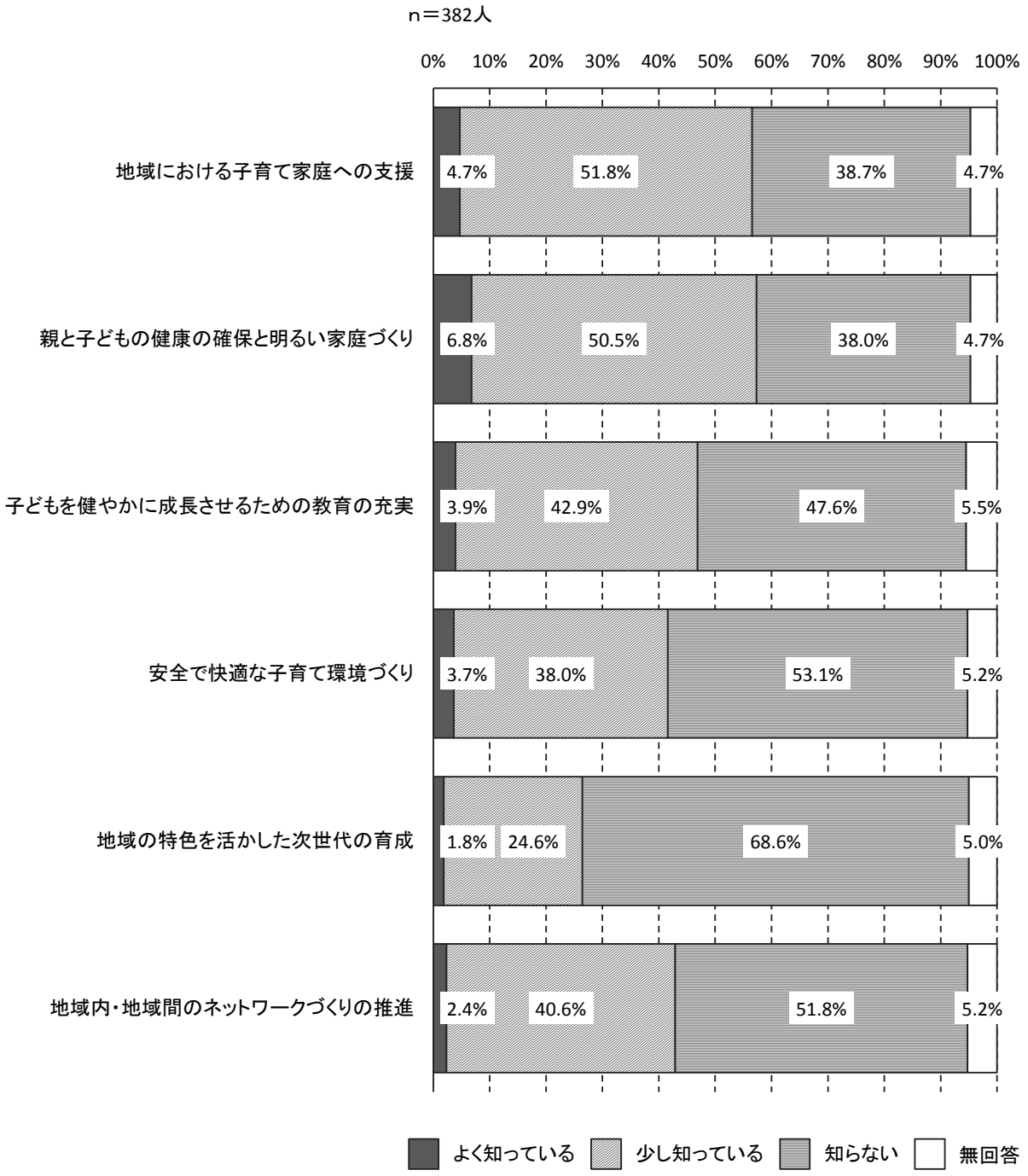


伊達市のこれまでの子ども・子育て支援の取り組みに対して「やや不満」または「不満」との回答者に不満ポイントについて聞くと、「子どもの生活環境」が 74.7%で最も多くなっています。

ついで「子育て世帯に対する公的な支援」（48.6%）、「保育、子育て支援サービスの種類や提供量」（47.3%）などへの回答が多くなっています。

（2）現行の伊達市次世代育成支援行動計画の取り組みについて

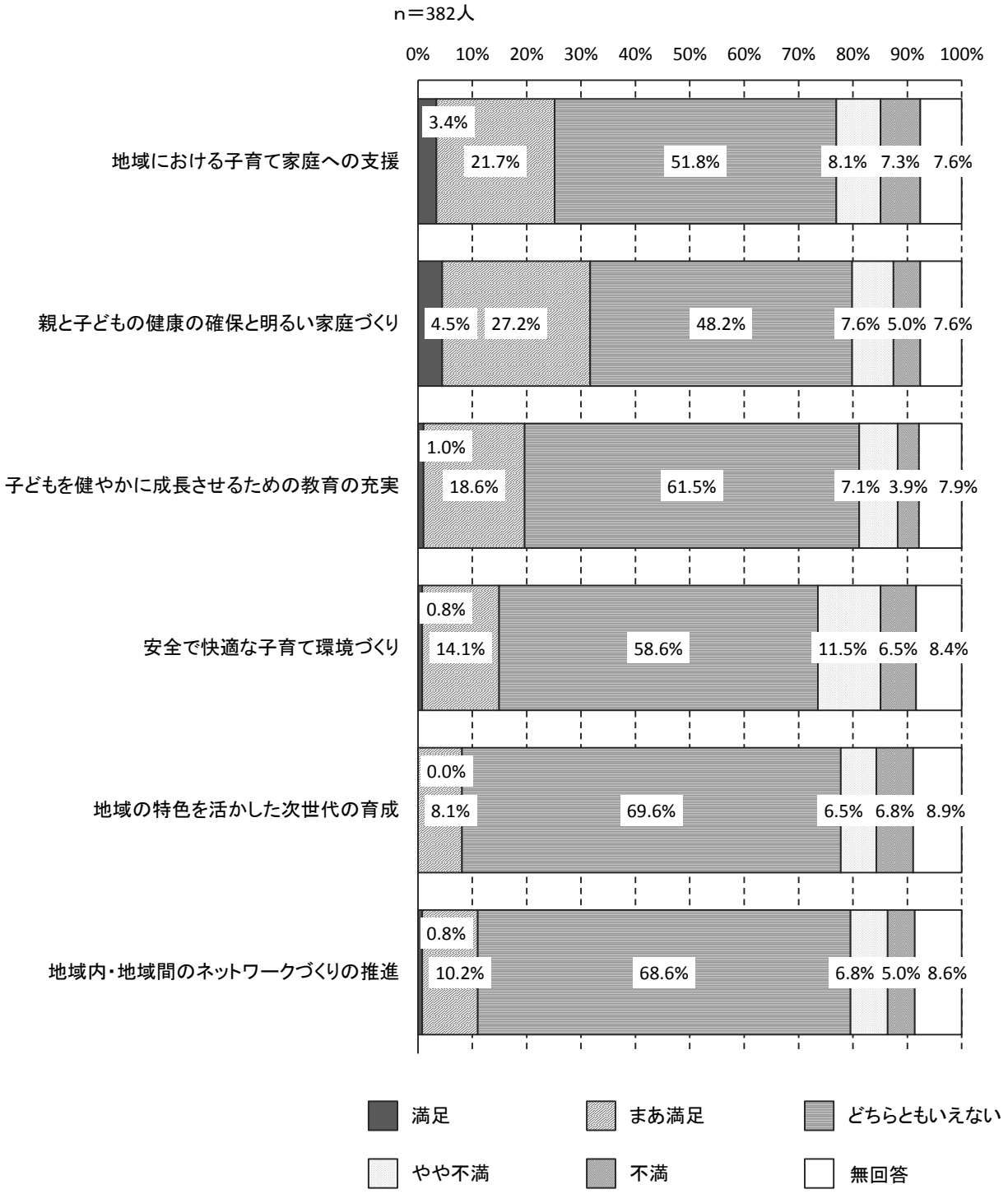
■取り組みの認知度



伊達市次世代育成支援行動計画における基本目標ごとの主な取り組みの認知度をみると、よく知っている」という回答は１割を下回っています。

「地域の特色を活かした次世代の育成」、「安全で快適な子育て環境づくり」、「地域内・地域間のネットワークづくりの推進」については「知らない」という回答が半数を超えています。

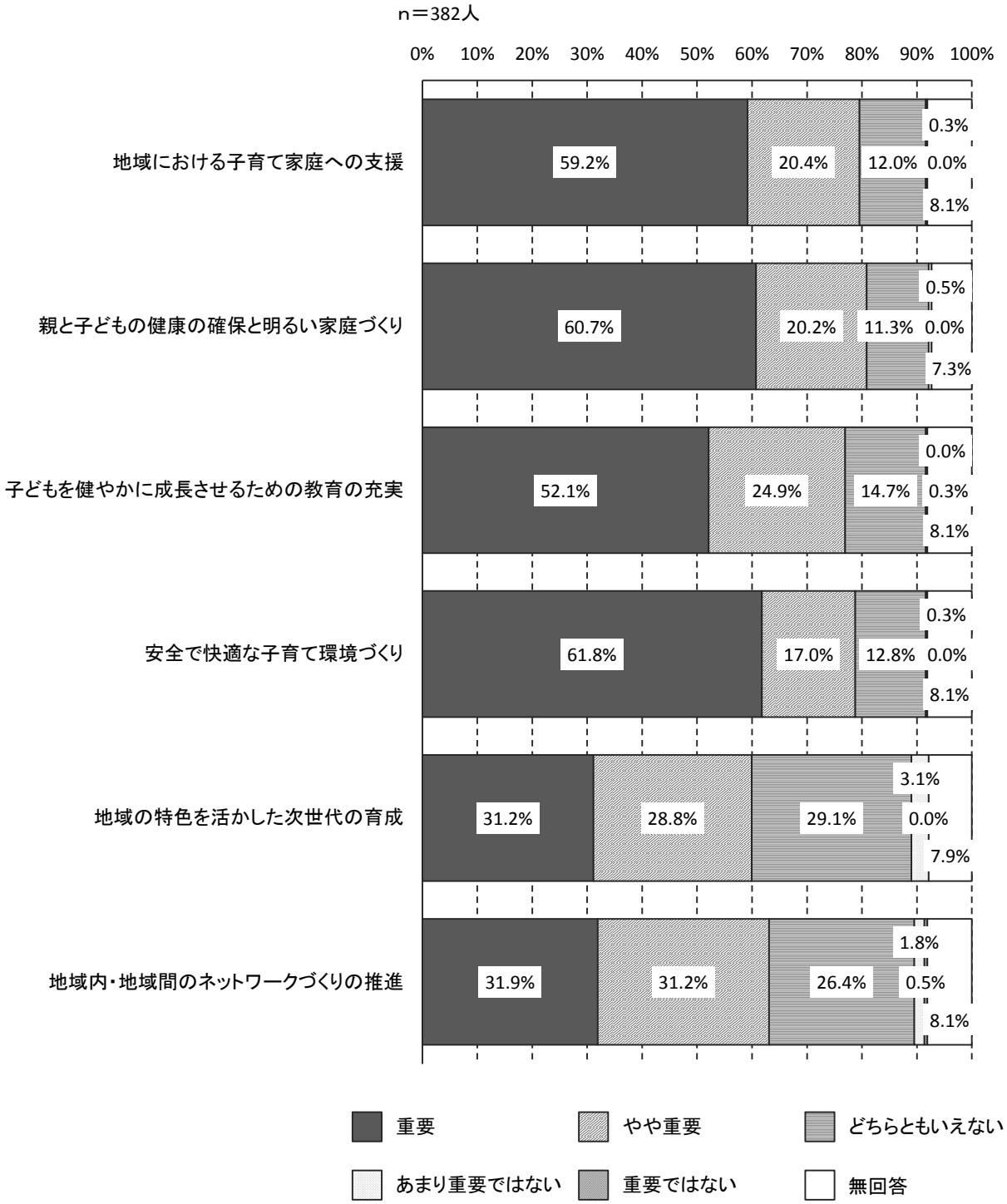
■現在の取り組みに対する満足度



伊達市次世代育成支援行動計画における基本目標ごとの主な取り組みに対する満足度をみると、「親と子どもの健康の確保と明るい家庭づくり」、「地域における子育て家庭への支援」については満足度（「満足」+「やや満足」）が２割を超えて高くなっています。

一方、「安全で快適な子育て環境づくり」、「地域の特色を活かした次世代の育成」、「地域内・地域間のネットワークづくりの推進」などは、不満度（「やや不満」+「不満」）が満足度を上回っています。

■今後の取り組みにおける重要度



伊達市次世代育成支援行動計画における基本目標ごとの主な取り組みに対する今後の重要度についてみると、「地域の特色を活かした次世代の育成」、「地域内・地域間のネットワークづくりの推進」については「重要」という回答が３割にとどまっていますが、他の取り組みについては「重要」という回答が半数を超えています。

■満足度と重要度の状況

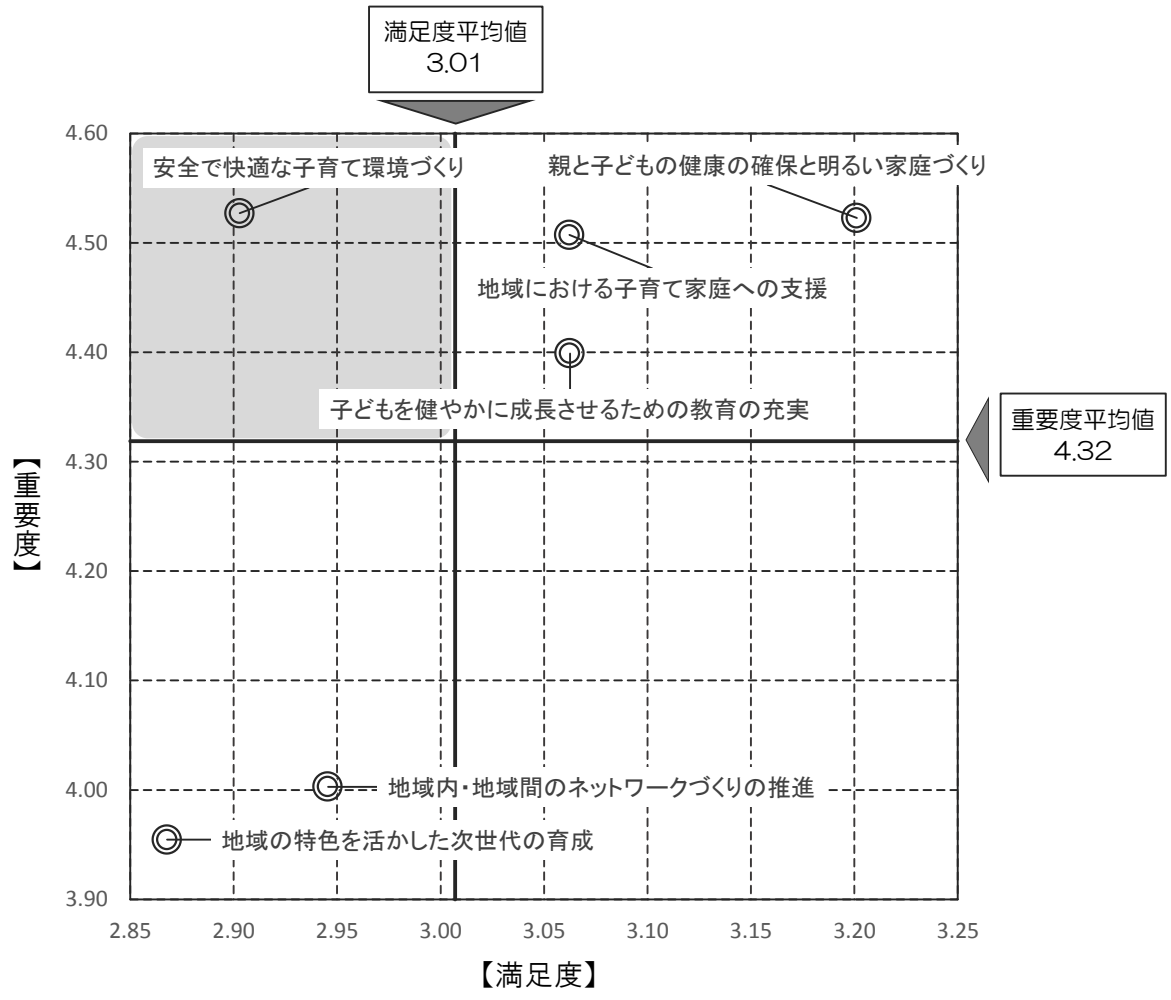
【①満足度】

満足＝5 点、やや満足＝4 点、どちらともいえない＝3 点、やや不満＝2 点、不満＝1 点

【②重要度】

重要＝5 点、やや重要＝4 点、どちらともいえない＝3 点、あまり重要ではない＝2 点、重要ではない＝1 点

○①満足度と②重要度について、各回答を上記のように得点化し、各取り組みの平均得点を整理したものが以下のグラフです。
○横軸に満足度の平均得点、縦軸に重要度の平均得点を使用して、取り組みごとの満足度と重要度の関係を整理したものが次頁のプロット図です。

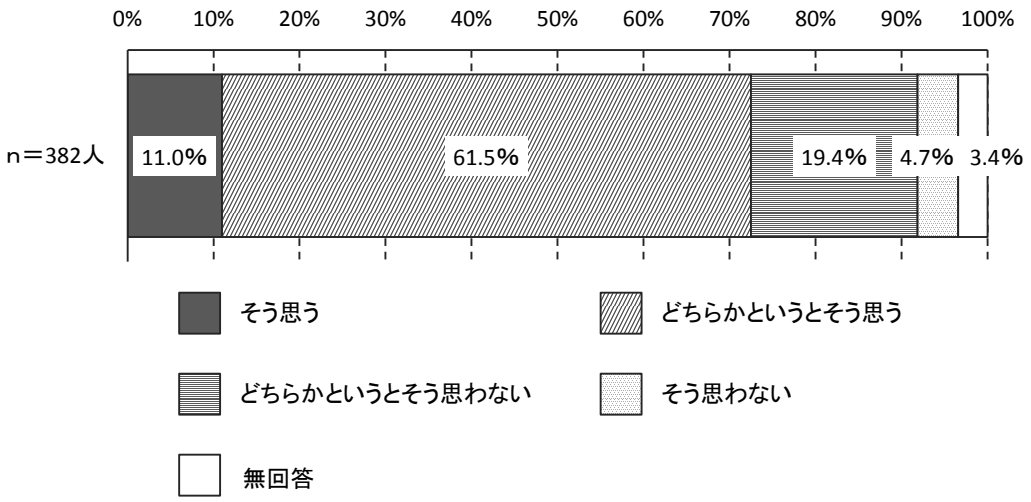


【各領域の内訳】

【最重要課題領域】	【維持向上領域】
重要度が平均値より高いにもかかわらず、満足度が平均値より低い取り組み ・安全で快適な子育て環境づくり	重要度・満足度ともに平均値より高い取り組み ・地域における子育て家庭への支援 ・親と子どもの健康の確保と明るい家庭づくり ・子どもを健やかに成長させるための教育の充実
【重要課題領域】	**【方向性の再検討領域】**
満足度・重要度がともに平均値より低い取り組み ・地域の特色を活かした次世代の育成 ・地域内・地域間のネットワークづくりの推進	満足度は平均値より高いものの、重要度が平均値より低い取り組み

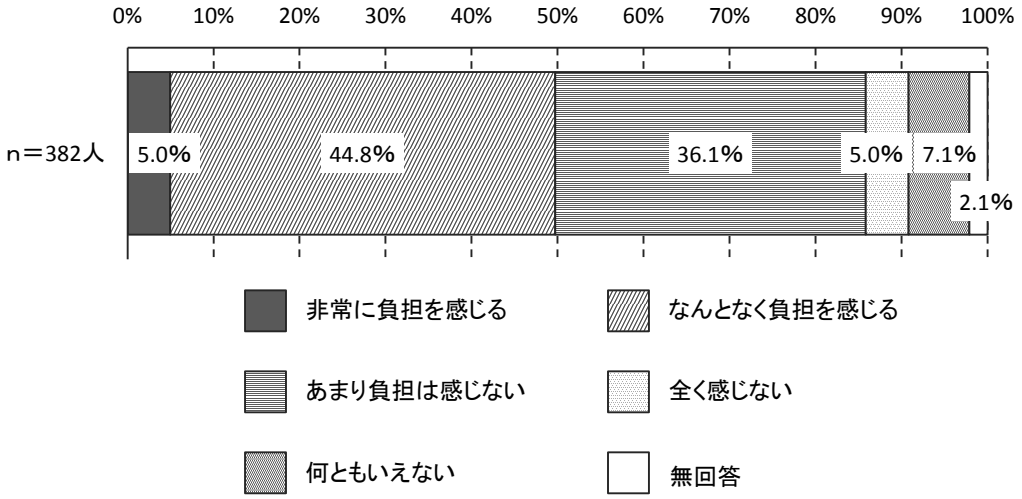
伊達市次世代育成支援行動計画における基本目標ごとの主な取り組みに対する満足度と重要度の関係をみると、重要度が高いにも関わらず満足度が低い評価ギャップの大きい取り組みは、「安全で快適な子育て環境づくり」となっています。

（3）伊達市における子育てのしやすさ



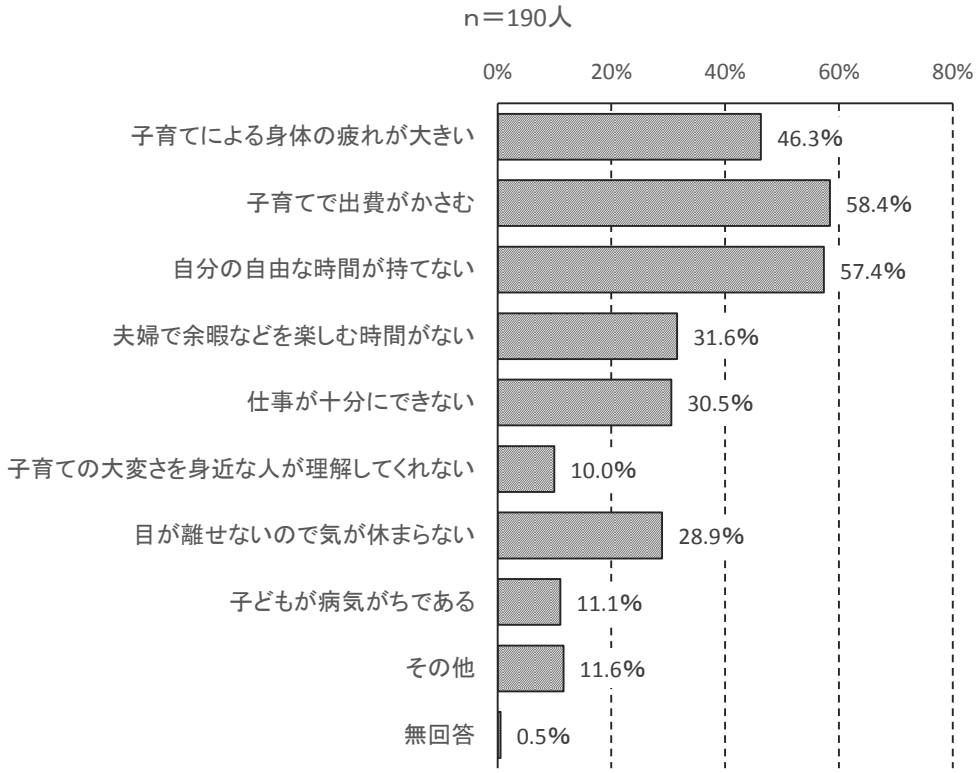
伊達市における子育てのしやすさに対する評価についてみると、子育てしやすい（「そう思う」、「どちらかというとそう思う」）という評価は７割を超えています。

（４）子育てに関する負担感



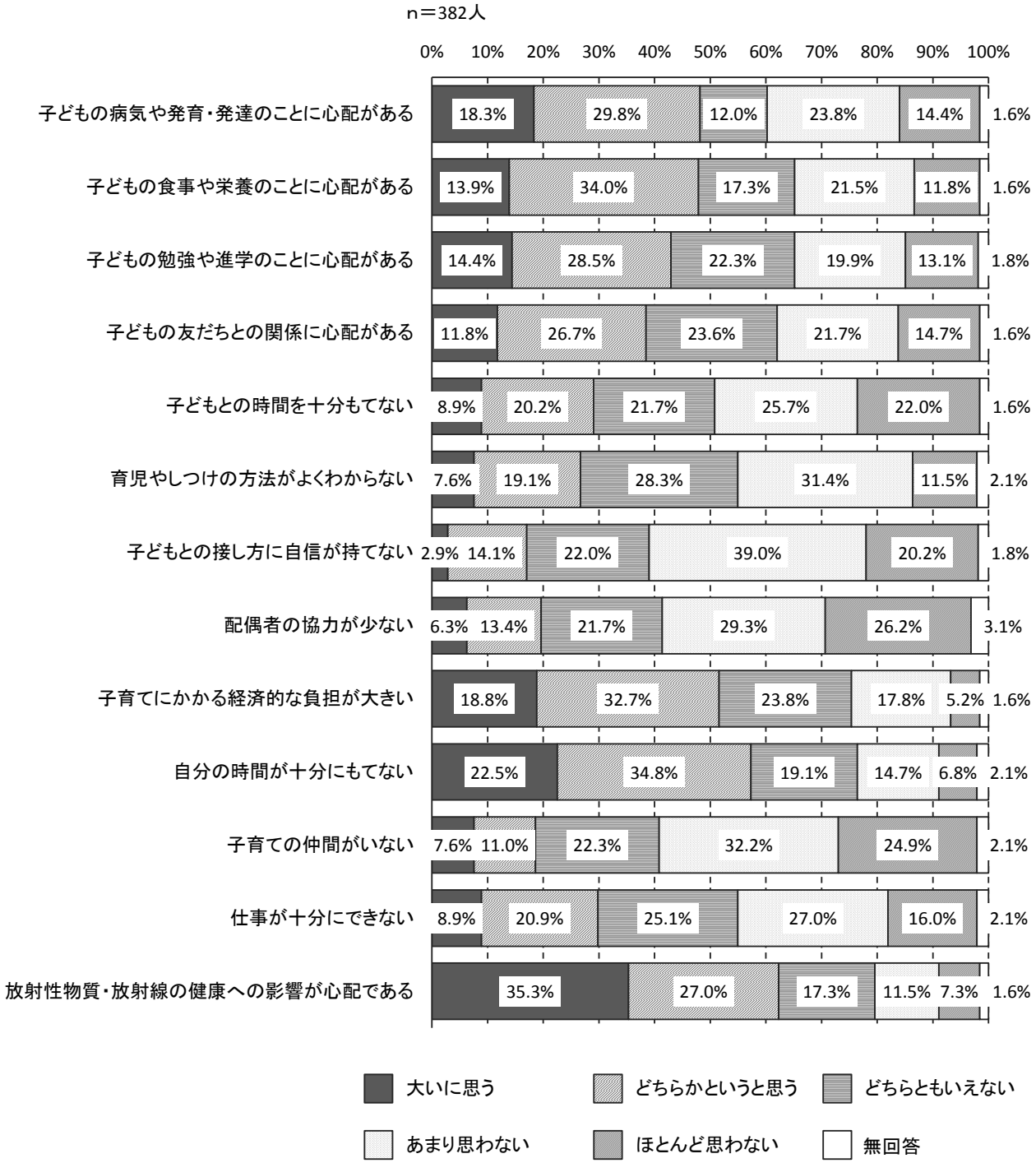
子育てに関する負担感についてみると、「非常に負担を感じる」（5.0%）、「なんとくな負担を感じる」（44.8%）をあわせると、回答者の半数は何らかの負担感を感じるとしています。

■子育てをする上で特に負担に思っていること



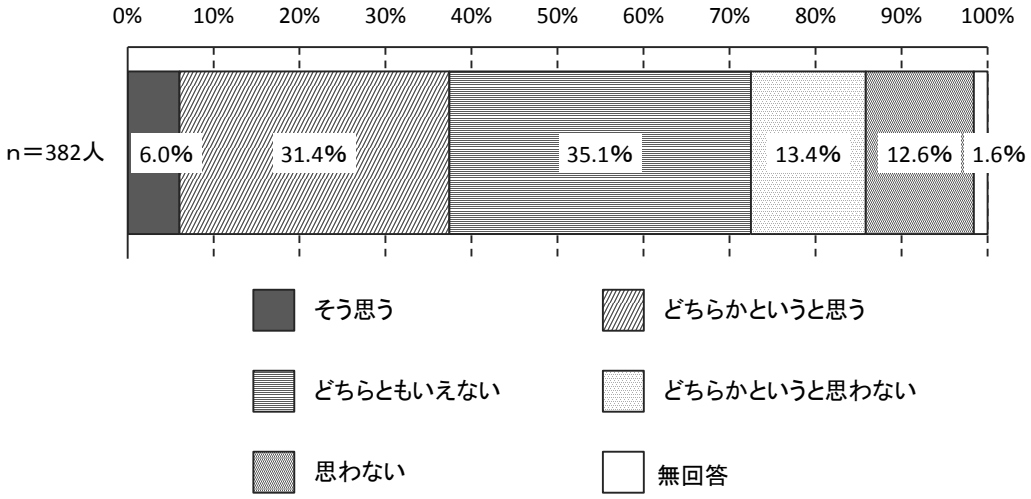
子育てをする上で特に負担に思っていることとしては、「子育てで出費がかさむ」（58.4%）、「自分の自由な時間が持てない」（57.4%）などへの回答が多くなっています。

（5）子育てに関する悩みや気にかかること



子育てに関して悩みや気にかかることについてみると、「放射性物質・放射線の健康への影響が心配である」については「大いに思う」という回答が 35.3%と最も多く、「自分の時間が十分にもてない」（22.5%）、「子育てにかかる経済的な負担が大きい」（18.8%）、「子どもの病気や発育・発達のことに心配がある」（18.3%）なども「大いに思う」という回答が２割前後を占めています。

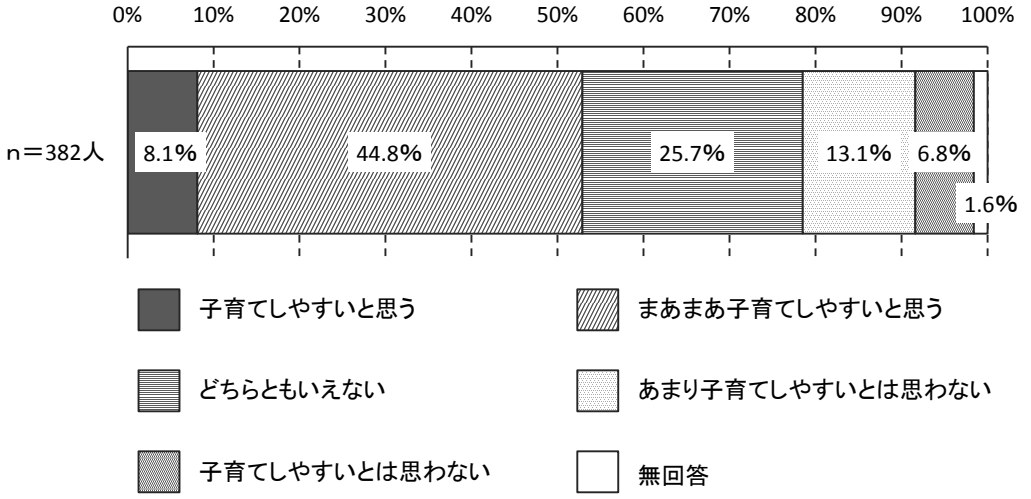
（6）子どもや親が安心して外出できる環境に対する評価



伊達市は、子どもの遊び場等子どもや親が安心して外出できる環境（子どもの遊び場や公園等）に対する評価をみると、「そう思う」（6.0%）と「どちらかというと思う」（31.4%）をあわせると、４割近くが安心して外出できる環境になっていると思うと評価しています。

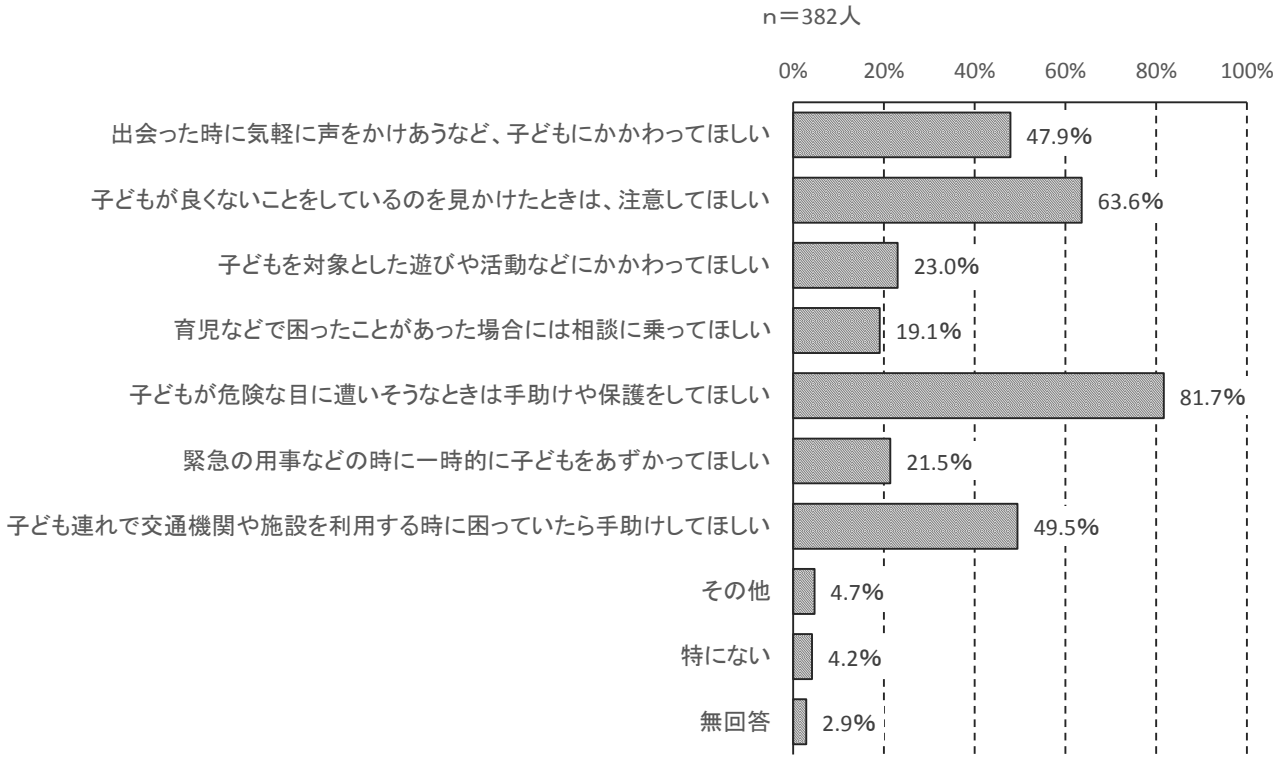
一方、「どちらかというと思わない」（13.4%）、「思わない」（12.6%）という回答をあわせると 26.0%となっています。

（7）住まいの地区における子育てのしやすさ



住まいの地区は、子育てのしやすい環境だと感じるかを聞いたところ、「まあまあ子育てしやすいと思う」という回答が 44.8%と最も多く、「子育てしやすい環境だと思う」（8.1%）をあわせると、半数を超える回答者が子育てしやすい環境だと思うとしています。

（8）子育てをする上で近所や地域に望むこと



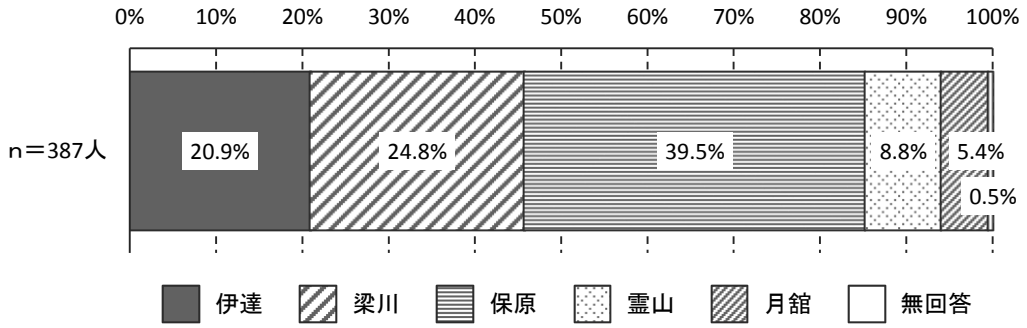
子育てをする上で、近所や地域に望むこととしては、「子どもが危険な目に遭いそうなときは手助けや保護をしてほしい」という回答が 81.7%と特に多くなっています。

ついで「子どもが良くないことをしているのを見かけたときは、注意してほしい」（63.6%）、「子ども連れで交通機関や施設を利用する時に困っていたら手助けしてほしい」（49.5%）、「出会った時に気軽に声をかけあうなど、子どもにかかわってほしい」（47.9%）などが続いています。

第3章　小学生児童調査結果

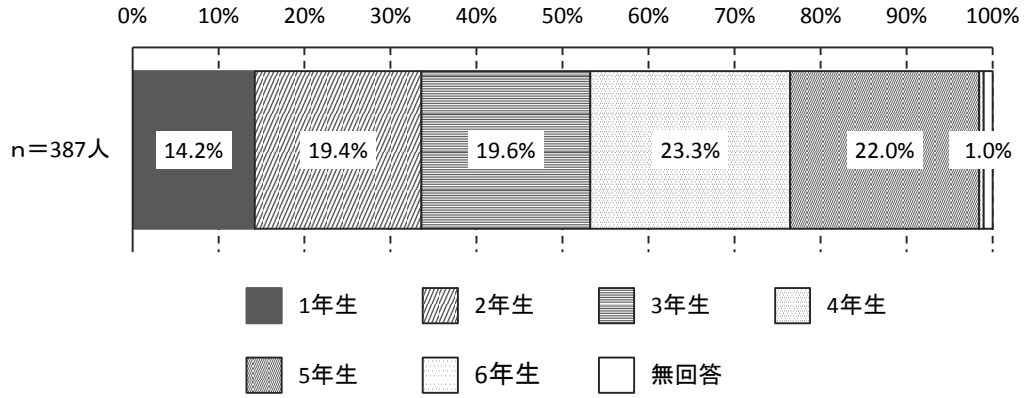
1　回答者および対象児童の属性

（1）居住地区



回答者の居住地区をみると、「保原」（39.5%）が４割を占め、「梁川」（24.8%）と「伊達」（20.9%）が２割台で続いています。

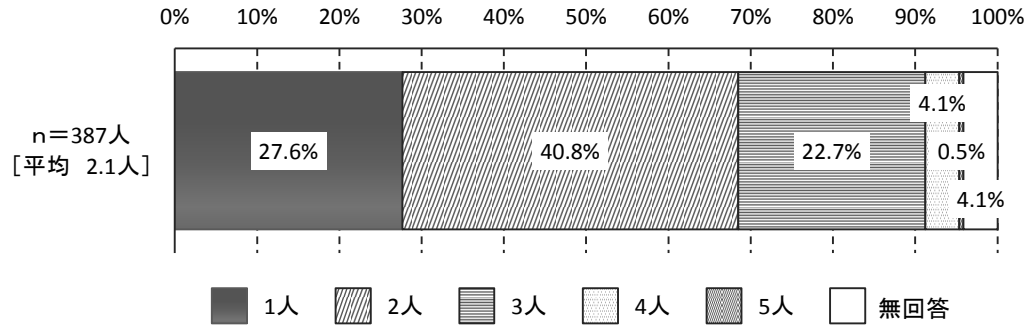
（2）対象児童の学年



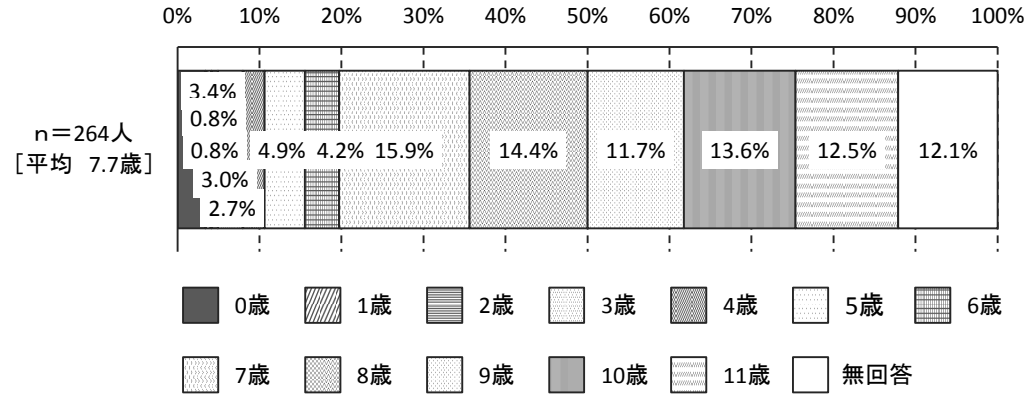
対象児童の学年をみると、２年生から６年生までが２割前後、１年生が 14.2%となっています。

（3）対象児童のきょうだいの状況

■きょうだいの人数



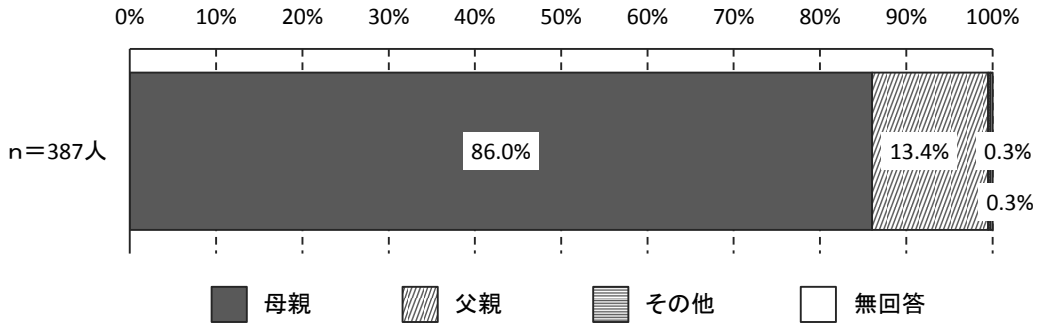
■末子の年齢



対象児童のきょうだいの人数をみると、「２人」（40.8%）が４割を占めて最も多くなっています。

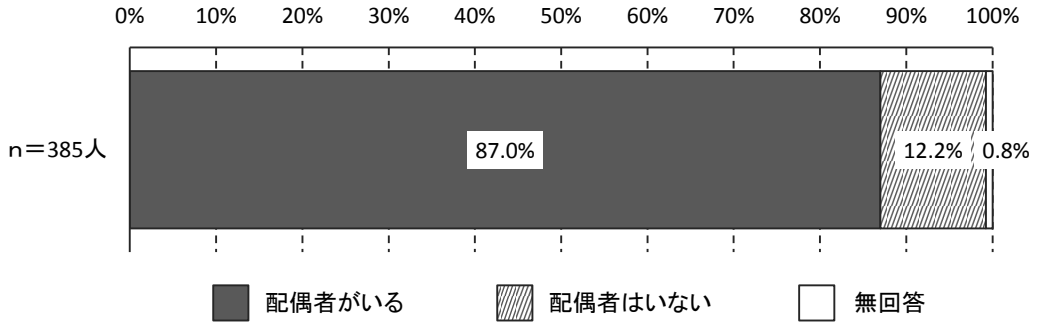
調査対象児童を含めた末子の年齢をみると、７歳から 11 歳までが１割台、他の年齢は５%以下となっています。

（4）調査票の回答者



調査票への回答者をみると、「母親」が 86.0%と９割近くを占めています。

（5）回答者の配偶関係



【調査票の回答者別の配偶関係】

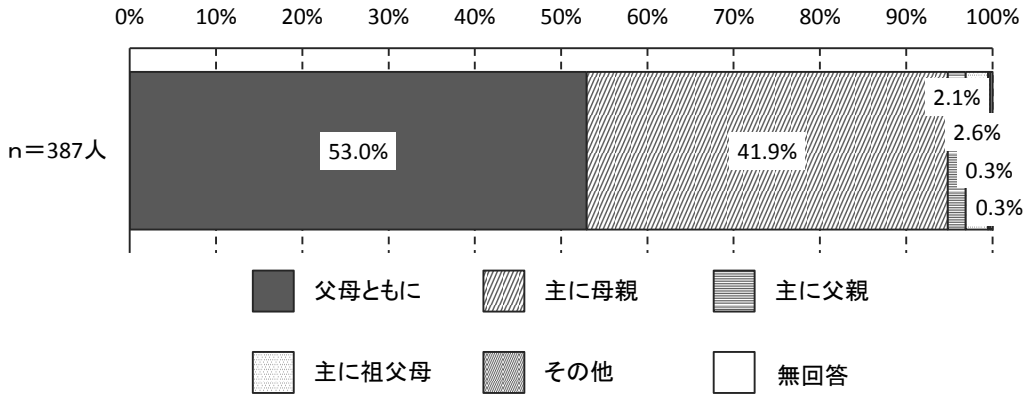
	配偶者がいる	配偶者はいない	無回答
全体(n＝385 人)	87.0%	12.2%	0.8%
母親（n＝333 人）	86.8%	12.3%	0.9%
父親（n＝52 人）	88.5%	11.5%	0.0%

回答者の配偶関係をみると、回答者の 87.0%が「配偶者がいる」としています。

調査票回答者別にみると、母親が回答している場合は 86.8%、父親が回答している場合は 88.5%が「配偶者がいる」としています。

母子家庭・父子家庭からの回答は１割強となっています。

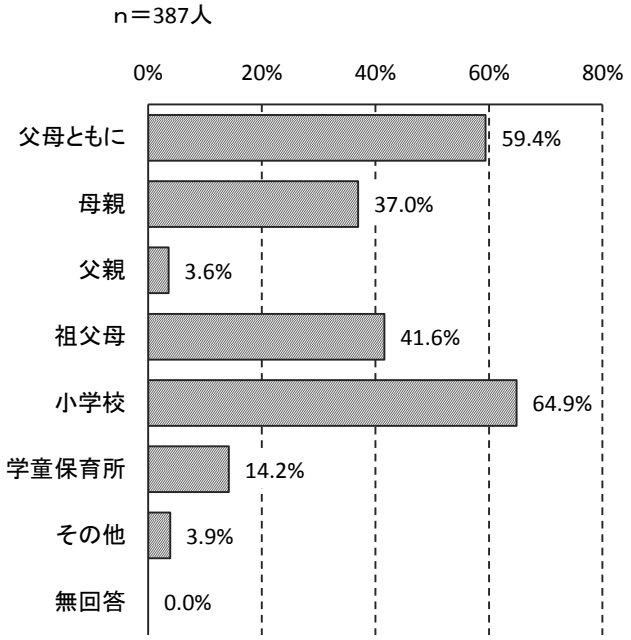
（6）主な子育て者



子育てを主に行っている方としては、「父母ともに」が 53.0%と半数以上を占め、ついで「主に母親」（41.9%）としており、母親を中心に父母が協力して子育てにあたっているものと思われます。

2　子どもの育ちをめぐる環境について

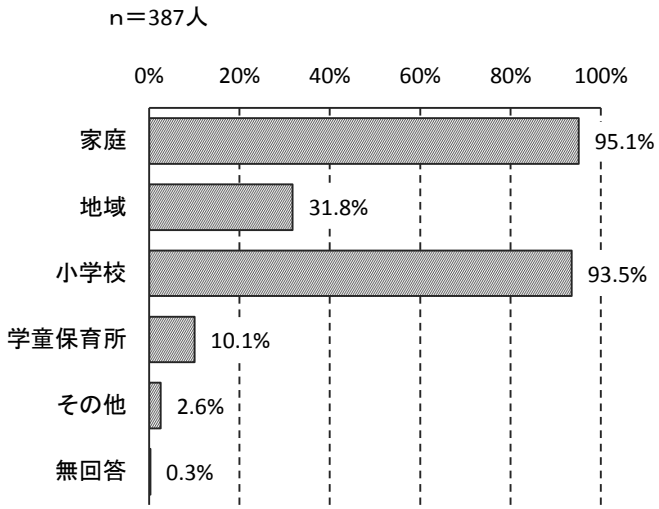
（1）子育てに日常的に関わっている人・施設



子育てに日常的に関わっている人や場所としては、「小学校」が 64.9%で最も多く、小学生では小学校の関与の割合が高くなっています。

その他に「父母ともに」（59.4%）、「祖父母」（41.6%）など家族の関与の割合が高くなっています。

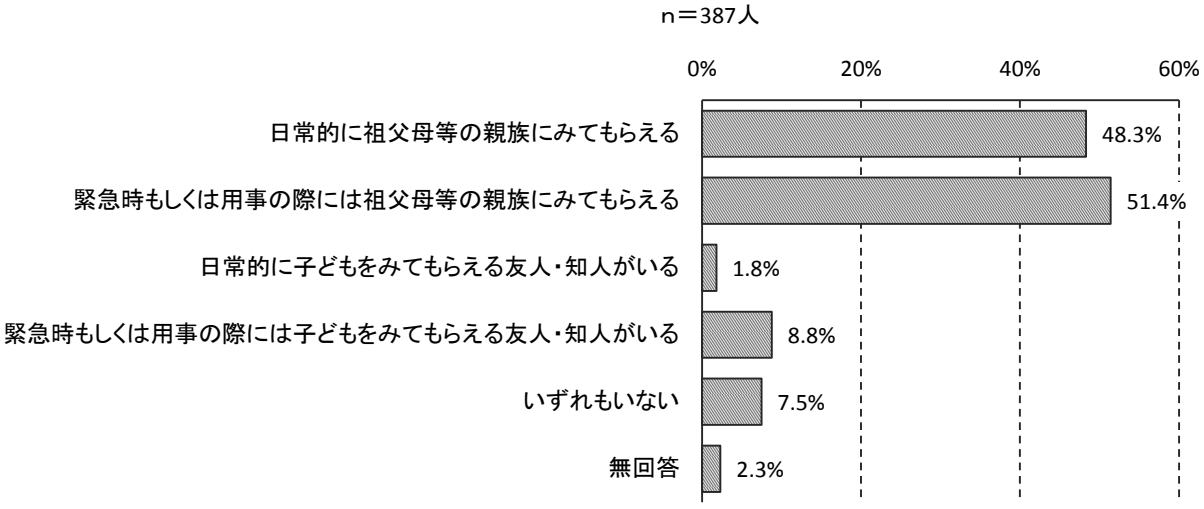
（2）子育てに最も影響すると思う環境



子育てに最も影響すると思う環境については、「家庭」（95.1％）と「小学校」（93.5％）への回答が圧倒的に多くなっています。

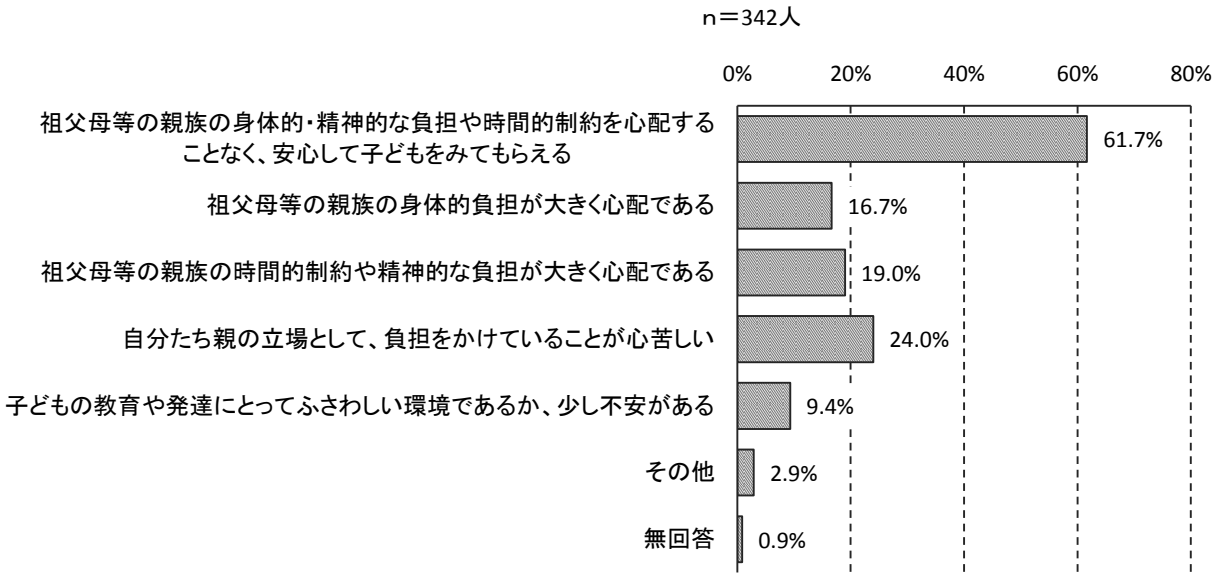
「地域」への回答も 31.8％、地域の子育てへの影響を重視する回答も３割を超えています。

（3）日頃、子どもをみてもらえる親族・知人



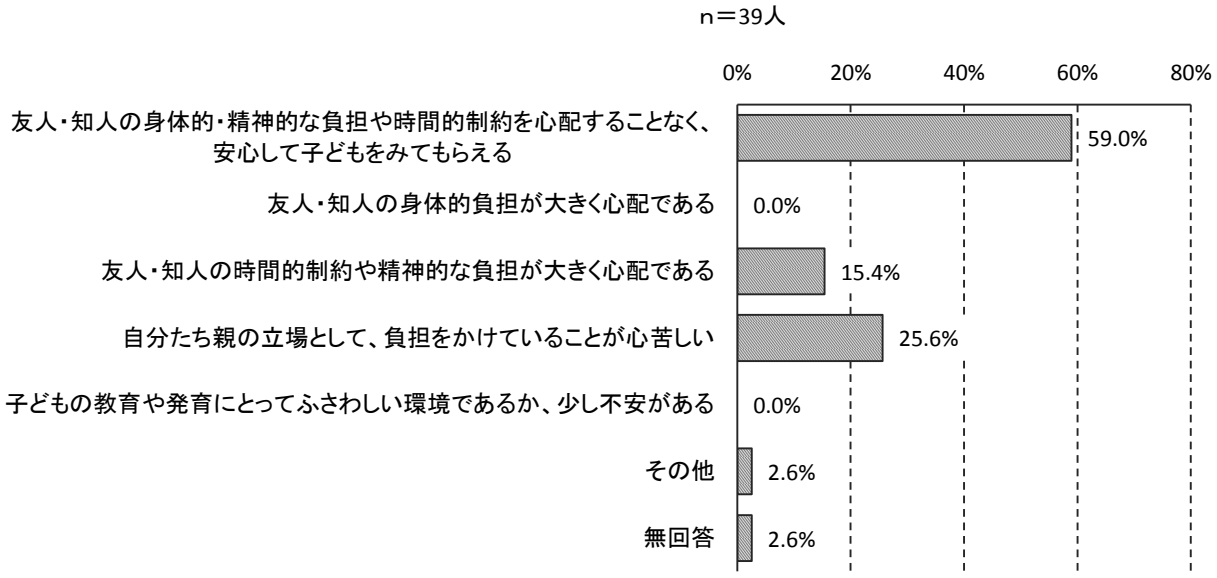
日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の状況をみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」（51.4％）、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」（48.3％）との回答が半数前後を占めています。

■祖父母等の親族にみてもらっている状況について



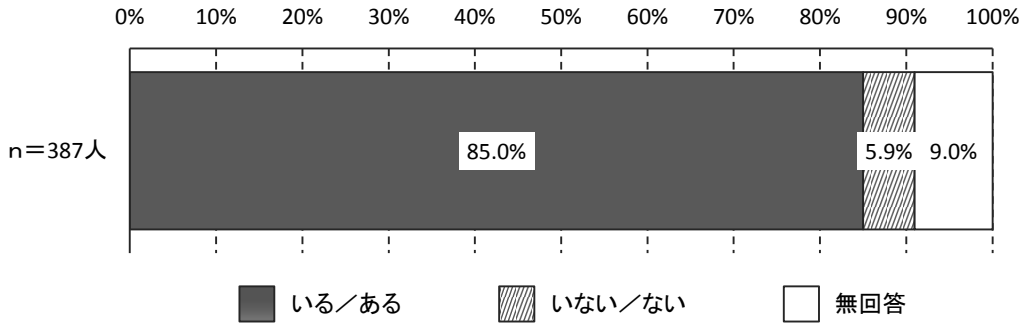
祖父母等の親族に子どもをみてもらえると回答した方に、子どもをみてもらうことの負担感や困難度を聞くと、61.7%は「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」としています。

■友人･知人にみてもらっている状況について



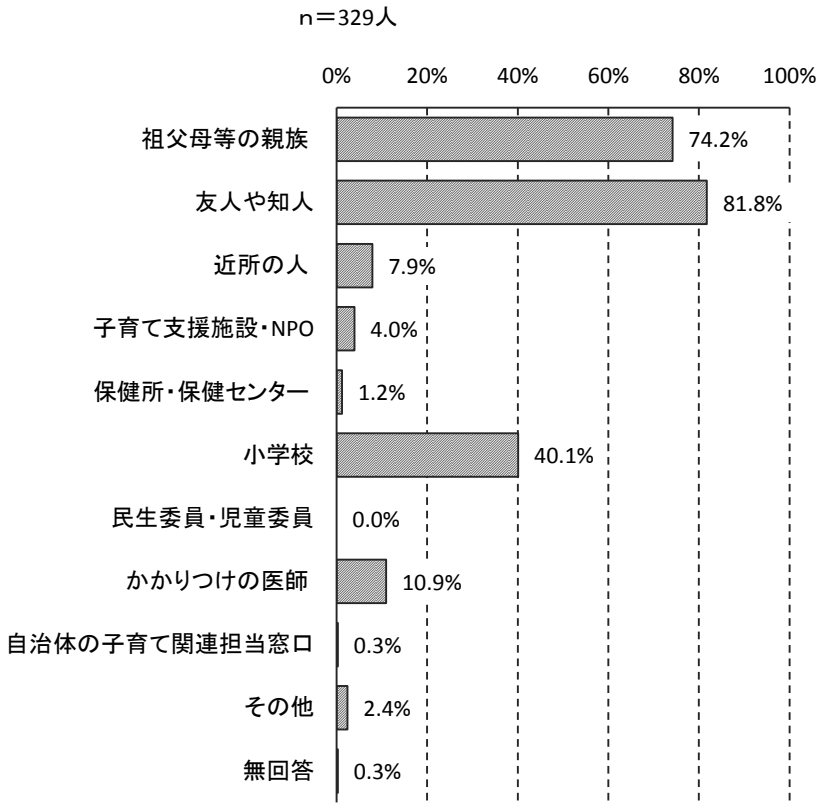
友人・知人に子どもをみてもらえるという方は 39 人でしたが、友人や知人に子どもをみてもらうことの負担感や困難度について聞くと、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」（59.0%という回答が6割を占めています。

（4）子育てを気軽に相談できる人・場所



子育てに関して気軽に相談できる人や場所の有無について聞くと、85.0%は「いる／ある」としています。

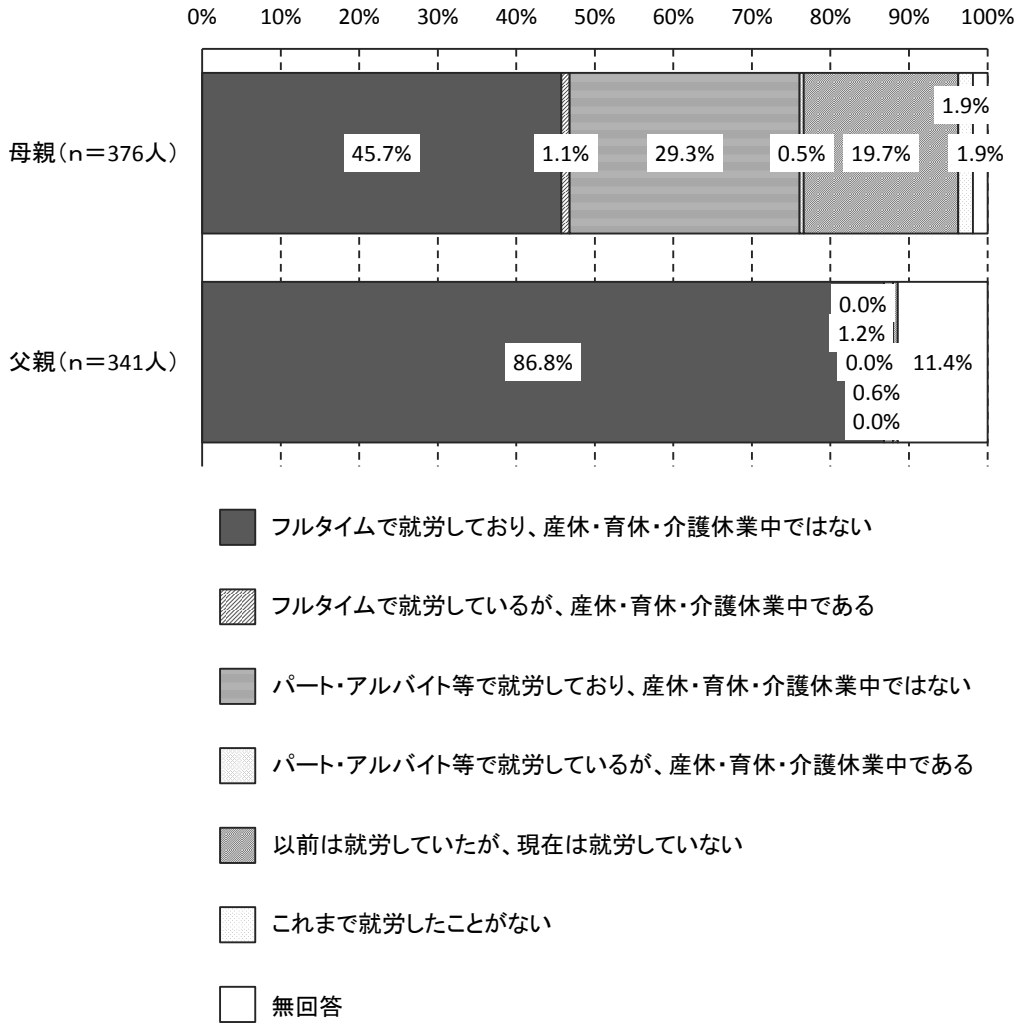
■具体的な相談先



相談できる人や場所が「いる／ある」という回答者に具体的な相談先について聞くと、「友人や知人」（81.8%、「祖父母等の親族」（74.2%）への回答が突出して多く、ついで「小学校」（40.1%）が４割で続いています。

3　保護者の就労状況について

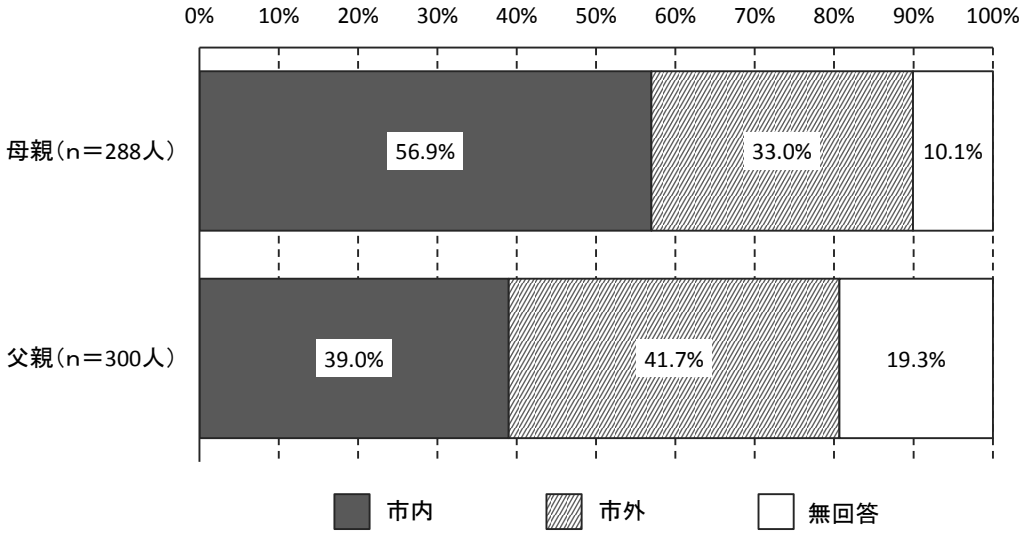
（1）保護者の現在の就労状況



保護者の就労状況についてみると、母親では「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（45.7%）と「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（29.3%）をあわせると、４人に３人が現在何らかの形で就労していると回答しています。

父親も、フルタイムとパート・アルバイト等をあわせると、９割近くが現在何らかの形で就労していると回答しています。

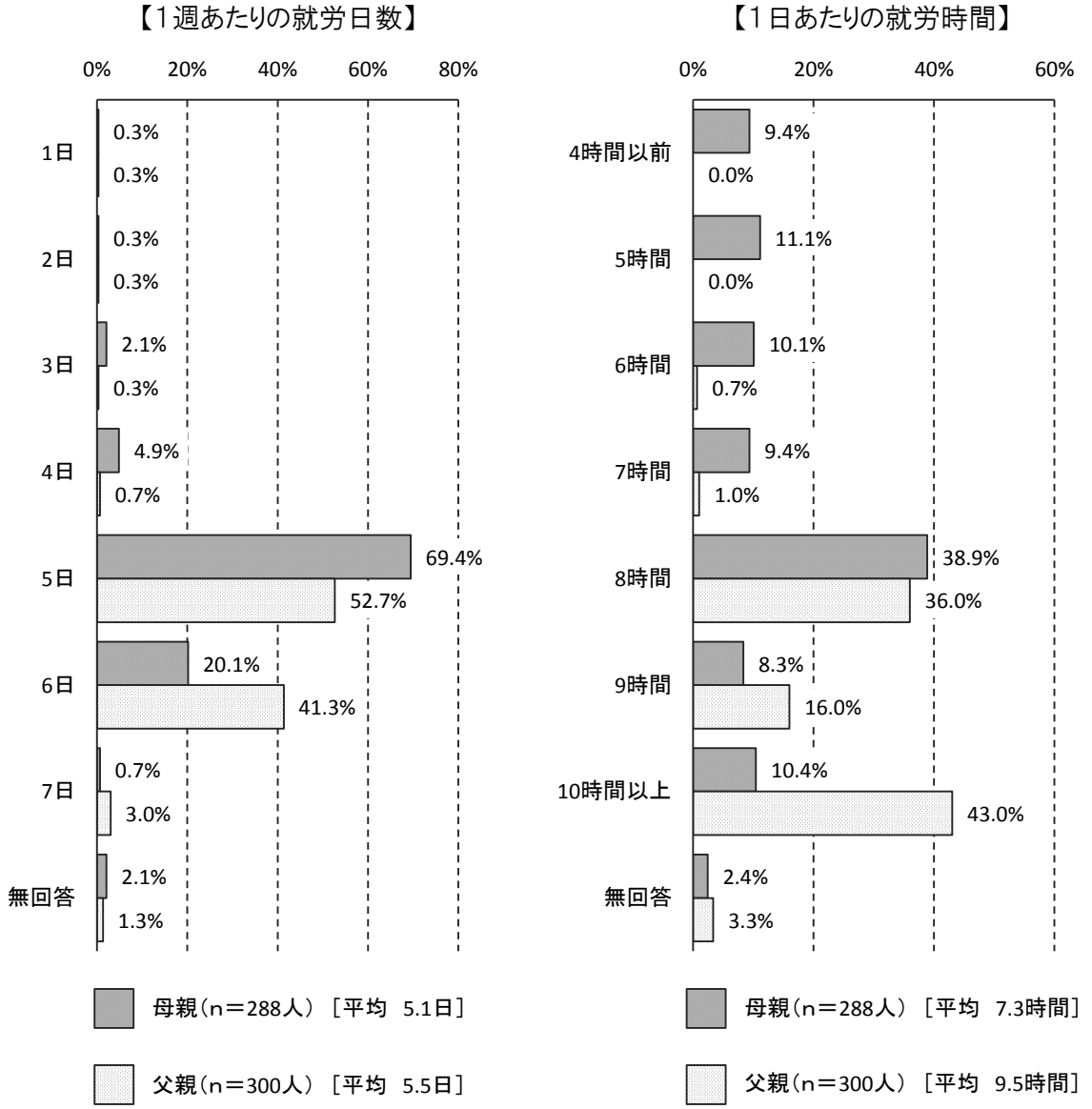
■現在就労している保護者の勤務地



現在就労している保護者（産休・育休・介護休業中の方も含む）の勤務地をみると、母親では「市内」（56.9%）が6割近くを占めています。

父親では「市外」（41.7%）が「市内」（39.0%）をわずかに上回っています。

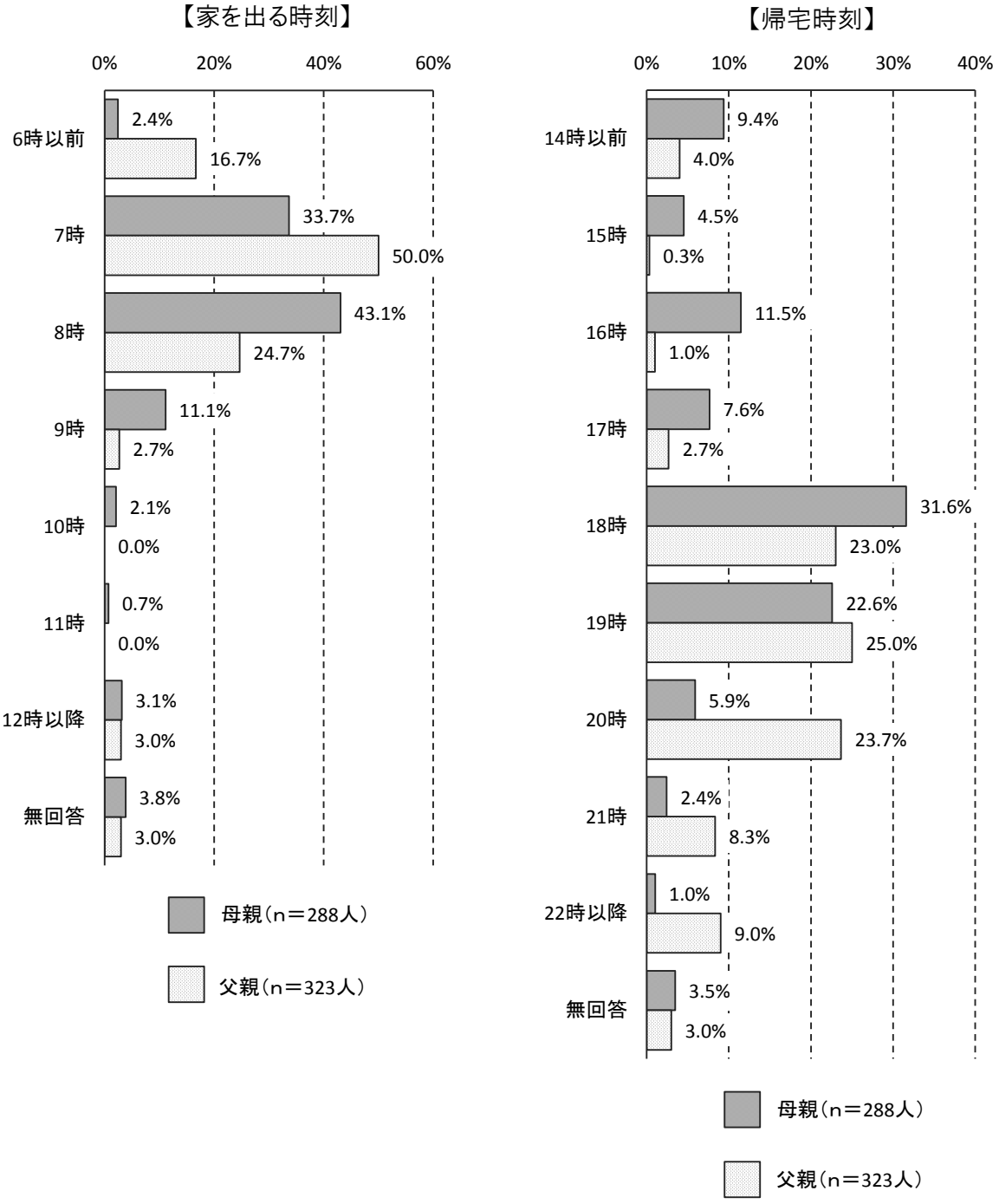
■現在就労している保護者の就労日数と就労時間



現在就労している保護者の就労日数と就労時間についてみると、就労日数は父母ともに「５日」が最も多く、「６日」という回答は母親よりも父親の方が多くなっています。

就労時間は母親では「８時間」、父親では「10 時間以上」という回答が最も多くなっています。

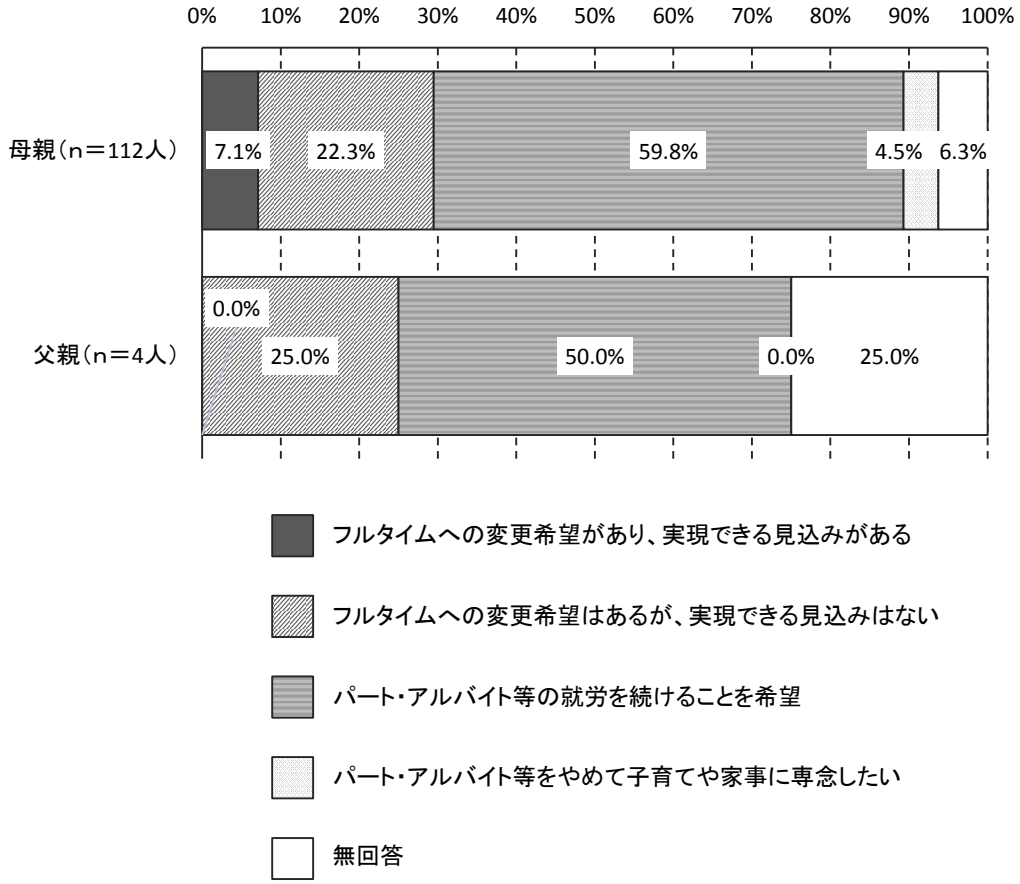
■家を出る時刻と帰宅時刻



現在就労している保護者の家を出る時刻と帰宅時刻についてみると、家を出る時刻は母親では「8時」、父親は母親よりも早く「7時」への回答が多くなっています。

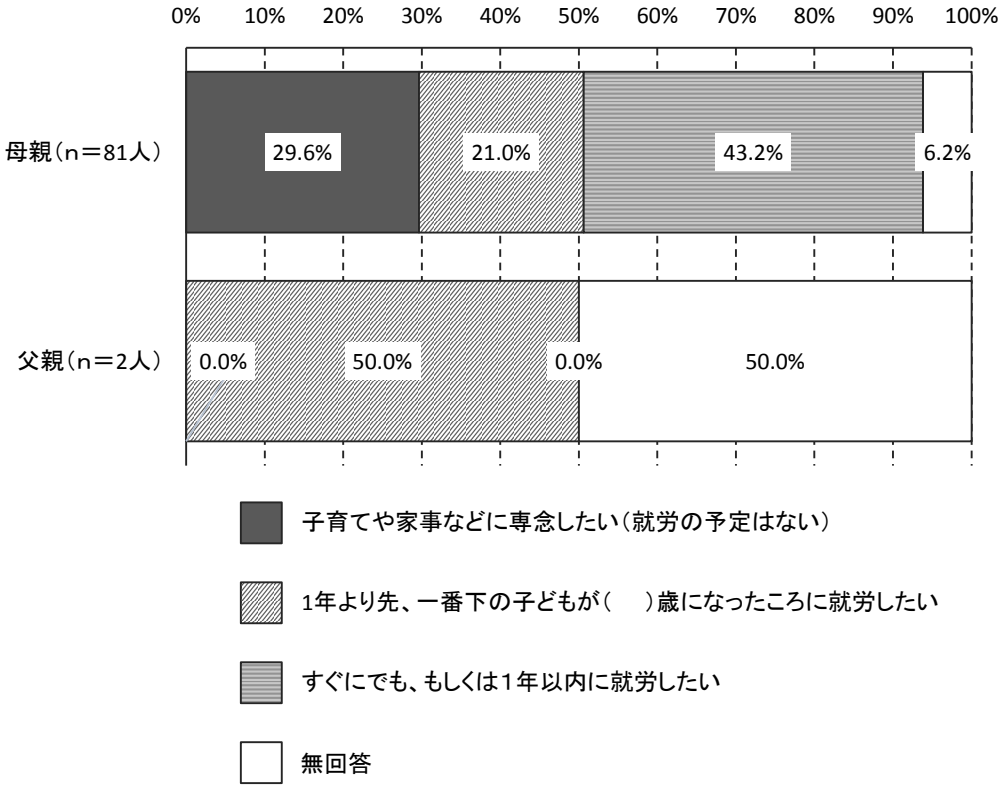
帰宅時刻については、母親では「18 時」（31.6%）と「19 時」（22.6%）が多く、父親では 18 時から 20 時が 20%台で多くなっています。

（2）ﾊﾟｰﾄ・ｱﾙﾊﾞｲﾄ等で就労している保護者のフルタイムへの変更希望



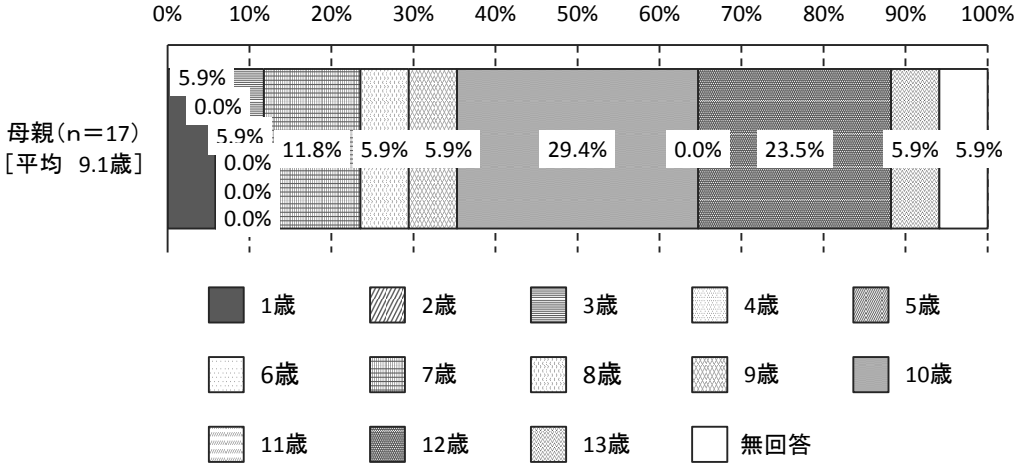
パート等で就労している保護者に対して、フルタイムへの変更希望があるかどうかいついて聞いたところ、母親では「フルタイムへの変更希望があり、実現できる見込みがある」は 7.1%、「フルタイムへの変更希望はあるが、実現できる見込みはない」が 22.3%で、あわせると約３割がフルタイムへの変更希望があるとしています。

（3）未就労の保護者の就労希望



現在就労していない保護者の就労希望についてみると、母親の 43.2%が「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」と強い就労意向を示しています。

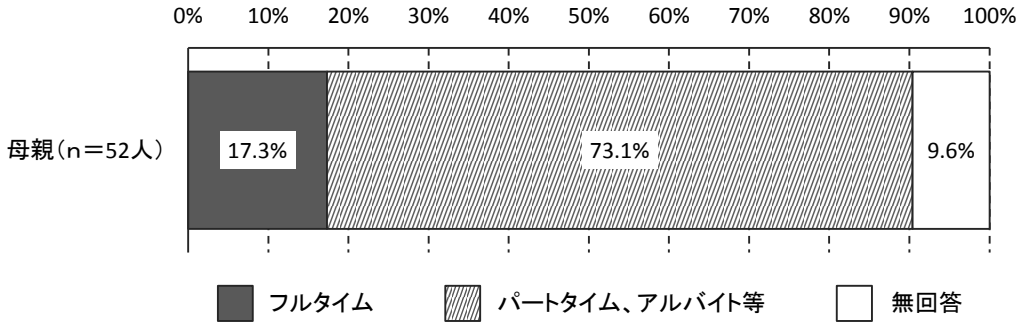
■就労を希望する子どもの年齢



子どもが一定の年齢に達したら就労したいという回答者の、就労の目安となる子どもの年齢についてみると、「10 歳」と「12 歳」が２割台で多く、平均すると 9.1 歳が就労の目安となる子どもの年齢となっています。

父親（１人）は「９歳」になったころに就労したいとしています。

■希望する就労形態

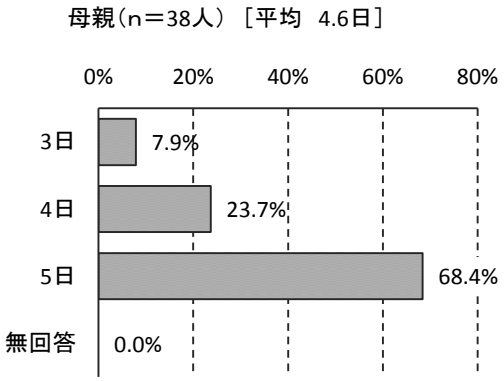


現在就労していない母親の希望する就労形態についてみると、73.1%は「パートタイム、アルバイト等」としています。

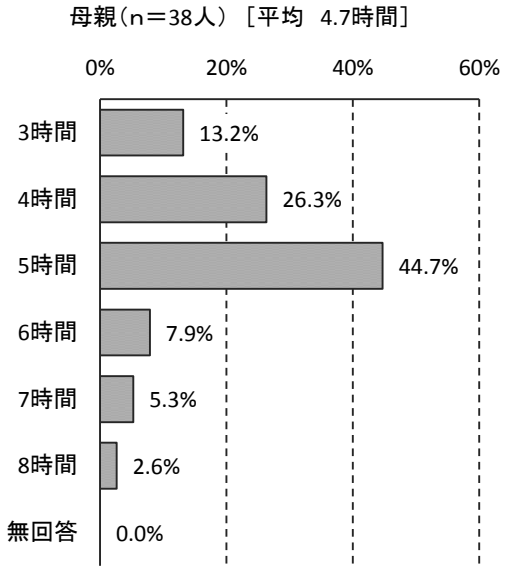
現在就労していない父親は１人で、希望する就労形態は「フルタイム」としています。

■ﾊﾟｰﾄ・ｱﾙﾊﾞｲﾄ等を希望する就労形態の就労日数と就労時間

【1週あたりの希望就労日数】



【1日あたりの希望就労時間】

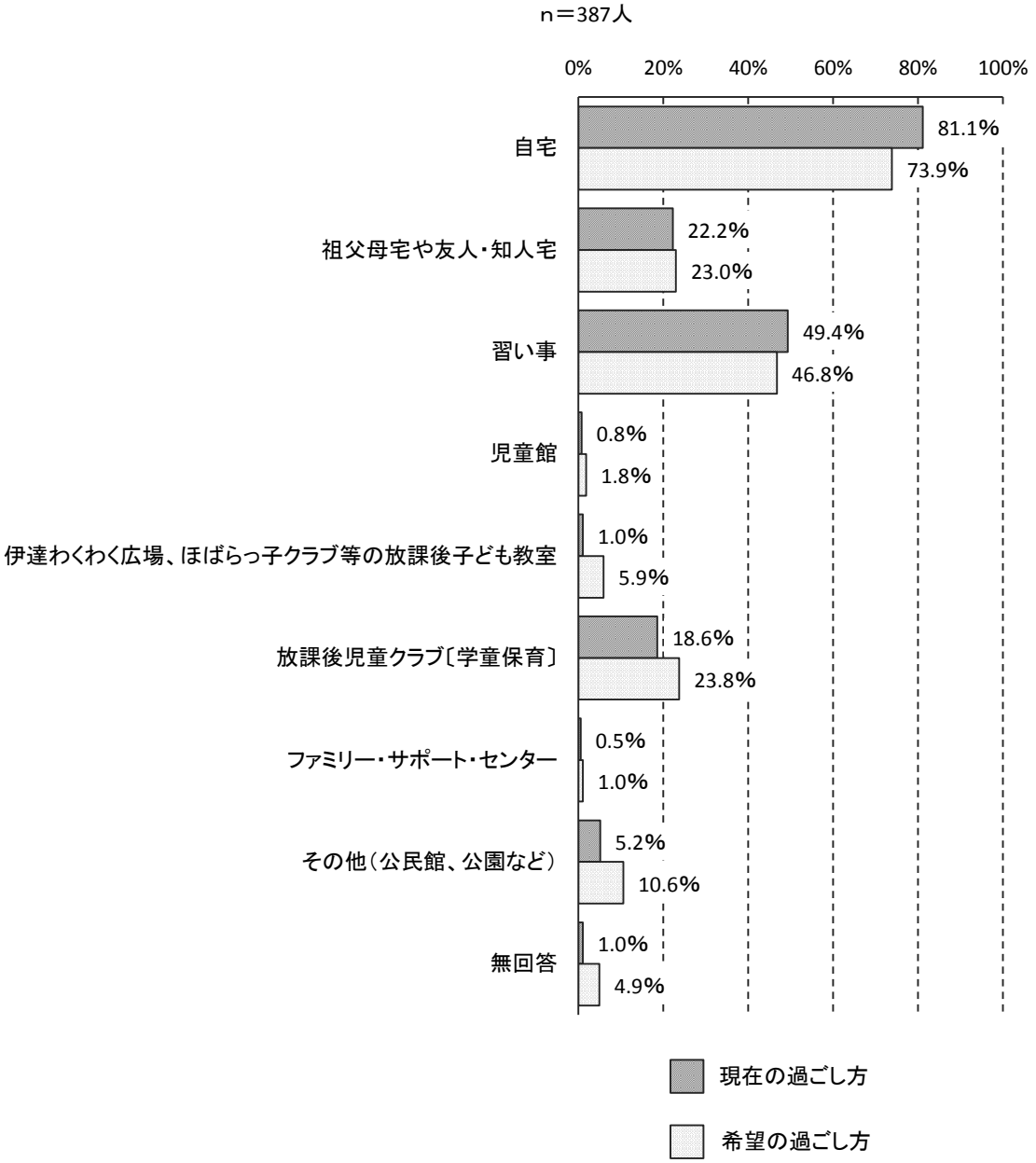


母親が希望する就労日数としては「５日」（68.4%）、就労時間としては「５時間」（44.7%）が最も多くなっています。

パートタイム・アルバイト等を希望した父親はいませんでした。

4　放課後の過ごし方について

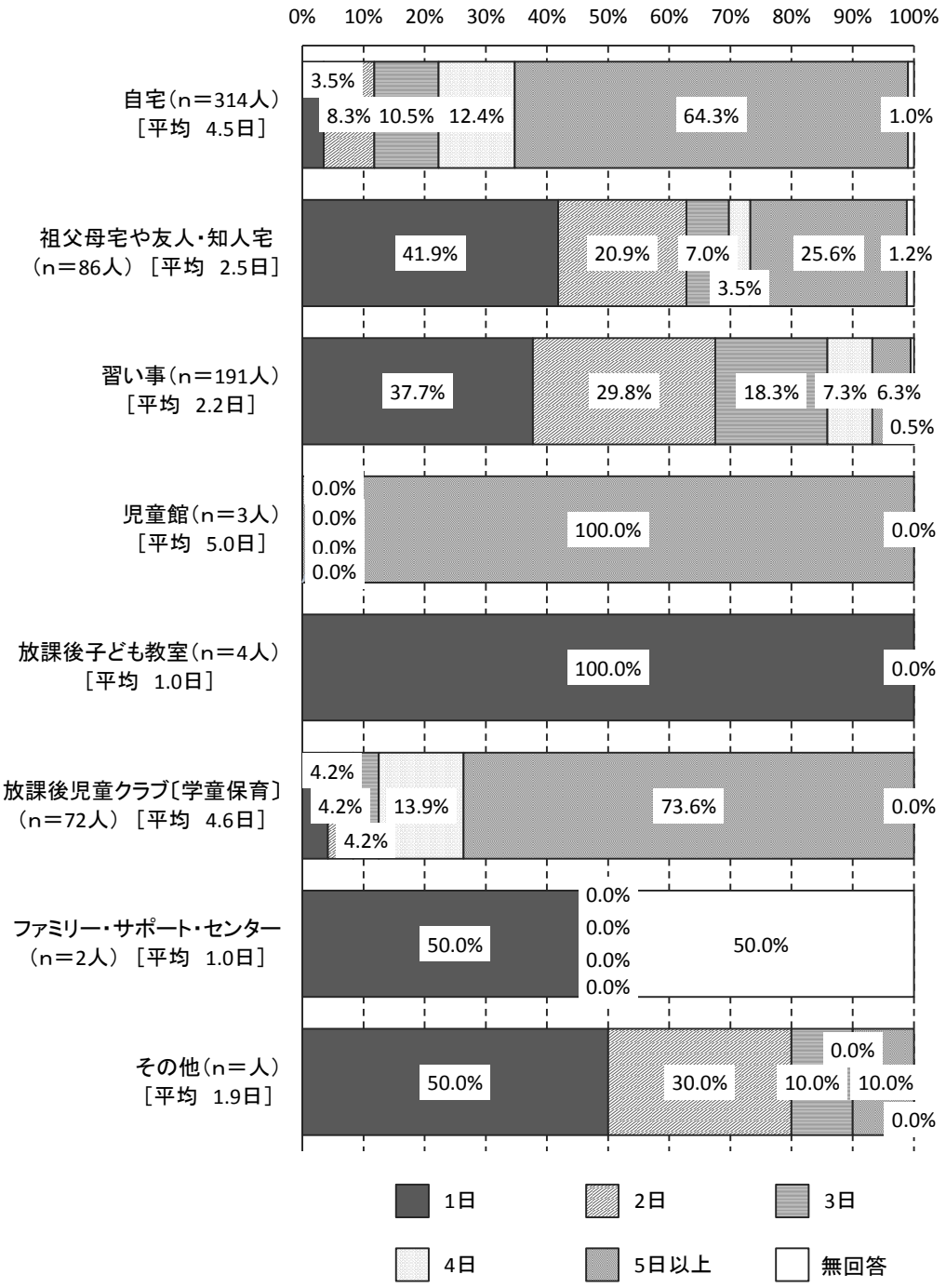
（1）現在の放課後の過ごし方と放課後に過ごさせたい場所



現在の放課後の過ごし方、希望する過ごし方をみると、現在・希望ともに「自宅」が最も多く、ついで「習い事」が多くなっています

その他、希望する過ごし方では「放課後児童クラブ〔学童保育〕」や「祖父母宅や友人・知人宅」などが２割を超えています。

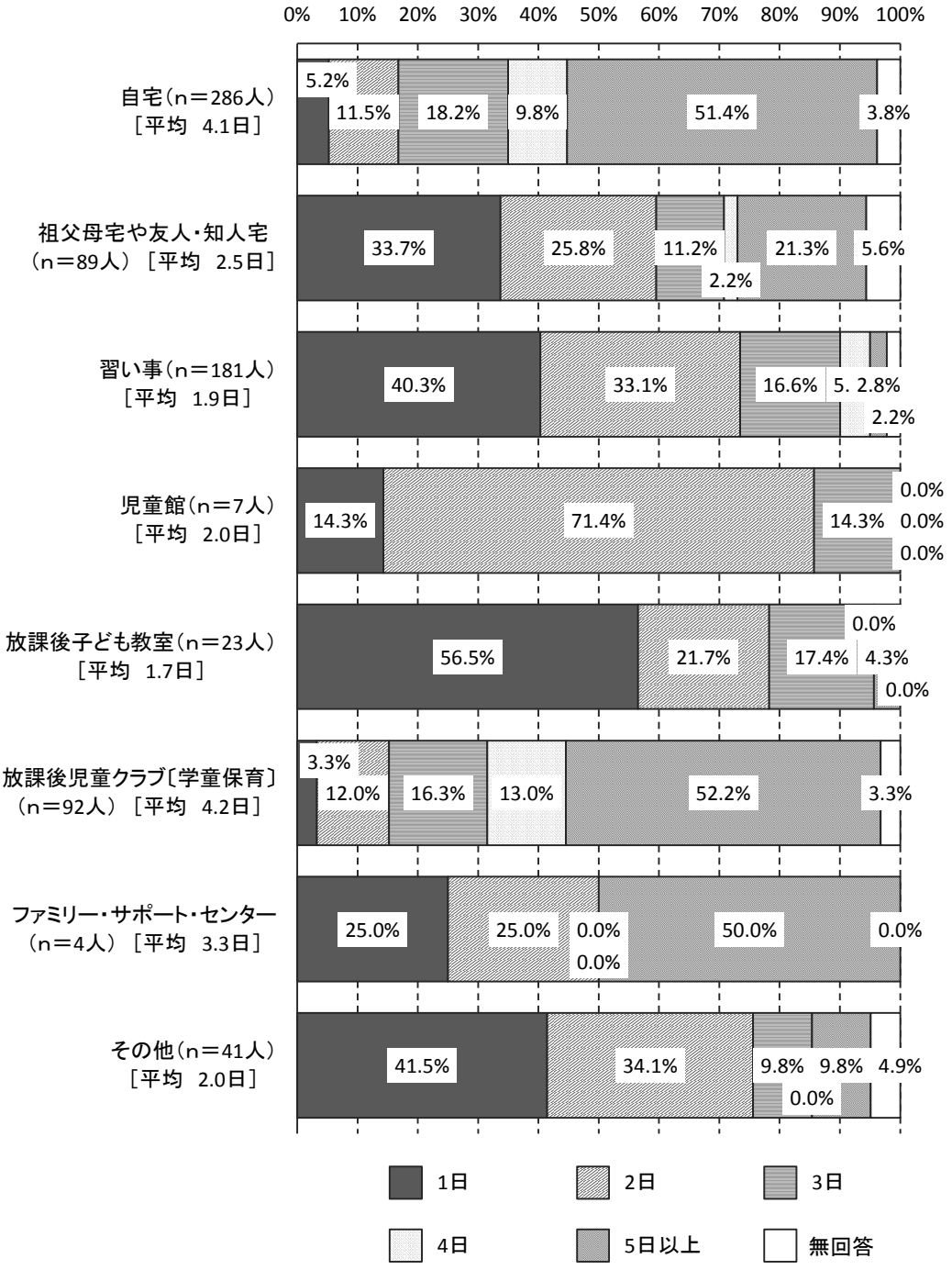
■現在の放課後の過ごし方ごとの日数



現在の放課後の過ごし方ごとの週あたりの日数をみると、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」、「自宅」、「児童館」などは「５日」が多くなっています。

その他、「習い事」や「祖父母宅や友人・知人宅」などは平均で約２～３日となっています。

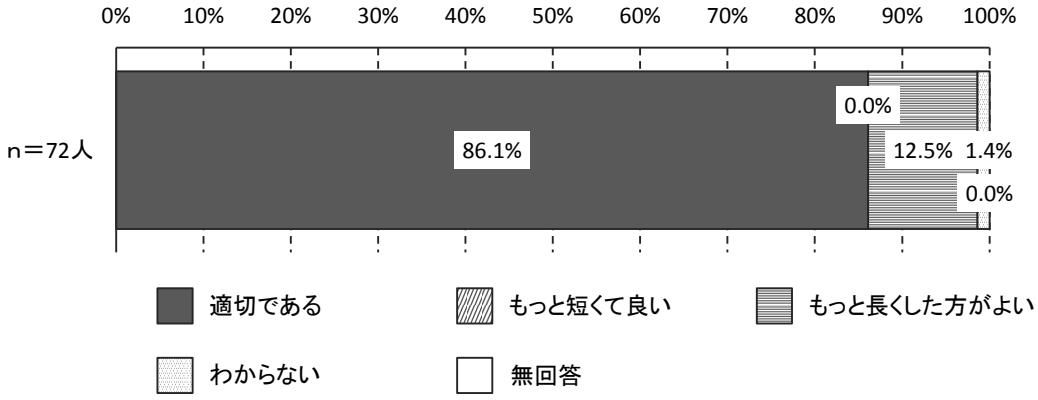
■希望する放課後の過ごし方ごとの希望日数



希望する放課後の過ごし方ごとの希望日数をみると、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が平均で 4.2 日と「自宅」が平均で 4.1 日が並んで希望日数が多くなっています。

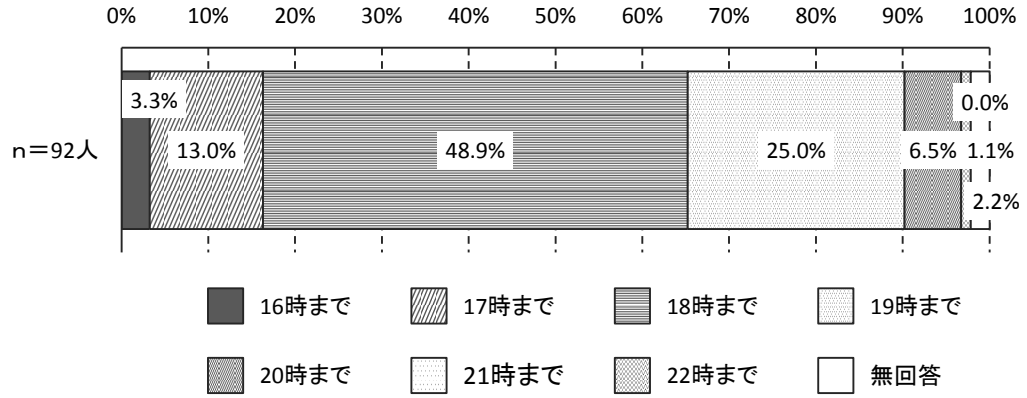
その他、「祖父母宅や友人・知人宅」は平均で 2.5 日、「習い事」は平均で 1.9 日となっています。

■放課後児童クラブの利用時間について



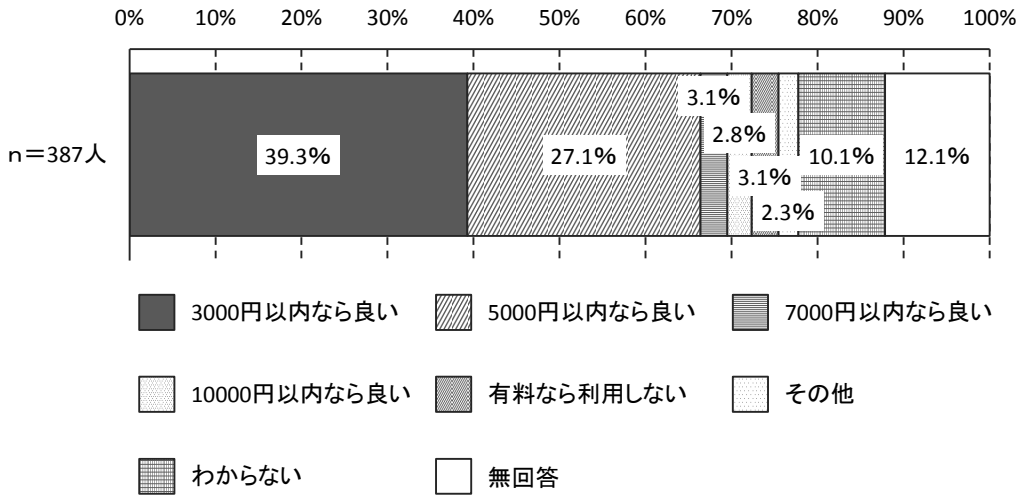
現在、放課後児童クラブを利用していると回答した方に、放課後児童クラブの利用時間について聞くと、「適切である」との回答が 86.1%と大半を占め、１割強ですが「もっと長くした方がよい」（12.5%）という回答もありました。

■放課後児童クラブの希望利用終了時間



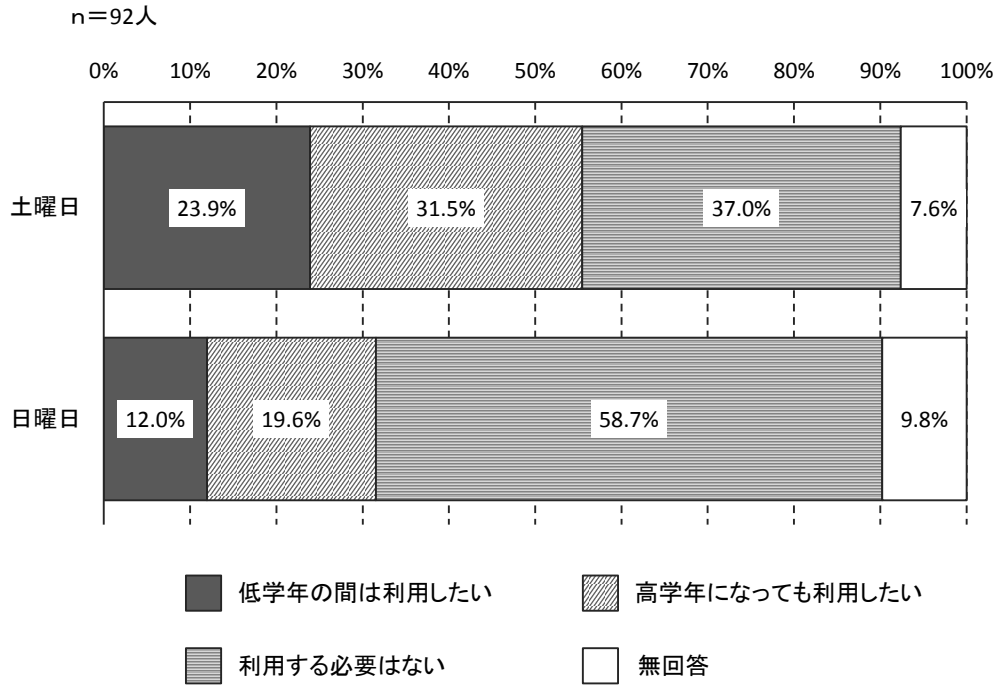
放課後は、放課後児童クラブで過ごさせたいと回答した方に、放課後児童クラブの終了時間の希望を聞くと、「18 時まで」への回答が 48.9%と約半数を占めて最も多く、ついで「19 時」が 25.0%となっています。

（2）放課後児童クラブの月額利用料金について



放課後児童クラブの利用料金（月額）については、「3000円以内なら良い」（39.3%）が約４割を占めて最も多く、ついで「5000 円以内なら良い」（27.1%）が３割近くとなっています。

（4）土曜・休日等の放課後児童クラブの利用希望

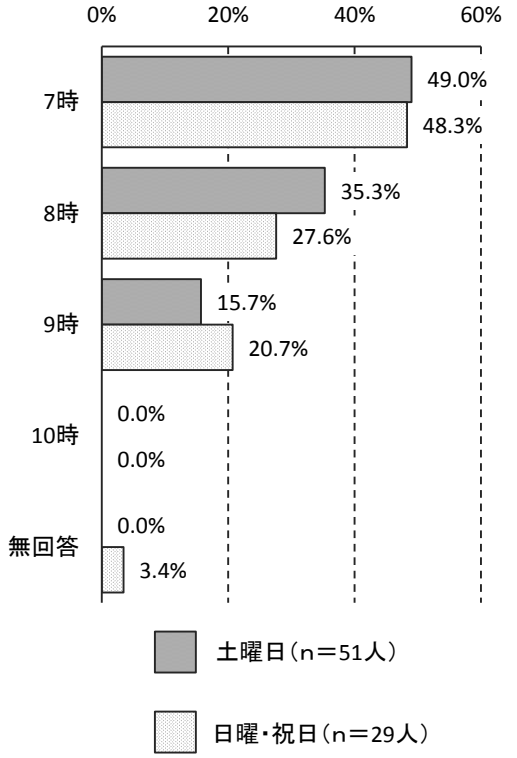


土曜日、日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望についてみると、土曜日は「低学年の間は利用したい」（23.9%）、「高学年になっても利用したい」（31.5%）をあわせると、“利用したい”という回答が 55.4%と半数を超えています。

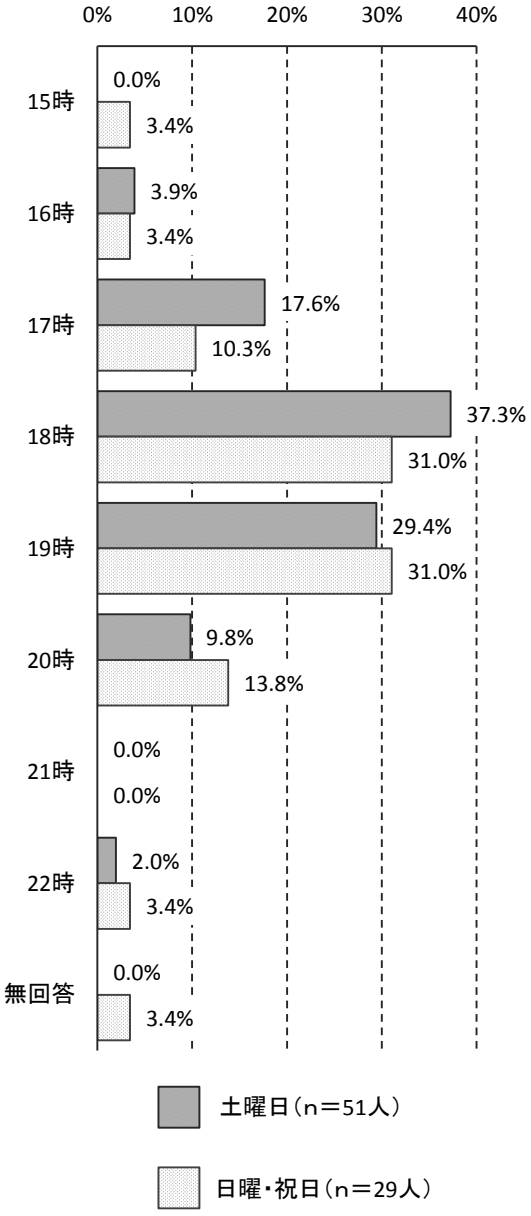
一方、日曜・祝日については“利用したい”という回答はあわせて 31.6%となっています。

■利用したい時間帯

【利用開始時間】

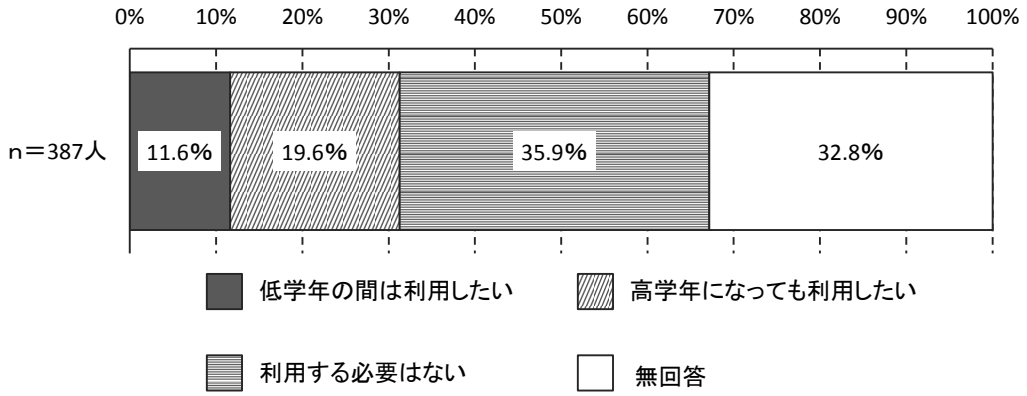


【利用終了時間】



土曜日、日曜・祝日に放課後児童クラブを利用する場合の希望する開始・終了時間についてみると、土曜日、日曜・祝日ともに、開始時間については「７時」が約半数を占めて最も多く、終了時間については「18 時」と「19 時」への回答が多くなっています。

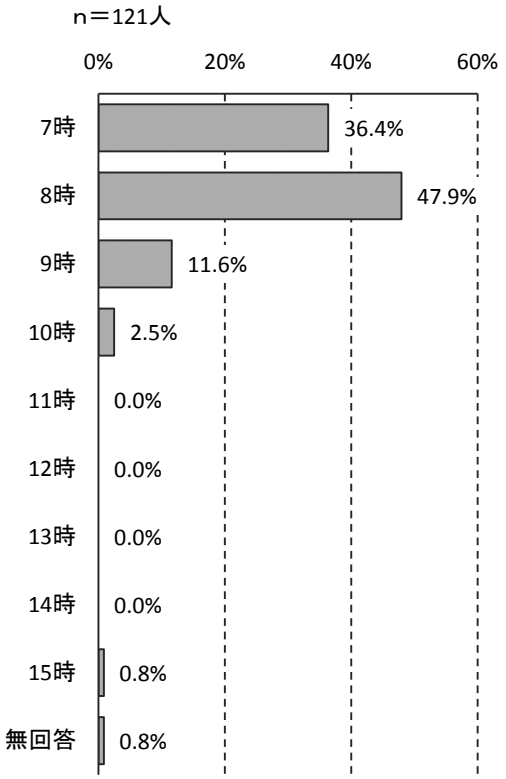
（５）長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望



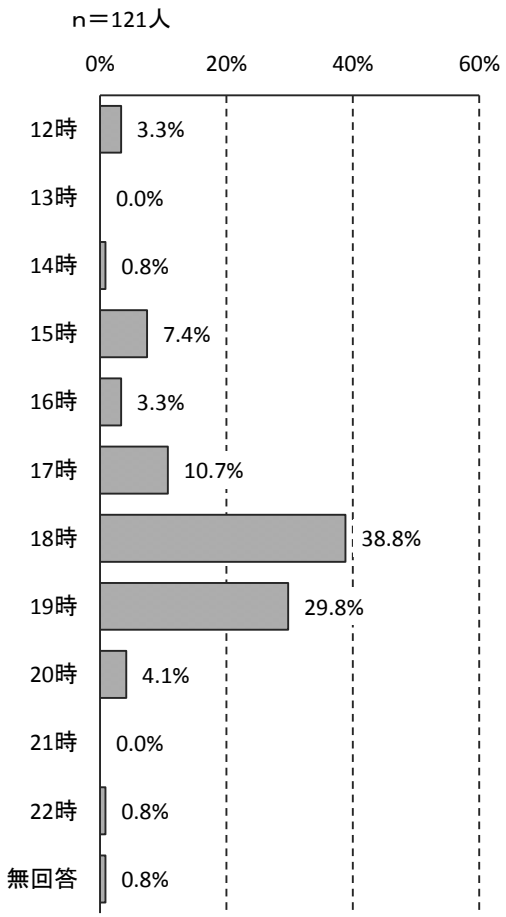
夏休みなどの長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望についてみると、「低学年の間は利用したい」（11.6%）、「高学年になっても利用したい」（19.6%）をあわせると、“利用したい”という回答は 31.2%と３割を超えています。

■利用したい時間帯

【利用開始時間】



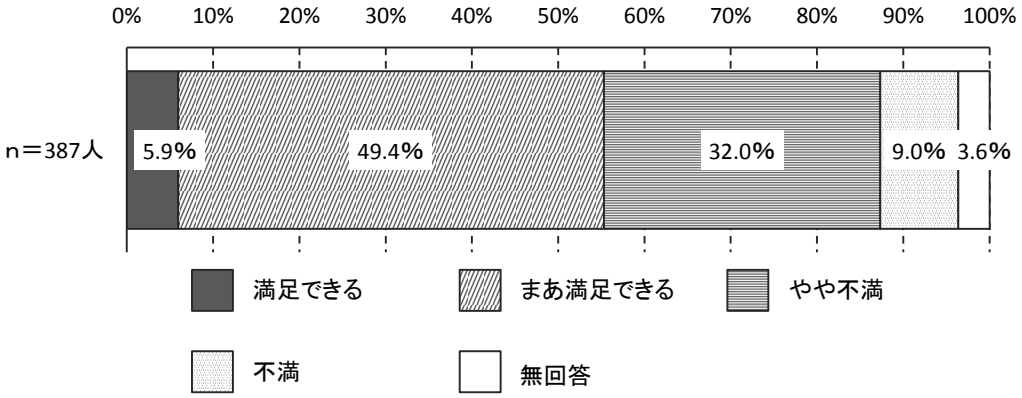
【利用終了時間】



夏休みなどの長期休暇中の放課後児童クラブの利用開始時間は「８時」、終了時間については「18 時」への回答が最も多くなっています。

5　伊達市における子ども･子育て支援を取り巻く状況について

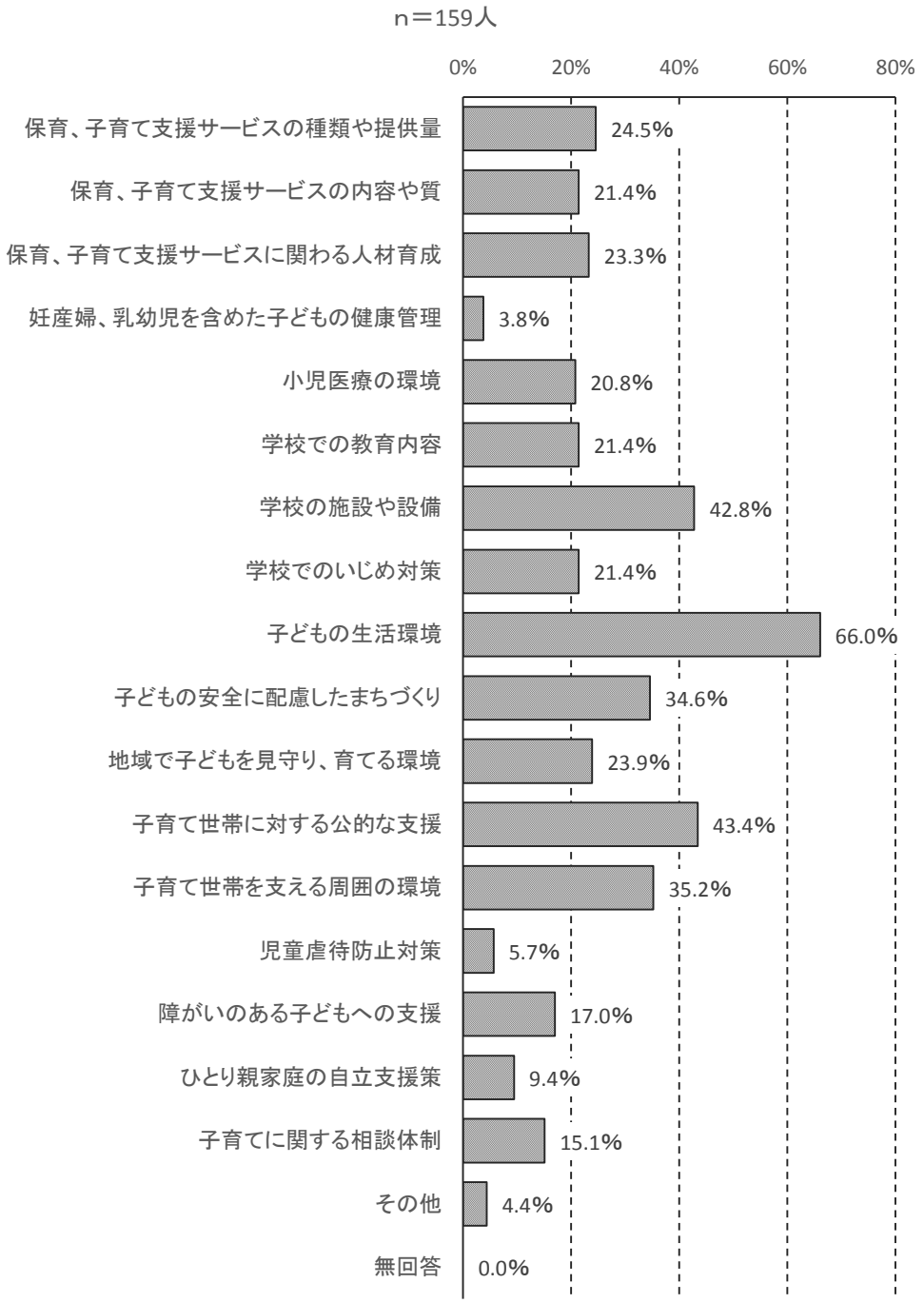
（1）伊達市のこれまでの子ども・子育て支援の取り組みに対する評価



伊達市のこれまでの子ども･子育て支援の取り組みに対する総合的な評価をみると、「満足できる」（5.9%）、「まあ満足できる」（49.4%）をあわせると 55.3%と半数以上が肯定的に評価しています。

一方、「やや不満」（32.0%）、「不満」（9.0%）という否定的な評価も４割を占めています。

■伊達市の子ども・子育て支援に関して不満に思うこと

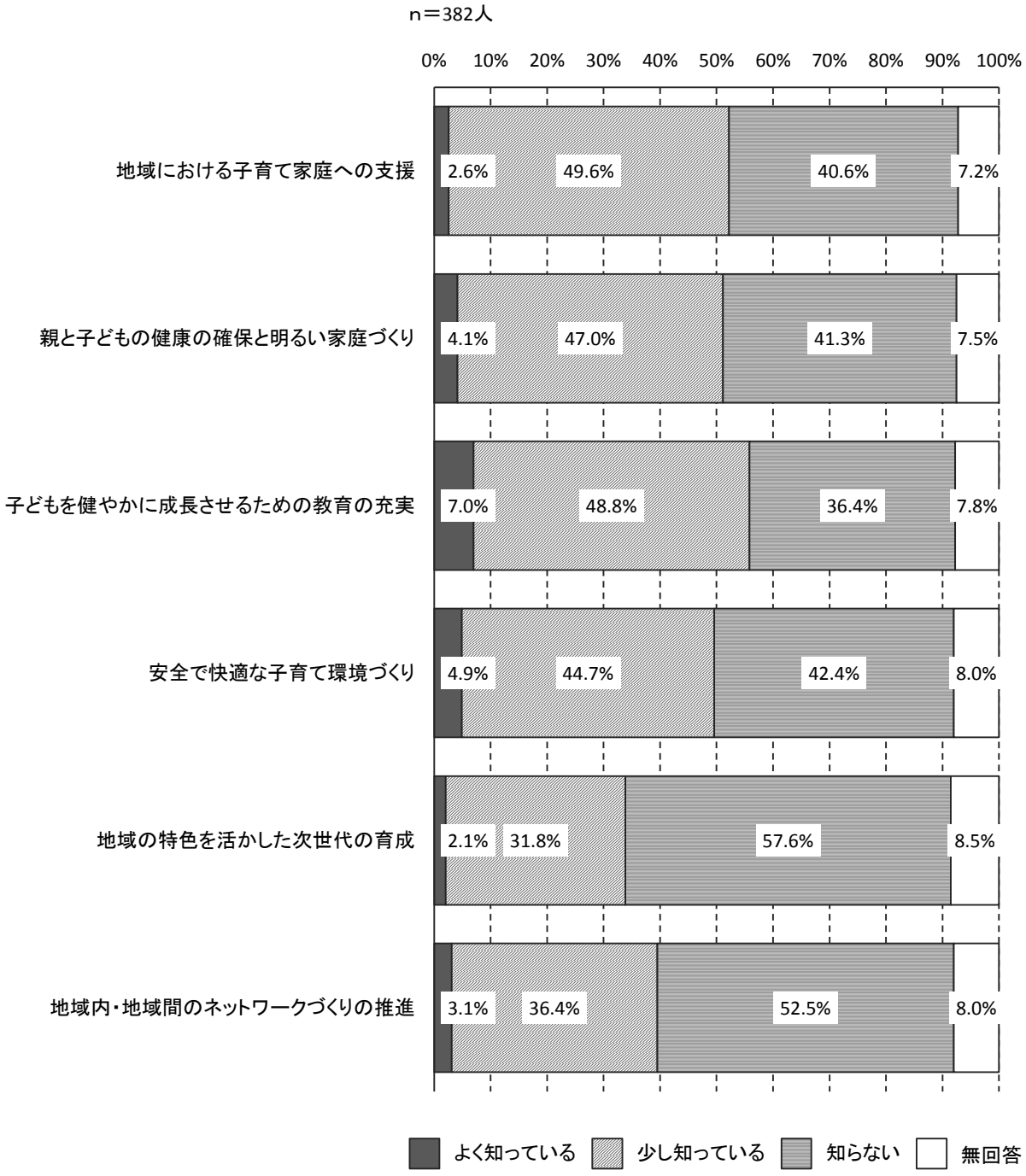


伊達市のこれまでの子ども・子育て支援の取り組みに対して「やや不満」または「不満」との回答者に不満ポイントについて聞くと、「子どもの生活環境」への回答が66.0%と最も多くなっています。

ついで「子育て世帯に対する公的な支援（43.4%）、「学校の施設や設備」（42.8%）が４割台で続いています。

（2）現行の伊達市次世代育成支援行動計画の取り組みについて

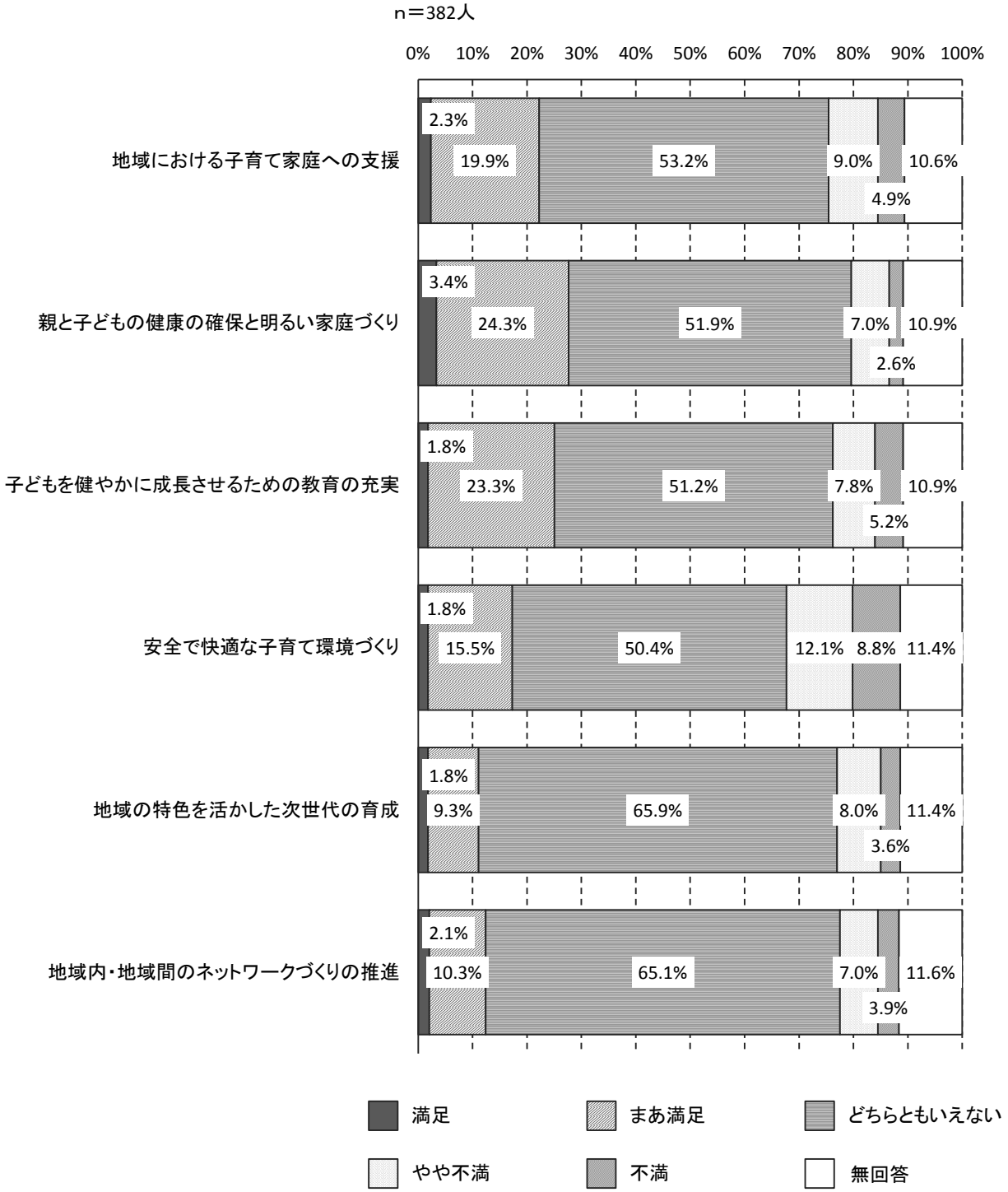
■取り組みの認知度



伊達市次世代育成支援行動計画における基本目標ごとの主な取り組みの認知度をみると、どの取り組みについても「よく知っている」という回答は１割を下回っています。

「地域の特色を活かした次世代の育成」、「地域内・地域間のネットワークづくりの推進」については「知らない」という回答が半数を超えています。

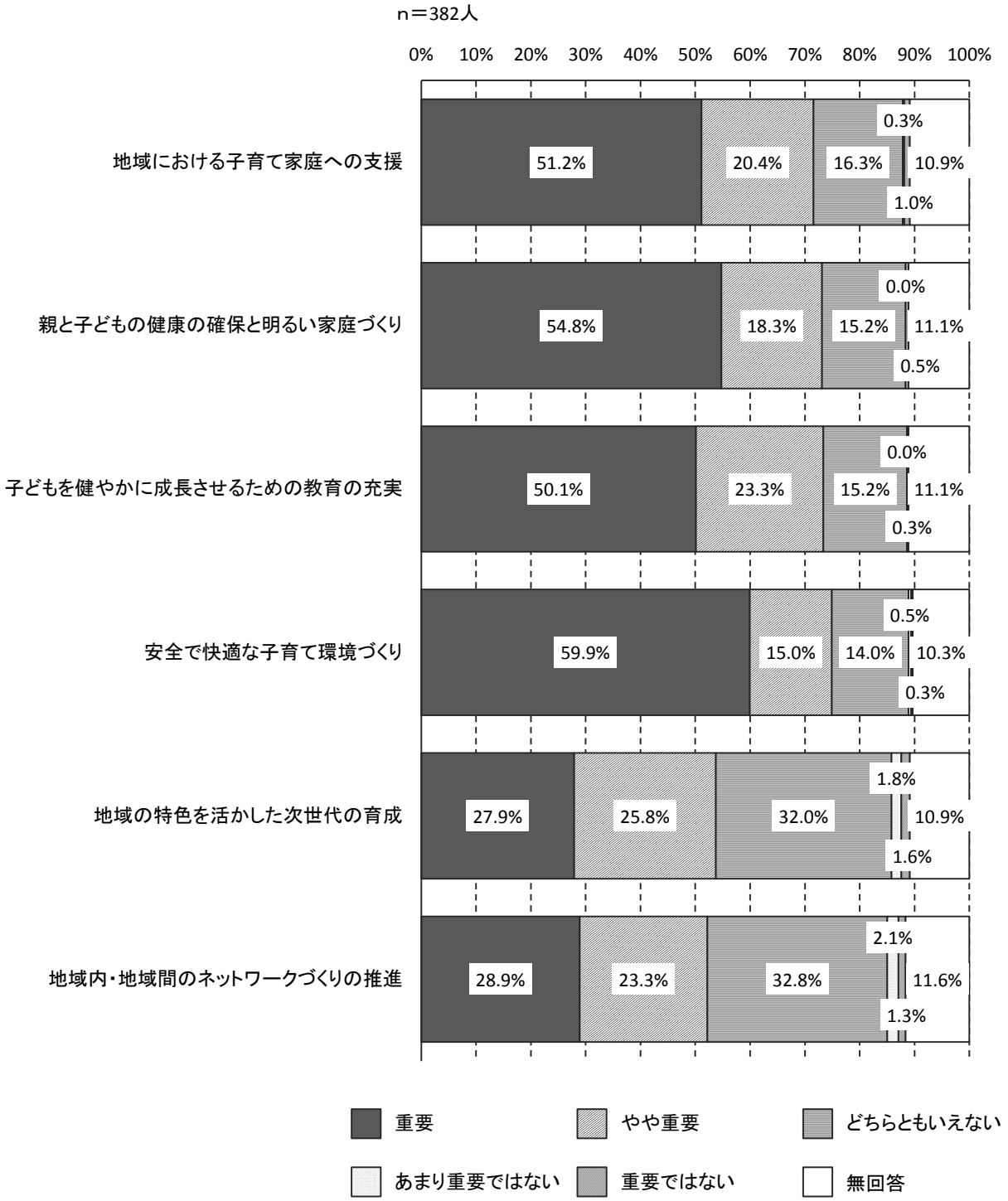
■現在の取り組みに対する満足度



伊達市次世代育成支援行動計画における基本目標ごとの主な取り組みに対する満足度をみると、「親と子どもの健康の確保と明るい家庭づくり」、「子どもを健やかに成長させるための教育の充実」、「地域における子育て家庭への支援」については満足度（「満足」+「まあ満足」）が２割を超えて高くなっています。

一方、「安全で快適な子育て環境づくり」、「地域の特色を活かした次世代の育成」などは不満度（「やや不満」+「不満」）が満足度をわずかに上回っています。

■今後の取り組みにおける重要度



伊達市次世代育成支援行動計画における基本目標ごとの主な取り組みに対する今後の重要度についてみると、「地域の特色を活かした次世代の育成」、「地域内・地域間のネットワークづくりの推進」については「重要」という回答が３割にとどまっていますが、他の取り組みについては「重要」という回答が半数を超えて最も多くなっています。

■満足度と重要度の状況

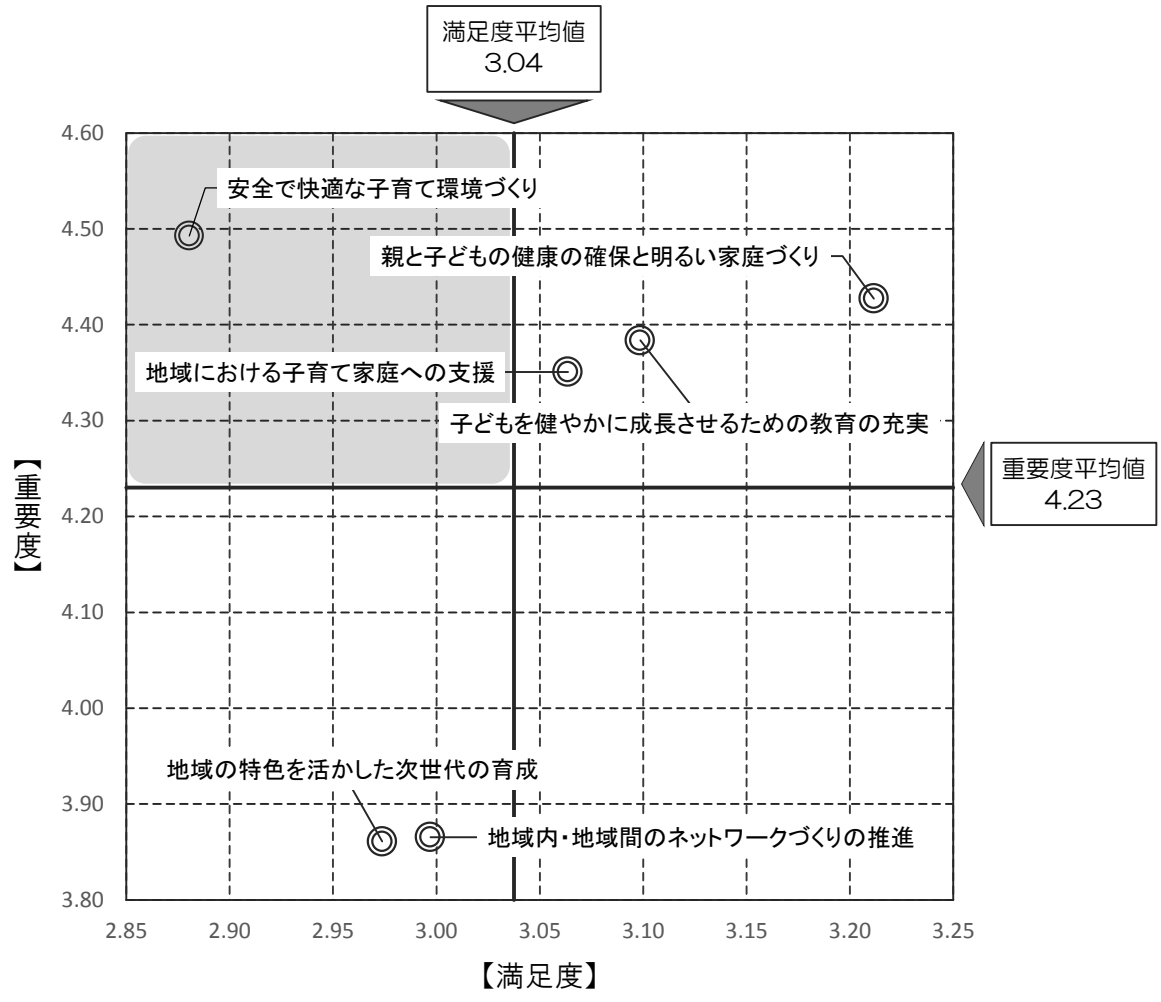
【①満足度】

満足＝5 点、やや満足＝4 点、どちらともいえない＝3 点、やや不満＝2 点、不満＝1 点

【②重要度】

重要＝5 点、やや重要＝4 点、どちらともいえない＝3 点、あまり重要ではない＝2 点、重要ではない＝1 点

○①満足度と②重要度について、各回答を上記のように得点化し、各取り組みの平均得点を整理したものが以下のグラフです。
○横軸に満足度の平均得点、縦軸に重要度の平均得点を使用して、取り組みごとの満足度と重要度の関係を整理したものが次頁のプロット図です。

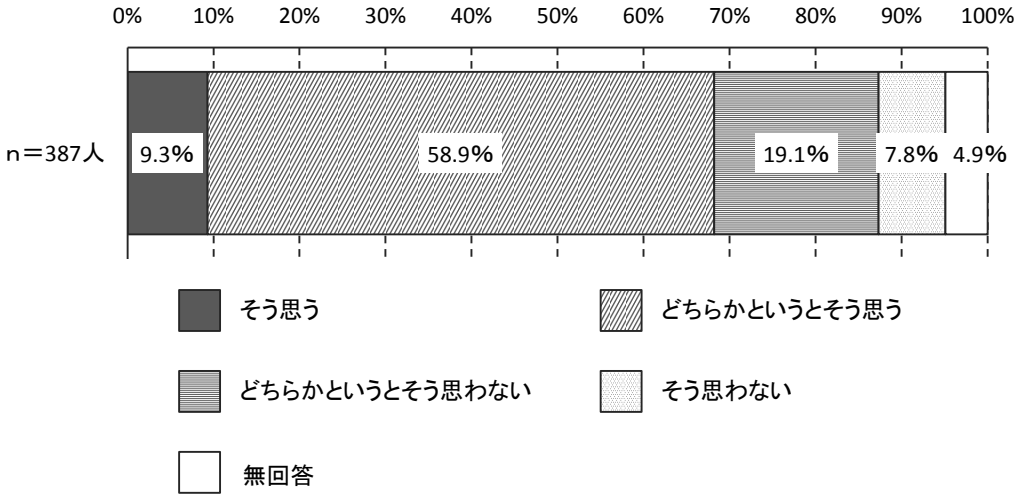


【各領域の内訳】

【最重要課題領域】	【維持向上領域】
重要度が平均値より高いにもかかわらず、満足度が平均値より低い取り組み ・安全で快適な子育て環境づくり	重要度・満足度ともに平均値より高い取り組み ・地域における子育て家庭への支援 ・親と子どもの健康の確保と明るい家庭づくり ・子どもを健やかに成長させるための教育の充実
【重要課題領域】	**【方向性の再検討領域】**
満足度・重要度がともに平均値より低い取り組み ・地域の特色を活かした次世代の育成 ・地域内・地域間のネットワークづくりの推進	満足度は平均値より高いものの、重要度が平均値より低い取り組み

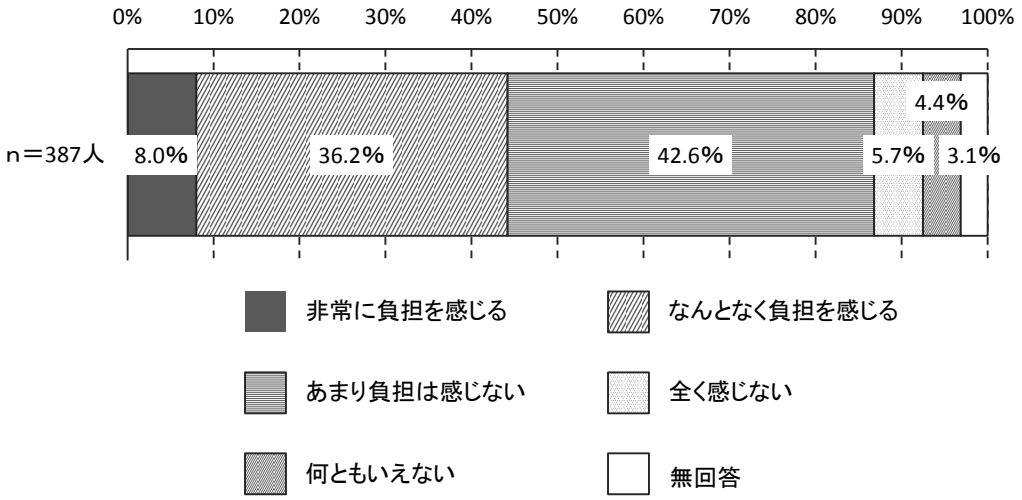
伊達市次世代育成支援行動計画における基本目標ごとの主な取り組みに対する満足度と重要度の関係をみると、重要度が高いにも関わらず満足度が低い評価ギャップの大きい取り組みは、就学前児童と同様「安全で快適な子育て環境づくり」となっています。

（3）伊達市における子育てのしやすさ



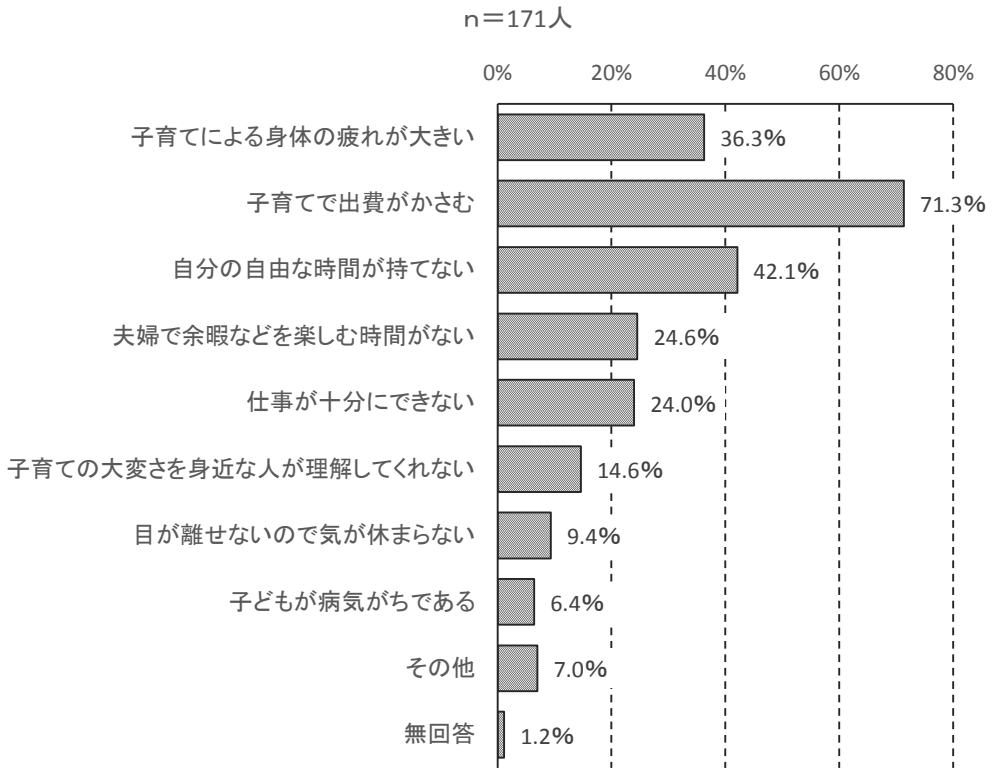
伊達市における子育てのしやすさに対する評価についてみると、子育てしやすい（「そう思う」+「どちらかというとそう思う」）という評価は 68.2%と７割近くを占めています。

（４）子育てに関する負担感



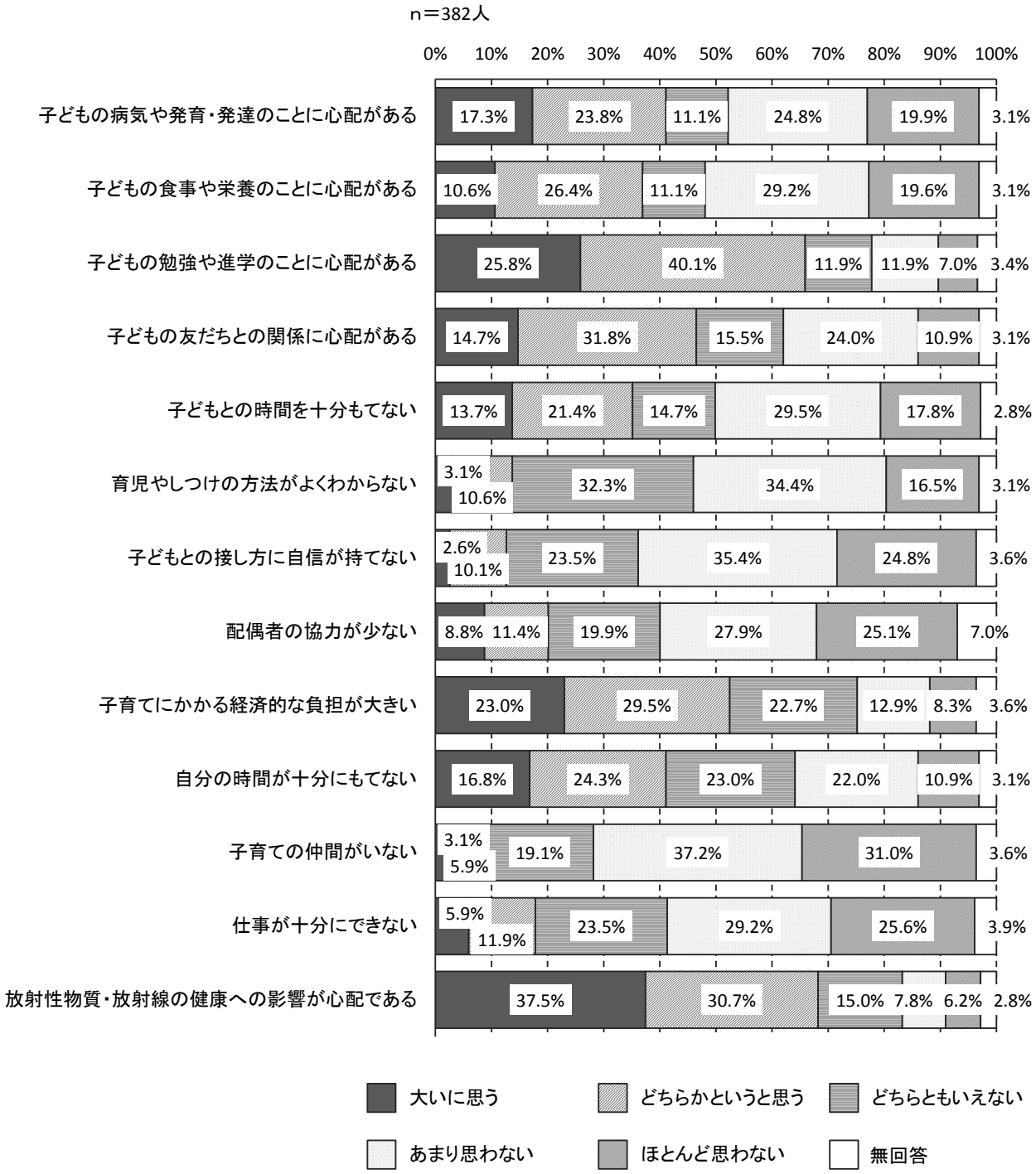
子育てに関する負担感についてみると、「非常に負担を感じる」（8.0%）、「なんとなく負担を感じる」（36.2%）をあわせると、44.2%と４割以上が何らかの負担感を感じるとしています。

■子育てをする上で特に負担に思っていること



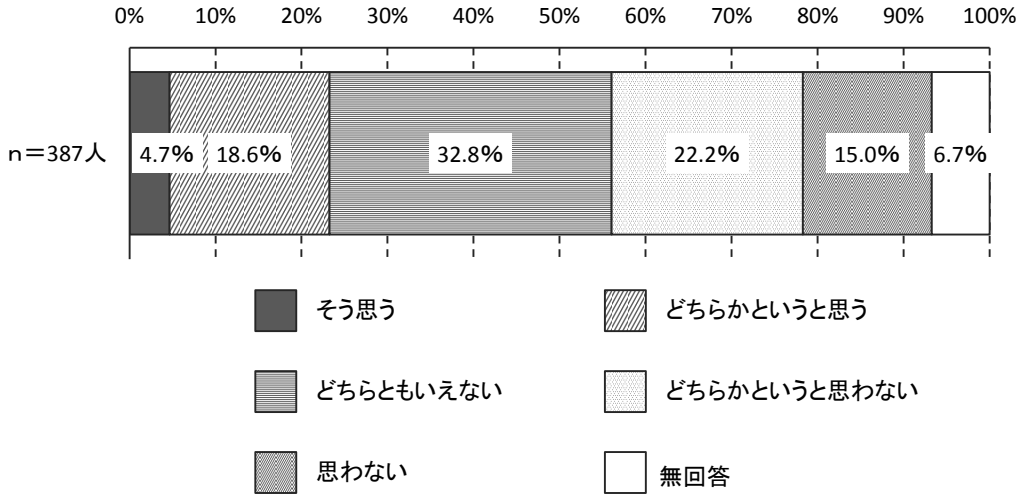
子育てをする上で特に負担に思っていることとしては、「子育てで出費がかさむ」への回答が 71.3%で最も多くなっています。

（5）子育てに関する悩みや気にかかること



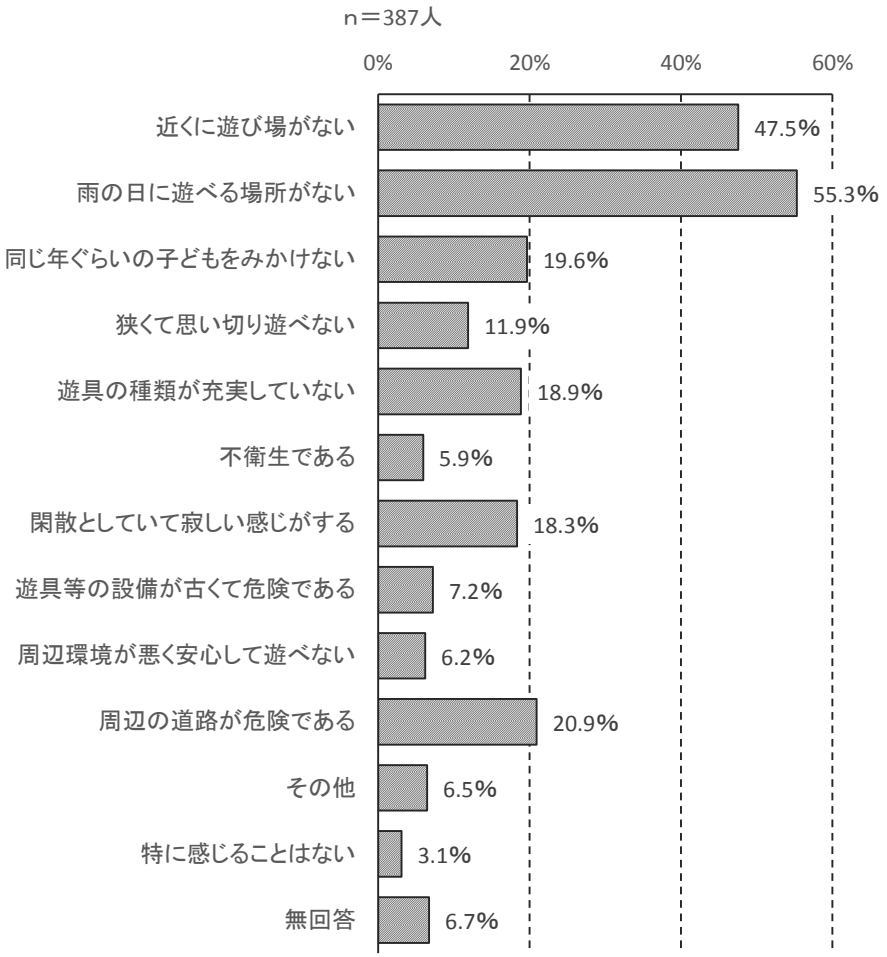
子育てに関して悩みや気にかかることについてみると、「放射性物質・放射線の健康への影響が心配である」については「大いに思う」という回答が 37.5%と４割近くを占めて最も多く、「子どもの勉強や進学のことに心配がある」（25.8%）、「子育てにかかる経済的な負担が大きい」（23.0%）なども「大いに思う」という回答が２割を超えています。

（6）子どもや親が安心して外出できる環境に対する評価



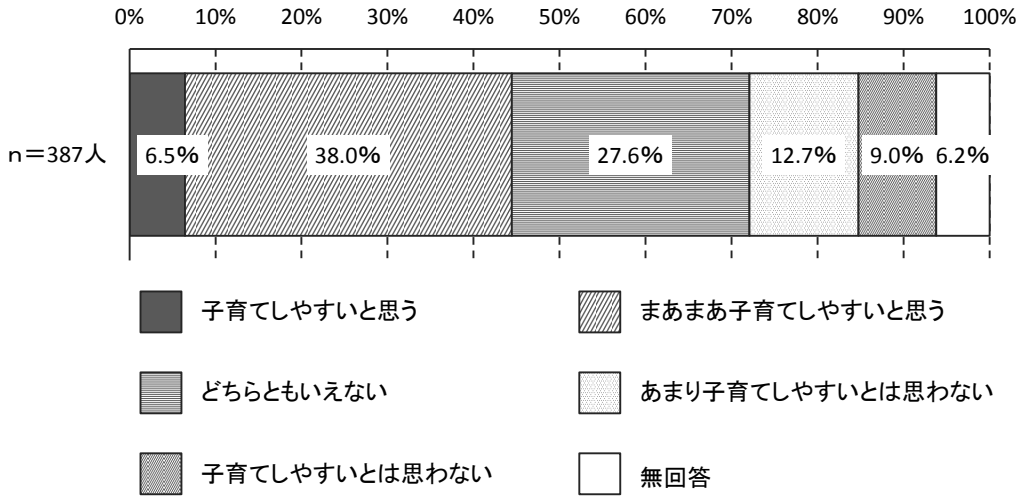
伊達市は、子どもの遊び場等子どもや親が安心して外出できる環境（子どもの遊び場や公園等）に対する評価をみると、「そう思う」（4.7%）と「どちらかというと思う」（18.6%）をあわせると、安心して外出できる環境になっていると思うと評価した方は 23.3%と２割強にとどまり、なっていると思わない（「どちらかというと思わない」+「思わない」）という評価をした方が 37.2%と４割近くを占めています。

（8）子どもの遊び場について日頃感じていること



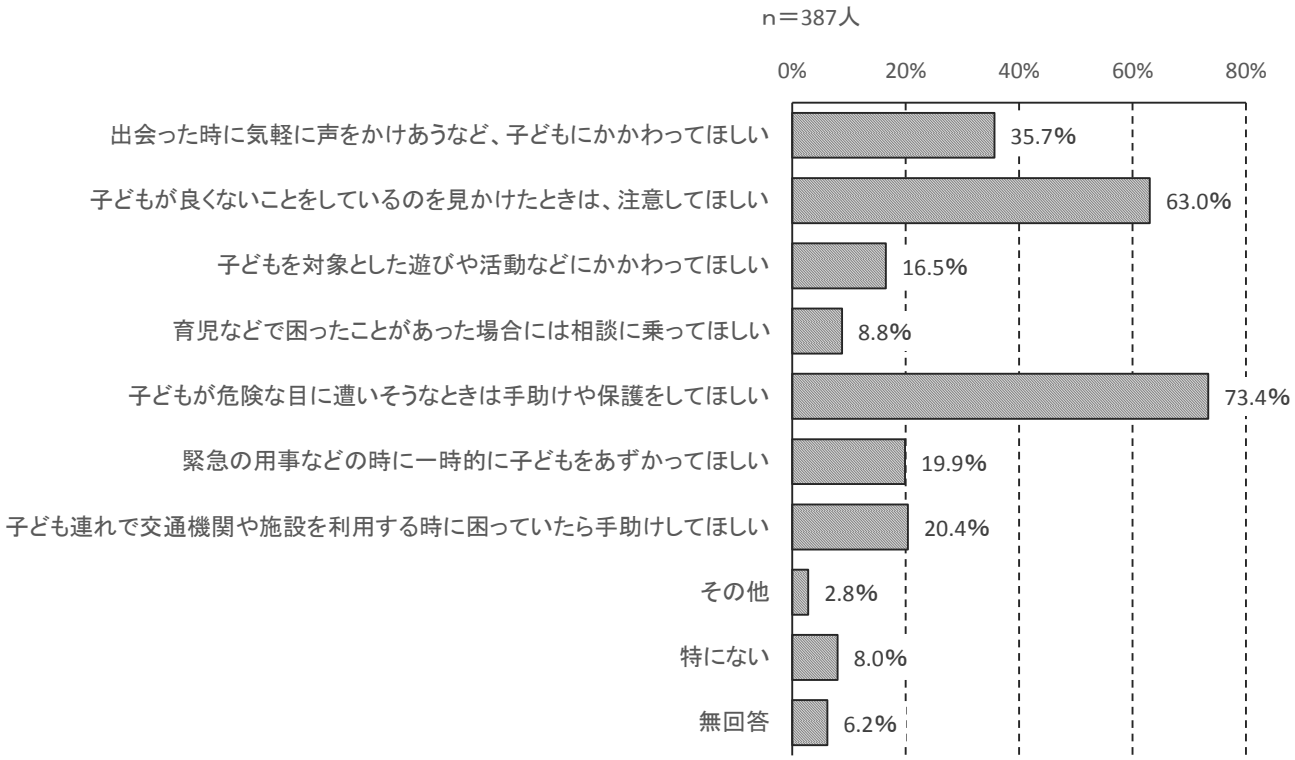
子どもの遊び場について日頃感じていることをみると、「雨の日に遊べる場所がない」（55.3%）、「近くに遊び場がない」（47.5%）への回答が半数前後で多くなっています。

（9）住まいの地区における子育てのしやすさ



住まいの地区は、子育てのしやすい環境だと感じるかを聞いたところ、「まあまあ子育てしやすいと思う」が 38.0%と最も多く、「子育てしやすい環境だと思う」（6.5%）をあわせると、44.5%が子育てしやすい環境だと思うとしています。

（8）子育てをする上で近所や地域に望むこと



子育てをする上で、近所や地域に望むこととしては、「子どもが危険な目に遭いそうなときは手助けや保護をしてほしい」という回答が 73.4%と最も多く、ついで「子どもが良くないことをしているのを見かけたときは、注意してほしい」が 63.0%、「出会った時に気軽に声をかけあうなど、子どもにかかわってほしい」が 35.7%で続いています。

平成２５年度
伊達市　子育て支援に関する
調査結果報告書

平成２６年４月

伊達市教育委員会 こども部こども支援課
〒960-0692
福島県伊達市保原町字舟橋 180 番地
電話:024-577-3128